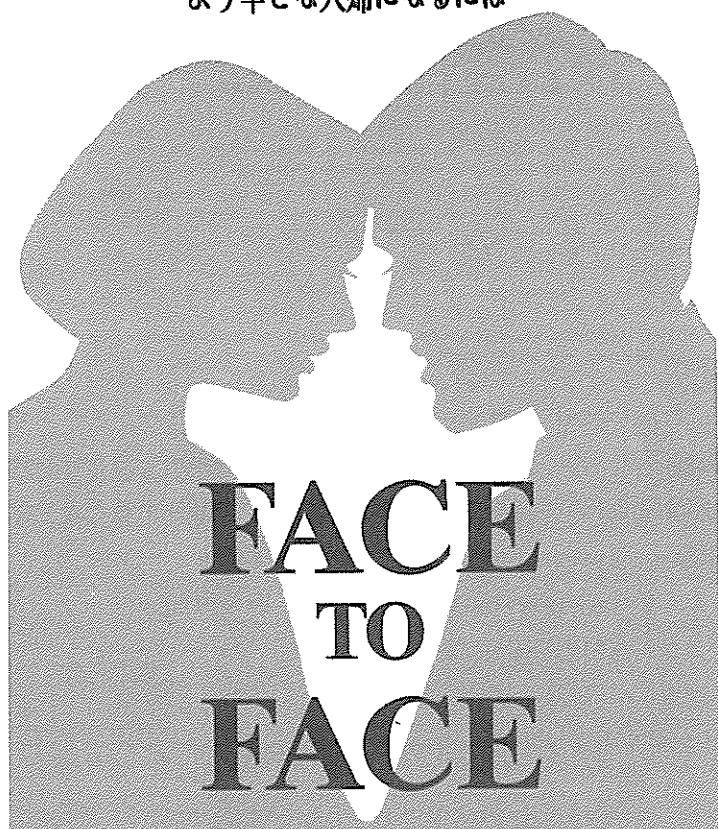


顔と顔とを合わせて

—— より幸せな夫婦になるには ——



ガブリエル・カルボ著

II

FACE TO FACE

(ISBN: 0-936098-57-0)

BECOMING
A HAPPIER MARRIED COUPLE

BY
GABRIEL CALVO

顔と顔を合わせて

(C) 1988年 International Marriage Encounter (国際マリッジ・エンカウンター) によって著作権所有。この本あるいはその一部は、出版元であるInternational Marriage Encounterの許可なくいかなる手段にせよ複製することを禁じられています。出版元: International Marriage Encounter,
955 Lake Drive, St. Paul, MN 55120.
(612)454-6434

イラスト: クリスティーヌ・クルーガー(Christine Krueger)

フランシスコ会聖書研究所の許可を得て、
フランシスコ会聖書研究所訳注聖書を使用しています。
(本文中にフランシスコ会訳と明記。特に明記なき場合は、FACE TO FACE原文より訳出)

自分自身を受け入れるために

自己の姿をよきはじきりといえるには

イメージというものについて私たちが語るとき、しばしば、人が鏡に自分の姿を映して念入りにチェックしている様子にたとえることができます。私たちが自分を鏡に映して見るとき、鏡に映っている自分の像（イメージ）を見ていることはもちろんわかっています。鏡に映っている像は、私ではありますが、同時に、ほんとうの意味での自分ではありません。鏡は、私たちの像を、単に外見の特徴にかぎって映し出すのみです。私たちの心の中や精神的な部分を映すわけではありません。私たちの自己についてのイメージ（姿）は、外にあらわれていることであれ内面に秘められていることであれ、私たちが思っていること、私たちが感じているもの、です。

このことに私たちが意識的であろうがなかろうが、だれでも自分はこういう人間なのだと思います。こんなことでよくあり

ます。そのイメージが正しいかどうかに関係なくそういったイメージをいただく、あるいは、そのイメージが生活に影響をもたらすのは、きわめて現実的なことです。私たちの持つ自己の姿が、感情、活動、行為、あるいはなんらかの能力に影響を及ぼすのです。

自分自身に対して持っているイメージというものは、自分たちが持っている他人との人間関係によって形作られていくものです。他人が私たちに示す態度によって、自己の姿は発展していきます。心理学者たちは、他人の態度が自己のイメージを形成してくれることについて遡っていくと、私たちの幼児期にまでたどりつくことができると、言っています。したがって、他人が自分のことをこう思っているに違いないと思っている、そのことこそ、私たちの自己の姿をつくりあげていっているのです。また、私たちの自己の姿は、私たちの実際の体験、もっている才能、さらに自分の限界によっても、成長していくものです。

自己のイメージには、肯定的なものも否定的なものもあります。私たちが自分のことを「おう、いいじゃないか、おまえ」と、価値ある人間として認めてやれば、自分に何ができるかでないかに関係なく、私たちは、肯定的で健全な自己の姿を持

つことになります。しかし、もし私たちが自分のことを「たいした奴じゃない、おまえなんか」「ろくなこともできないじゃないか」と見なししてしまうと、それゆえ私たちは、貧困で否定的な自己のイメージを抱いてしまうことになるのです。

自分自身について私たちが持っているメンタルなイメージは、自分の人生とその人間関係を豊かにし充実した方向にもって行く上で、きわめて重要な要因なのです。自分自身について乏しく否定的な考えをもっていれば、親密で長くつづく人間関係を持つ可能性があっても、傷つきやすい人間になってしまいうでしょう。もし、自分などは愛されるに値しないか、あるいは価値のない人間なんだと、自分自身をそう描き出すならば、それがもとで、はなから、人から拒否されるにちがいないと思ひこんでしまふでしょう。拒否されるにちがいないと感じる苦痛は、私たちが心かよいあい親愛に満ちた人間関係を作ること妨げるでしょう。

他人に対して自分がどういう態度を示すかを見ることによっても、私たちが自分自身についてどう思っているか、たくさんの方がわかります。

私たちが自分自身をどのようなものと見ておられるかによって、

私たちの生き方も大きく影響されます。貧困な自己のイメージしか持っていないと、自分自身の正体を見失ってしまうことになり、混乱し、失望します。他人を喜ばせようと努めると、自分には価値があり、人から感謝される存在なのだ、感じられるようになり、自分に、自分にとっての現実のニーズや欲求によってではなく、他の人が自分にしてほしいと望んでいることに導かれて生きるようになります。

肯定的な自己の姿は、自分らしさを識別していく道において、本質となる要素です。結婚生活を意義のあるものとして充実させていくためには、必要不可欠な事柄なのです。

自尊心を適切に深めるために

ここでいう自尊心とは、「肯定的に、公平さをもって、健全に、自己を愛すること」をさします。自己を尊重すること、自信を持つこと、自分に対して思いやりを持ちつつ価値のあるものとして自己を認めてやろうとする心のあり方、自尊心とはそれらのうらにひそんでいる心の意識です。自尊心は、たいいていの場合、自分自身に満足し、愛すべきものとして自分を認めていることを意味します。自尊心は、いつも持っていない

ものではありません。だれでも私たちには、失望したり、気持ちの浮き沈みがあったり、絶好調のときやドン底のときがありますから。しかし、くじけたり、しくじったり、フラストレーションを感じているときさえ、自尊心を保つことは可能なのです。私たちが真実に、自分自身のありのままの姿を認めてやるならば、自分に愛情を持つことは、まぎれもないふさわしいこと、成熟し、健全さをそなえたこと、といえます。

自己に対する不健全な愛着を、自己本位といいます。道理にあわない賞賛を自分のものにしよとすると態度のことです。そういう自分に対する執着は、不健全で未成熟なものです。必要以上に自分を強調しているからです。公平さとバランスある態度が失われると、自己本位が顔をだしてきます。自己本位な態度は、どんなとき現われるのでしょうか。私たちがありのままの自分の姿を見る代わりに、自分の持っているものや、していることに注意を向けるとき、それは浮上してくるのです。自分を身をふさわしく愛することを、このような自己本位な態度やナルシズムと混同すべきではありません。心の中で自我が膨脹し幅をきかせるようになるということは、実は、自分を軽蔑し、自分を憎んでいることを隠す、ずるがしこい仮面なのです。

肯定的な自尊心とは、私たちの心のもっとも奥深いところに

あるニーズなのです。自分自身の価値を認めることができなくては、私たちは、自分自身に満足することができません。私たちの根本にあるこのニーズに基づいて、ひらめきが生まれ、自分に価値があることに気づくのです。健全な自尊心は、すべての愛にとって、その出発点となるものです。まず自分自身を愛さなくては、私たちは他人を愛することができません。聖書を見てみましょう。自尊心は、必須なものです。「自分自身を愛するようにして、あなたの隣人を愛しなさい。」(マタイによる福音書二十二章39節)

自尊心が足りないことは、その人にとって、たいがいの苦しみの原因です。結婚を脅かし、家族、そして最後には、社会にも影響します。自尊心の足りない人は、孤独で、愛されていないと感じ、誰にも何にも守られていないと思っています。ひどく攻撃的にでるかと思えば、きわめて消極的な態度を示します。ですから、人との関わりの中で、ごくちょっとした満足しか見いだせませんし、人にも与えません。

十分な自尊心を持っている人は、自尊心の足りない人とはちがった待遇を受けます。ちがった待遇どころか、そういう人と一緒にいるのはもっと喜ばれるものです。

自尊心が足りなかったり、貧困なものだったり、あるいはまったくない場合の、しるしとなるものを、以下にあげてみましょう。

鯨 誰も自分を好いていない、まわりは完全に敵ばかりだ、そんな環境にいる自分を見いだす。

鯨 自分自身をろくでなしと感じており、自分は正しいんだとばかり、自己防衛したくなる傾向がある。

鯨 次のような表現を使う。「誰も私のことなんか愛してないわ」「おれなんか、役立たずさ」「ぼくには、まともなことなんか何ひとつできやしない」「おれは、くずさ」「どうせ変わりっこないわ、私なんか」

しかしながら、聴いてください。よい知らせがあるんです。私たちは、自分をろくでなしと見なす悪習慣をうちやぶることができるんです。そして、私たちの持っている、今は貧困かもしれない自尊心を、もっと豊かなものにすることができるんです。

ありのままの自分自身を受け入れるには

肯定的な自尊心を持ったためのキーポイントとなるのは、自己

を受け入れることです。自己を受け入れない人の人生は、人間のもっとも基本的なニーズが満たされていない人生といえます。

自己の受け入れとは、自分のありのままの姿を歓迎することであって、自分がこうあるべき人間であるという、その姿を受け入れるのとはわけがちがいます。今の自分自身を、一個の存在としてまったく受けいれるとき、私たちの自己の受け入れはほんもので、欠けたところのないものです。一個の人間として自分自身を受けいれることは、自分の欠点を否定したり、それについてよくよ考えたり、言いのがれをすることを意味しません。自己の受けいれをしたからといって、私たちのやっていることがなんでもかんでも美しく素晴らしいものだというわけでもありません。私たちが自分の長所とともに、欠点をも直視できたとき、自分たちの持っている真のユニークさと対面することになるわけです。

したがって、まずこうなります。自分たちの持っている自己の価値を深めていくには、最初の段階として、私たちは、自分は貧困でたいしたことのない自尊心しかもっていない、と正直に認めてしまうことです。

次の段階は、私たちの持っている欠点や短所を認識すること

です。私たちがこれを受けられるのは、もっとも難しいことの部類にはいるでしょう。自分自身を受けられるときのつらい感情を克服したとき、つまり、自分のあら、限界、道徳的な不完全さ、罪を認めたときこそ、内的な平和がもたらされます。さらに、こうして自己の受け入れを追求していくには、自分との和解ができていないことが最大の障害になっている、とはっきりわかってくるにちがいません。

したがって必然的に、すぐれた自尊心を手に入れるための第三段階は、自分の心の中にある自己との和解を体験することです。これは、自分自身をまったくトータルにあますところなく受け入れることで、実現されます。自分の持っている素晴らしさも醜さも受け入れるのです。単に、自分自身の否定的な側面を見きわめ、しかもそれに屈しないということにとどまらず、神の前に立っている赤裸々な自分に気づきそれを発見するわけです。

そのあとで、新たな出発として、自己との和解を体験し、成長し成熟していく道のりを歩み始めるようになります。これが、つまり、第四段階となるわけです。私たちがこの第四段階にふみこんでいくのは、明日「第二週・六日目」の課題です。

証し①

夫：

私は自分自身を好ましく思っています。しかし、今やっている仕事のおかげで、自分をぞんぶんに受け入れてはいないということがわかってきました。悪意をもって他の人と自分を比較しているんですよ。自尊心もとても成長してきてはいるんですけど、それにもかかわらず、ストレスがひどくなると、あともどりしてしまい、自分が嫌いになってしまっています。

自尊心が足りなくなっていることから明らかです。そんな時、私は、ありのままの自分でいられず、オープンさもなく、正直な態度もやさしい気持ちも持てなくなっているんです。自分のほしいものを率直に口にしたり、それをわかるうとしなしいのは、私が自尊心をもっと必要としている証拠ですよ。

自分なりの考えや意見を持つに自分は値しないといくぶん思いこんでいます。出世するのがこわいんです。この事実に気づいて、とりくんでいることをありがたく思っています。

自分自身のことではいっばん受けいれるのがむずかしいのは、ほとんどのことに対して真っ向からとりくもうという意欲に欠けていることです。大勢に身をまかせて、さからわず争わずというアプローチをする傾向をもっています。問題を受けいれて解決していくためにエネルギーを使うよりも、自分自身に合わせちゃうんです。好かれはしますがね。

妻：

私は、こんな自分であることを楽しんでますし、私なりのユニークさや才能について感謝しています。料理をするときは充実感がありますし、新しい料理にトライするのも自信があります。日除けとか家庭のためになるものを作るのも楽しんでやっています。コンピューターについてももっと勉強したいと思っています。なんでも、自分の生活を楽しませてくれるのですわ。私が私なんですから。

証し②

妻：

私、特別に幸せを感じています。私自身のことについてさらに発見があったからです。あまりにも長い間私は、煮え切らないできましたが、今やっと、自分にとってふさわしいと思っていることをできるようになったんです。そう確信しています。

いつだって、他の人が、私にはそれがふさわしいと思うことをやってきてたんです。自分自身のために意思決定することが私にもできるとわかって、解放されました。他人が自分について考えていることに頭を使うのなんかとは、雲泥の差ですわ。今になって、自分のことをどれだけ愛することができるか、わからせてもらえました。でも、始めたばかりです。これからどうなるかわかりませんが、でも、気分がいい。自分が正しい方向を向いていることは、はっきりわかっています。

内省(自分を見つめる)のための質問

1 私は、ありのままの自分自身を受けいれているでしょうか？
 (はい/いいえ)
 自己を受けいれている、あるいは受けいれていないことを示すしるしをいくつかあげてみましょう。

2 自分自身を受けいれるに際し、もっとも困難だと私が考えていることは、何でしょうか？ なぜそう思いますか？

3 私は、自分ほたいいていの人から好かれていると感じているでしょうか？ (はい/いいえ)

誰に好かれていると思うか、そのリストを作ってみましょう。なぜ、彼らから好かれるのか、自問してください。

4 私の人生において、自尊心に欠けていたり、自分を大切に思えない、なんらかのそういった兆候があるでしょうか？
 (はい/いいえ)

そのいくつかを書いて表現してみてください。

5 私は、人からどう思われているかについて、自分ではどう

1 「肯定」

明るい () 楽観的 () 優しい ()
 あたたかい () 協力的 () つきあいやすい ()
 自分の能力を認める () ユーモアがある ()
 否定的な感情をコントロールする () 人助けをする ()
 寛容 () オープンである () その他 ()
 ↓『私の長所の例(104頁)』を参考にして ください

「否定」

さびしがり屋 () 優柔不断 () 責任をとらない ()
 頑固 () 短気 () 恥ずかしがり屋 ()
 暴力をふるう () 悲観的 () 内向的 ()
 忍耐がない () 劣等感 () 批判的 ()
 その他 ()

↓『私の短所の例(105頁)』を参考にして ください

2 『私の短所の例(105頁)』を参考にして ください

4 『私の短所の例(105頁)』を参考にして ください

5 「肯定」

嬉しい () 自信がある () 自由だ！ ()
 楽しい () 落ちついている () 同情 ()

思っているでしょうか？ 肯定的な感情、否定的な感情とも、書き出してみましよう。

6 私は、自分がまちがっていることを認めるのが困難でしょうか？（はい／いいえ）
実際にそうだった最近の体験をふりかえってみましよう。

7 私は、自分自身のどういう部分をゆるす必要があるでしょうか？ 自己をゆるすことは、人をゆるしたり、人からゆるしてもらったりするために、必要不可欠な事柄です。

楽観 () ()
受けいれられている ()
その他 () ()

「否定」

悲しい () 「ダメだ、私は…」 ()

不自由だ () さびしい () イライラしている ()

冷淡 () 悲観 () 見捨てられている ()

その他 ()

7 自分をゆるさないこと () 決断できないこと ()

頑固 () 完璧でないこと () 無責任さ ()

短気 () 心の傷 () 疑いやすいこと ()

人に頼りすぎる () 人とうまくいかない ()

その他 ()

↓『私の短所の例(105頁)』を参考にしてください

成長し成熟するために

成長するには

私たちひとりひとは、心の奥底で、今以上の自分になりたい、一個の人間として成長したい、と望んでいるものです。

昔から人間的成長という語の意味といえば、「完璧な自分になる」「自己を支配する」「己に打ち勝つ」というようなことがあげられてきました。現代では、「人間としての成長」とは、「自己を発展させる」「自己実現」「自己を確立する」という意味になってきています。簡単に言えば、「人間としての成長」とは、満ち足りた人間になるためのダイナミックなプロセスをさします。

私たちが持っている成長の可能性は、人間の努力のほとんどあらゆる分野において、巨大なものです。実際、年齢や状況とはかかわりなく、すべての人間は、自分の人生を全面的に健全

な方向に向けて成長させていくことが可能です。しかしながら、私たちは、人生を豊かにし満ち足りた方向に引っぱっていかれる、そんな可能性をだれでもみな持っているながら、ほんのわずかな人たちだけしか、自分たちの望むだけの成長を遂げることができません。これには、多くの説明づけができるでしょう。成長には、変化がつきものです。そして、変化とは、従来の古いやり方から新しいあり方に移ることです。これには、たいへんな努力を要する複雑な道を通らなければなりません。

人間の成長を、一粒の種のそれにとえることができます。発芽した種は、いまだ地中に隠れたままであっても、成長を開始しています。ある日、緑の新芽が地上に顔をだします。そして、さらに成長を続けます。これは、目には見えないけれども、地下でその成長活動が続いているからこそ、そうなるわけです。私たち人間の成長も同様です。その成長は、人知れぬ段階から始まり、隠されたまま継続していきます。

私たちは、成長のためには何もなしえませんが、私たちができることといえば、生まれながらに私たちの中に備わっている、人生の根源的な原理あるいはその働きが効果的に作用するように、成長のコンディションを整えることぐらいです。花や木、作物の場合を例にとってみましょう。私たちは、ミネラル（無機質）

を適切に含んだ土を準備します。それから、十分な水を与え温度を保ってやることもできます。しかしもし、適切なコンディションが守られないならば、私たちがいくら望んでも、それらは成長することができないわけです。同じように、人間の成長の場合も、望むだけでは十分ではありません。ぴったりのコンディションを作ってやるようにする必要があります。そうすれば、私たちの身体は成長し、心も成長し、したがって、人間としても成長していきます。

実に、私たちは、身体的成長にとどまらず（身体的成長は自動的なものです）、心という部分においても、満ち足りて統合され成熟した自分自身にまで成長していける可能性を秘めたものです。そして、この成長は、ひとえに、私たちが決断をくだし且つ努力していくか否かにかかっています。人間としての成長は、自分自身の外からの教育を受けいれ、努力を積み重ねていった結果なのです。

成長は、人生における絶え間ないチャレンジです。移りゆく季節を見るたび、私たちは、生きるということは変わり続けることなのだ、と思い起こすことができます。この瞬間は、二度と来ません。人生には、動きがつきものです。動きがなく活気を失った人生は、まもなく死んでしまうでしょう。人生は、プ

ロセス（過程）です。旅路です。躍動する活力です。そうでなければ、無です。

成長することは、創造の業のうちで、もっとも美しいプロセスなのです。

成熟するには

私たちは、悪意がないにしても、自分たちの未熟さのために、自分自身や他人を傷つけてしまうことがあります。利己主義、自己本位な態度、子供っぽさは、一個の人間としての未成熟をあらわすしるしです。人間ひとりひとりの根本的なチャレンジとして、この、より成熟していくことがあげられます。

専門家によれば、教育の失敗は、人間ひとりひとりの心の中に隠されている可能性を把握するための手段を提供していないことだそうです。人間として生きていくこと、さらに、人と関わる中には、多くの困難があるものですが、これは、成熟を目指すその人の進歩が欠けていることによるのです。まさにこのために、理解されずにいることがあります。つまり、進歩とは、内面的な成長のプロセスなのであって、外面的に形作られるプ

ロセスのことではないのだ、ということ。いいかえると、私たちが必要としている成熟を身につけるためには、知識としてそれを学習せねばならぬというよりむしろ、体験することが大事なのです。

成熟することは、心理的に、自分自身の内面において成長することです。私たちが自分の持っている現実、弱さ、責任、誓約すべき事柄と向き合ったとき、成熟が育ち始めます。成熟するとは、自分自身についての責任を担うことを意味します。それは、ひとりの人間が調和のとれた成長をしていくことをいっているのです。つまり、ほんとうの意味での内面の一致（統合）です。ひとりの人間の中に要素として存在する、感情も理性も意思も統合されるので、その人は、現実と向き合い自分自身を人生に投ずることによって、責任をもって生きていくわけです。

成熟とは、身勝手なものではありませんし、利己主義とは関係のないものです。自分勝手な態度や利己主義は、私たちが可能性を十分に活かせる機能を不全に陥らせる、いろいろな状況を作り出します。私たちは、人間としての成長が疎外されます。

そのような状況（コンディション）としては、罪悪感、焦燥感、ストレス、意気消沈、怒り、フラストレーションなどがあります。一方、成熟さは、そのような状況とうまく取り組み、その

たずなをとり、コントロールします。

成熟した人間とは、一時的な感情や気持ちに反応するのではなく、はっきりとしたねらいをもって、理性的判断をくだしながら生きていくことのできる人です。成熟した人間とは、実際、内面的に大人で、否定的且つ破壊的ともいえる衝動のなるがままになっていない人のことです。成熟した人間ならば、思考、判断、識別、感情、欲求、愛、奉仕において、すすくと成長していきます。

つまりは、私は、次のように言いたいのです。成熟は、年齢と直接に関係するものではない、ということ。成熟は、どれほど長い年月を生きてきたかによって決まるものではありません。このことは、40歳とか60歳になっても、いまだに未成熟な人がいるかと思えば、一方では、たいへんまれなケースですが、わずか十四・五歳あるいは二十歳そこそこでも、かなり成熟なものにしている人がいる事実を見れば、なるほど、とうなずけます。

結婚した人間として

私たちには、人の心を変えたり、物事を思いのままに動かすことはできません。しかし、成熟すると、人々と平和に暮らし、物事に動じない力が身についてくるものです。

私たちが、結婚した人間として、成長し成熟していくためには、最初のステップとして、自分たちの結婚生活が目指していることとするゴールを設定しなければなりません。これを行うために、正直に、次の質問、あるいはこれと似たような質問について、答えてみましょう。

◆ 個人として、私は、自分たちの結婚生活において、何を目指しているのでしょうか？

◆ 私たちの結婚生活の、中心にすえる（あるいは既にすえている）目標（ゴール）とは、何でしょうか？

◆ まったく正直にふりかえって、私は、その目標に向かって、わき道にそれず、止まることなく、歩んでいるでしょうか？

結婚生活の中心として設定した目標が、自分の配偶者との肯定的且つクリエイティブな人間関係を目指したものであるなら

ば、私たちは、人間としての成長や成熟をそこで見いだすことができるでしょう。実際のところ、人間関係から孤立してしまった人の中に、成長や成熟を見いだすことはできません。最高の人間関係を達成することを通してのみ、私たちは、人間としての可能なかぎりの成長をものにします。反対に、人間らしいこの関係を実践する力がないことは、人間の本性にひそむ自己破壊的なあらゆる傾向を助長する原因となるのです。以上のことから、こう結論づけることができます。すなわち、人生、成長、成熟を確実にするには、ひとえに、対人関係という基盤に関わる、その人のふところの広さ次第、ということなのです。

このようなタイプの成熟には、必ず、「誓約」というものが伴います。この視点から見れば、結婚とは、単なるふつうの人間関係ではないのです。しかしながら、一般の大部分の人々にとっては、結婚は、成長していくうえで最高のチャンスを提供するものであり、また同時に、自分以外の人が持っている、必要不可欠で、重要且つ社会的な目的のため、喜んで自ら奉仕するよい機会となります。

自分とは反対の性をもつ選ばれた一人の人間と、人生を分かち合う「誓約」をする結婚生活以上に、人間としての成長をうながすチャレンジが、ほかにあるでしょうか？ 結婚という誓

約を生き方として選ぶときにもちあがってくる、さまざまな、チャレンジ・責任・選択は、困難なものですし、危険でさえあるかも知れません。しかし、誓約こそ、結婚した人間が成長し成熟していくための、最初の一步になり得るものです。

私たちの第二の段階は、自分たちの結婚関係に心を傾注して取り組んでいくことです。そのためには、ゆるしと平和を誠実に互いに与えまた受けとることを通して、愛に満ちた和解を体験することです。

準備はいいでしょうか？ 何も言わないで。ただ、心をオープンにして、次の証しへと読み進んでください。

証し①

夫：

いろんな意味で、僕は、未熟な人間だと思う。でも、成長を体験できて、とっても感謝しているところだよ。今知った責任を自分がどう取り組んできてたかと思うと…、ぞっとする。でも、前より幸せなんだ。もっと成長し成熟するために、

僕は現に前進しているんだからね。

僕は、次のやり方で、成長していく必要があると思う。

つまり、

☞ ありのままの自分をよりよく受けいれること

☞ 自分自身のために、責任を受けいれ、になうこと

☞ 必要なりスクなら、自分を困難にさらしても、引き受ける

☞ 君との、人間らしい関わりを育てていく

妻：

私は、人から面倒をみてもらう必要があるんだけど、それは、今の私にとっては、健全なものではないと思います。その結果、あなたに対して批判的になってしまおうし、フェアな態度になれないの。自分が身勝手で、自己中心的なんだってわかります。そういう時、私は、憎しみを心に抱いているし、「ああ、何て、かわいそうな、私」という、自己憐憫に陥ります。ジェラシーみたいなもの…。あなたが仕事でまた出世したときなんかにはね。

あなたのあら探しがたくなるし、私よりも仕事が大事な

の！って言いたくなるし、でも、心の中では、それは違っていてわかってるのよ。ただ、私には、それが、簡単な責任逃れの手なの。そうすれば、私は、自分の欠点を見ずにすむし、自分を変えなくてもいいから。

長しなければいけないと思う。私は、私なんだから。私の中に素敵なものを発見するためにもね。

証し②

妻：

誰か他の人と一緒にいることは、私にとってはおやすい御用よ。でも、私は、もっと、自立できるように成長しなければいけない。もっと自分を大切にすることが必要なんです。そうすれば、私の人間としての価値について自分がいだいてる感情のことで、他の人に甘えずにすむわけだし…。

私が望んでいる自分になっていないとき、自分自身を受けいれるのは、私には、むずかしいことね。私が幸せになるには…って考えるんだけど…、あの人が変わればとか、もっとお金があればとか、仕事をやめちゃえばとか、この手術が終わりさえすればとか、もっといい天気だったら…など。でも、全部現実的じゃないわ。毎日楽しくすごせるように自分が成

内省の(自分を見つめる)ための質問

1 私の人生をふりかえって、自分勝手だったり利己主義であるしるしがあるでしょうか？(はい/いいえ)
それを書き出してみましよう。

2 私は、成熟した人間だと、自分のことを見なしているでしょうか？(はい/いいえ)
なぜ、そう思うのでしょうか？

3 私は、一個の人間として、成長し続けているでしょうか？
(はい/いいえ)
よくふりかえって、具体的なその例をあげてください。

4 私は、どのようなやり方で、成長していく必要があるでしょうか？
具体的に書いてください。

5 結婚した人間として、私が成長し成熟していくため、必要で適切な条件(コンディション)とは、どんなものでしょうか？
それについてよく考えて、書き出してみましよう。←

1 頑固 () 自己主張 () 短気 ()

侮辱する () 要求しすぎる () 忍耐がない ()

ガミガミ屋 () 傲慢な態度 () 無感動 ()

子供っぽい () 不作法 () 威張る ()

その他 () ↓参考として、『私の短所の例(105頁)』

2 自分自身を受けいれる () 自己本位に陥らない ()

否定的な感情をおさえる () より深く愛する ()

よりよく奉仕する () 嫉妬しない ()

ゆるす () その他 ()

4 前述の例を参考にしてください

5 祈り () 愛 () 通じ合い ()

受けいれ () 理解 () 信頼 ()

精神的離婚の兆候を認める () 自己との出会い ()

その他 ()

6 私の結婚生活における、今ある目標（ゴール）とは、何で
しょうか？

私は、それに向かって生きているでしょうか？

（はい／いいえ）

7 ほんとうのところ、私の配偶者と自分との個人的な関係は、
どのようなものでしょうか？

6 祈り () () 愛 () () 通じ合い ()

受け入れ () () 理解 () () 信頼 () ()

精神的離婚の兆候を認める () () 自己との出会い () ()

ふたりの関係を深める () () ゆるし合い () ()

互いに相手を褒める () () お互いの長所を認め合う () ()

その他 () ()

7 優れている／たいへんよい／よい／ふつう／悪い／ない
具体的に思いやりのある書き方で細かく描写してみてください

和解を体験するために

自分の殻から出て手をさしだすには

私たちは、プライド・ナルシズム（自己陶醉）・自己本位というような、墮落した状態（料）に閉じ籠ってしまいたくないなら、自分の殻をうちやぶって外に出ていかなければなりません。

自分自身のアイデンティティを探すための、内面の自己に向かう旅を、第二週・六日目の昨日、進めてきたわけですが、ここで私たちは、次のことがわかったと思います。

喟 私は、ユニークな存在です。しかし、不完全で、完成されていません。

喟 私は、仮面をかぶっています。この仮面で、ほんとうの自己の姿を隠しているのです。

喟 私は、かけがえのない価値観を内に持っています。また同時に、私には、多くのニーズがあるのです。

喟 私は、心の中に可能性を秘めています。しかし同様に、多くの限界もあります。

喟 私は、ひとりで生きていくことはできません。私には、だれかを愛しただれかから愛される必要が断固としてあるからです。

ほかの表現を借りれば、私たちは、自分が離れ孤島のようなものではないことを見いだしつつあるわけです。このようなわけで、私たちには、深く通じ合い、心から分かち合う必要があるので、つまり、私たちの人生においてもっとも近いパートナーである人、私たちそれぞれの配偶者と…。

私たちは、奥深い意味を秘めたこの通じ合いと分かち合いを、どうやったら、始めることができるのでしょうか？

ふたりの人間が深く通じ合うためのたったひとつのドア、それは、「和解」です。心の平和と幸せにつづく、これが、もっとも確実な道のりです。もし私たちが、くりかえしくりかえし和解を実行にうつさないなら、互いにわかり合えず、理解し合えず、親密さと愛のうちに成長していくこともできません。和解は、お互いの親愛の情をさらに深め成長していくための正常なプロセスです。さらに言えるのは、私たちがもっとも深く愛

している人だからこそ、深く傷つき得るのですから、和解こそ、お互いがより寛大な愛にふみこんで行くため、必要不可欠な最初の一步というわけです。

私たちがだれかを愛してるなら、その人を傷つけることなんかないだろう。一体全体、こんな考えをどこで私たちは学んでしまったのでしょうか？ ふたりの人が、開かれた親密な心をもって、何にもしづられず堅く結びつけられるようになるには、何ができるのでしょうか？ 私たちが内面に抱えている心の痛み、孤独感、罪深さを分かち合うことなくして、さまざまなかえや感情あるいは生き方などを、思いきって分かち合うことなどできるでしょうか？ 心の中をあかすことによって傷ができてしまい傷あとが残るということは、実を言うと、和解を体験すれば私たちは勝利をものにできることを表すしるしなのです。

私たちが自分に正直で、自己を認識しており、自分のほんとうの姿を識別し、それを実現させているかどうか、その確かさをテストしてくれるのが、真の和解です。

では、和解とは、どのようなものでしょうか？

(1) 「状態」 原文では、"circle"。第一週・五日目

「オープンさ」(2)を参照。

ゆるしを願うには

数年前流行った小説で、映画にもなった「ラブ・ストーリー」に、かなりポピュラーになったセリフがあります。「だれかをほんとうに愛したんだったら、『ごめん』なんて口が裂けても言うもんじゃない！」(2)というセリフです。こんなものは、見せかけの愛にすぎず、ほんとうの愛の意味や体験を示すものではありません。

真の愛ならば、「ごめんなさい」「私ごまかしていました」「僕をゆるしてください」ということはを、必要ならばただちに、口にすべきものです。こういったことばや、これと同様の意味を含むことばは、開かれた愛の力強い癒し手です。

「ごめんなさい。私がまちがっていました」とか、「私のあやまちです」というのは、むずかしいことです。しかし、自己にいつわらないこのような態度、あるいは、自ら責任を負う姿勢は、自己の成長をうながすものです。パートナーのほうに責任があるとはのめかしたり相手のせいにすることなく、「ごめ

んなさい」と言うためには、それだけの度量と思いやりがなくてはなりません。こう言うことによって、健全で愛のある関係にとどまる、と心に誓ったその誓約を、再確認することができません。

さらに何よりもっとも難しいことは、「どうか、私をゆる

してください」と言うことです。ゆるしを願うということは、自分が弱いことを認め、欠けたものを補ってもらう必要があることを宣言することになるのですから。自分の伴侶に、拒絶する余地を与えることになります。自分はそれにふさわしくもなく、価値もなく、自ら得る資格もないものを、パートナーの彼あるいは彼女が与えてくれるよう願うわけです。伴侶が拒んだとしても、理の当然です。このような場合、ゆるしとは結局、頭でどうのこうのいう問題ではないのだ、と思いつくことが役立つでしょう。心で配慮する問題なのです。「ごめんなさい」と口にするより、「あなたのこと、愛しているよ」と言うほうがたやすいことです。しかし、効果はうすいでしょう。本質をつきつめてみれば当然でしょう。私のために、自分の配偶者は傷ついたのでから。

私の個人的な体験から言えば、夫婦と共に歩む司牧生活を長年すごしてきたわけですが、結婚生活に問題が生ずるときは、

夫婦双方ともに、相手にゆるしを願う必要があるものです。和解が始まるのは、どちらかがゆるしを願い、しかも本心から和解し、そうすることで和解を生き抜いていくときのみ、です。

和解のための効果的な手段は、他にありません。

(*)2 セリフの原文 Ⅱ "To love someone is to never have to say, 'I'm sorry!'"

ゆるしてあげるには

私たちが自分の伴侶にゆるしを願いそれが受けいれられると、今度は、相手をゆるしてあげる準備ができたことになるでしょう。

ゆるしてあげることは、パートナーを全面的に受けいれることを意味しています。つまり、パートナーの持っているよい部分も嫌な部分も両方とも。それは、歪めることなくありのままに、充分に見知ったうえで、自分を無理強いすることもなく、独善や独りよがりなしに、彼あるいは彼女を受けいれることです。ゆるしてあげることは、私たちがお互いに心を通わせるこ

とです。壊れてしまった関係も、ゆるしによって癒されると、前の状態にもどることはないでしょう。前より成長し、しかも結果的には、ふたりとも心の奥底から変化しているはずです。

ゆるしを通して、心の傷を乗り越えていくとき、私たちは心の痛みや幻滅の状態からぬけ出すことができるのです。

このことについて、ある作家の次の引用からは多くを教えられます。

「おそらく、苦しみを分かち合うことが、師となり、もっとも骨身にしみる仕方での人生の教訓を教えることだろう。それは、歓喜の声を分かつことと同じほど大切なことなのだ。共に涙にくれることは、ふたりにより深い一致をもたらし、からだにおいて睦み合うよりもはるかに益になる。：」

「私たちが生活の苦悶を、平和と心の安らぎを求めて愛する人と分かち合う…、それは、ものごとの初めに目にするのではない。むしろ、その終局においてである。」

「さらにいえることは、若さと健康がもたらす喜びは幻想にすぎないというのは、我々人がなう現実である。ぼろぼろになつたからだだと打ち砕かれた魂において、静穩に結びあう…、

これが我々のありのままの姿なのだ。」

無条件にゆるすことは、まさに、無条件に愛するための欠くことのできない部分です。しかしながら、神の力なしには、無条件にゆるすことなど不可能です。

証し①

夫：

妻との関係でいちばんの僕の欠点は、死ぬまでそうでしょうけど、責任逃れをする傾向です。壁に突きあたったときは、やるべきことをやるんですが。でも、可能ならいつでも、自分の責任を、妻とか、他の人になすりつけちゃうでしょうね。

妻：

私は、完璧主義者をやめるようにしなきゃいけないんです。夫にもっと耳を傾け、彼の必要とするものや望んでいることに応えてあげるようにすべきでしょう。もっと彼のために時間を割くようにしなくっちゃ。

証し②

夫：

私は、妻にゆるしを願う必要があります。それは、私の頑固なところ、愛を表現するに乏しかったり、それから、すぐ傷ついちゃうことについてです。彼女から愛に満ちた助けをもらう必要もあります。ぐずぐずしちゃう傾向から抜け出すため、それから、すぐカッとなるくせや食習慣についてもセルフコントロールできるように、また、時として思いやりに欠けてしまうことを克服するためにもです。

妻：

愛している人のことを傷つけてしまうのは自然なことだとわかって、すぐくほっとしています。わざとじゃないのに、だれかを傷つけてしまうのは、ほんとうに私がひどい人間だからだって、いつも思っていました。このことがわかったお陰で、ありのままの自分でいようって、心から思えますし、自由になりました。

彼に謝ろうなんて全然思いませんでした。夫のせいにはかりして自分のやったことは正当化していたからです。「彼が謝らなかつたんだから、私には問題がないはずでしょ」というわけです。でも、謝ることで、私たちの関係に素晴らしい癒しがもたらされました。

私が変わることのできるのは、自分だけだということがわかって、感謝しています。

証し③

妻：

私は、思い煩ったり心配しやすいのです。たとえば、時にはさして重要でないことで堪忍袋の尾が切れそうになったり、夫と話し合うより自分だけのことで夜の時間を使おうとする身勝手なところ、子供のことで頭が一杯になっちゃったり、ほんとうの自分の気持ち、特に怒っていることを隠そうとすること、昔のあやまちとか、こういうことはみんな、もっと彼から愛のあるゆるしをもらい、理解され、助けてもらい、励ましてもらう必要があると思います。

そう、絶対に、私には、愛のある和解を体験する必要があるんです。

和解の時間

第二週が終わりにさしかかってきました。みなさんが、おふたりとも、次の質問を読み、それについてよく内省し、ノートに書き終わったところで、さあ「和解の時間」です。

どうしたら、私たちは和解できるのでしょうか？

ここに、ヒントとなる提案を用意しました。形にとらわれることなく、みなさんが望むよう自分たちなりの変更をして使ってくださいませんか。

I 場所を探しましょう。 みなさんが、ふたりだけで、静かにそして親密に通じ合い分かち合える…、そんな場所を、ご家庭かあるいは他のところでみつめて、共にすごしましょう。

II ろうそくに灯をともしてください。 互いに深く知り合い、愛し合い、平和にすごすことを、心の底から誠実に望んでいる…、その心を表すシンボルです。

III 沈黙のうちに始めます。 20分か30分ぐらい時間をとって、みなさんの和解のために準備をしてください。次にあげてあるポイントについて、ご自分個人の答えをノートに書く時間です。

1 私は、どのようなやり方で、あなたとの人間関係をそこなうようなことをしてしまったと思っっているでしょうか？

2 このため、私には、_____ について、あなたからゆるしてもらおう必要があります。

3 私は、あなたが謝ってくれなかったあることについて、何か恨みを抱いているでしょうか？

4 私たちがやっていることで、ふたりの通じ合いを困難にしていることは、何でしょうか？

5 最後に、今週第二週をふりかえって、私は、_____ について、あなたと分かち合いたいと思います。

IV

一緒になっってください。そして、やさしさをもって愛していることを表し合ってください。たとえば、キスとか、抱きしめるとか、やさしく触れ合うことを通して。それから、信頼と愛をもって、お互いの目を見つめましょう。

V

前述の五つのポイントについて自分の答えを分かち合いましょう。ひとつずつ分かち合います。相手が分かち合ってくれているとき、中斷しないように。

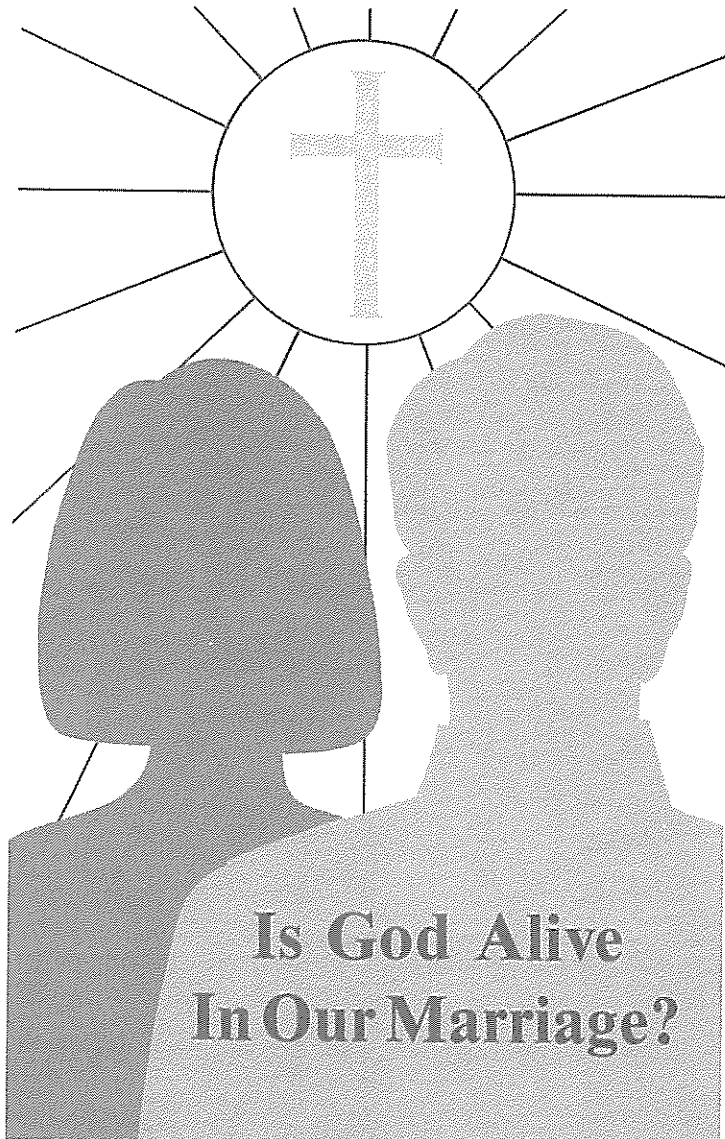
VI

一緒に、和解の時間をしめくりまます。受けいれを表し励ましとなるコメントをお互いにしましょう。また、自発的に、愛に満ちた感謝の気持ちを表し、平和な心を分かち合いましょう。

第三週

私たちは、ふたりの結婚に、

神を受けいれているでしょうか？



Is God Alive
In Our Marriage?

第三週

私たちはふたりの結婚に、神を受けいれているでしょうか？

一日目 目覚めるために

二日目 神について自分自身に問いかけるために

三日目 共に神を探し求めるために

四日目 神のみことばに聴くために

五日目 結婚に対する神のヴィジョン（一致）を
発見するために

六日目 結婚の中におられる神と出会うために

七日目 夫婦として共に祈るために

『立っておくれ！ 私は、あなたがたに話したいのだ！』

エゼキエル書一章一節

ちよつと言!

今週第三週は何人かの人たちにとっては、かなりやっかいなものになるかも知れません。といいますのは、これから私たちがとりあげようとしているのは、信仰の本質に関わる事柄だからです。つまり、神秘である「神」について。

人生の中には、多くの神秘が隠されています。生命そのもの、そして死、光と闇、善と悪、銀河系宇宙…。

さあ、みなさんは、さらに読み続け、内省し、体験し、分かち合うよう、招かれています。

今週第三週の課題は、かぞえ切れないほど多くの人間が歴史を通して証ししつづけてきた、その体験に根ざしているものです。彼らは、その人生を、きわめて重要な原則にのっとり生き抜きました。

私たちは、人間として、

神なしに幸せな存在になるなど不可能です。

神がないならば、

私たちは、

自分の心のもっとも深みにある必要を満たすことも、

愛、調和、完全を慕い求めることもかなわず、

したがって、平和と喜びを獲得することもできないのです。

神は私たちを創造されました。真の幸せにあずかるために。

神は、思想や概念ではありません。

神は「苦しい時の神頼み」のように、自分の都合に合わせてのみ使うものではありません。

夫婦が幸せな生活をおくるため、神こそ、必要不可欠で不動の土台なのです。

目覚めるために

心の声に耳を澄ますには

人生の意味を喪失してしまうことは、たいていの場合、空虚な感情を伴うものです。この喪失感、私たちが住んでいる現在、世界中に広がっている現象です。私たちの消費社会がもっているハイテクのおかげで、物質的な需要はますます増えています。しかし同時に、私たちの人生にとって深い意味をもつ根本的なニーズを満たすことはできなくなっています。私たちが耳にするメッセージといえば、生活程度が高水準になれば、幸せになれるのだというものです。高収入、よりよい職場、もっと大きくて楽なマイホーム、贅沢な休暇旅行、などなど。しかしながら、ほしいだけの物が、手に入れば入るだけ、また空しさもふくらんでいくものです。

私たちが自分に正直になってみれば、満たされる必要のある空虚感が、私たちの心の奥底にすわっていることを認めるで

しょう。私たちの心は、自分たちをさらに超越したあるものを慕い求めているのです。地上的なものでは、この隙間を埋めることはできません。私たちの持っている最大のニーズは、精神的な、なんらかの目覚めなのだ、と私たちは認識しかけていないわけです。

物質主義が蔓延するこの世にあって、信仰の再燃が求められています。このリバイバルは、私たちの心の奥底で体験されるべきものです。

つまり、

私たちの理性のうちに生まれ、

つづいて、私たちの心と意思に根づき

それから、私たちの存在全体に広がっていくもの。

この霊的な目覚めである、信仰のリバイバルは、目に見えざる世界である天からの贈物です。しかし、私たちにもできることがあります。この偉大な恵みを私たちがくみとることができるよう、自分たちの心を完全に開くことです。どうやって、そうできるのでしょうか？

次にあげた、理性と良識をそなえたことばに基づいて、注意

深く内省することです。これらのことばは、歴史上名の知れたもので、誠実で謙虚な多くの人々の心を照らしてきたものです。

準備は、よろしいでしょうか？

外からの声に耳を傾けるには

鯨「もし神が存在しないなら、神を発明する必要があるだろう。しかし、自然界のあらゆるものが、大声で、神は存在している、と叫んでいる。究極の知性を、巨大きわまりない力を、感嘆すべき秩序を見よ。私たちが、自身依存する存在であると、あらゆることが教えている」(VOLTATRE)

鯨「もし神が存在しないにしても、もちろんのこと、証明するのは不可能だ。さらに、神が存在するにしても、それを証明しようとするなどバカげている。」(KIERKEGAARD)

鯨「神は目に見ることができない、しかしながら認識できる。理解できない、しかしながら恩恵として啓示される。うかがい知れない、しかしながら人間の悟性で見抜かれうる。」

(TERTULIAN)

鯨「頭で理解された神は、神ではない。」(CHRYSOSTOM)

鯨「神は、森羅万象の秩序である。われわれが体験しようもつとも美しい体験とは、神秘なのだ。」(EINSTEIN)

鯨「神は、絶対第一原因である。したがって、必然として、神は存在する。」(SPINOZA)

鯨「すべては動いている。動くものはなんであれ、他のものから動かされるものである。しかるに、自身は不動であるが、他を動かす最初の存在があることはまちがいない。これこそ、神である。」(AQUINAS)

鯨「あらゆる哲学は、神の概念を志向するものでなければならぬ。そうでないなら、哲学という名に値しない。人は、満ち充ちた存在となるために、神に立ち戻る必要がある。」(ARISTOTLE)

鯨「われわれは、神を知らない。なぜなら、神は無限であり、ゆえに、対象として把握しえないから。」(SCOTUS)

鯨「神は存在しないということを、私が証明しえないという事

実が、神の実存を証明してくれる。私には、ひとりの神が存在している感じがする。だから、何も存在していないとは思えない。これで満足している。この世のどんな理論づけも、無用なものだ。私は、神がいる！と結論している。」

(DE LA BRUYERE)

鯨「神とは、いのちの充満(生命)の源であるはずだ。」

(BERGSON)

鯨「良心とは、人間に宿っている神の存在のことである。」

「神がいるから、私たちはいる。」

「神は、私たちの住むうち(家庭)である。」(SWEDENBORG)

鯨「三種類の人間しかいない。神を見いだしながら自らを与え奉仕していく人間。神を探し求めることに頭を使ってはいらぬが、見いだしてはいない人間。残りの人間たちは、神を探し求めもせず、したがって神を見いだすこともなく、暮らしている。」

最初の人間たちは、理にかなっており、幸福である。

最後の者たちは、愚かではあるが、幸福である。

この二者にはさまれている人間たちは、理不尽だし、不幸

である。

神を体験するのは、心であって、理性によってではないのだ。」(PASCAL)

鯨「神学者も哲学者たちも、一世紀にわたって、神は死んだ、と言いつつ続けてきた。しかし、そういう見方をすることはつまり、人間のほうが死んでしまっており、あたかも物のようになってしまうている、という結論しかもたらさない。」

(FROMM)

鯨「私たちの究極の関心として、その根底をなすシンボルとは、神である。神は、信仰行為あるところ、つねに存在している。その信仰行為は、神の否定をさえも含んでいるのである。」

したがって結果的に、無神論とは、究極の関心事をなにもかも排除してしまう、という意味しかもちえない。ある者の存在の意味については一顧だに与えない。

究極の疑問に対する対処法の違いは、無神論では、何かを空想することしかできない、ということだ。」(TILlich)

嶋「実際、人間はすべてからく無神論者である。行動することによって、信仰を否定してしまふ。」(LUDWIG)

嶋「幸せな者たちよ…、自然を見、自然を通して神を見いだすため、新聞など決して読まない人たち。」(THEOBALD)

嶋「神にあって、私たちは、生き、動き、存在している。」
(SAINT PAUL)

嶋「主よ、あなたは、私たちを、ご自身のために創られました。あなたのうちには休むまで、私たちの心は憩うことを知りませぬ。」(SAINT AUGUSTIN)

内省するには

1 以上のことばの中で、もっとも心に響いたものは、どれでしょうか？

2 なぜ、響いたのでしょうか？

3 私にとって、神とは、どのような方でしょうか？

3 創造主

愛の源

迷信

人間の作り事

裁判官のような存在

愛深い父親のような存在

罰する者

困っているときにのみ祈り求める対象

その他

()
()
()
()
()
()
()
()
()

神について自身に問いかけるために

神？

「神だって！」

「神なんているの？」

「神って、誰さ？」

「神が生きている？」

「神はどこにいるわけ？」

「どうすれば、神が見つけられるのかしら？」

「神は、解決を必要とする問題？」

「それとも、身をもって体験する神秘的なもの？」

人類が生まれて以来ずっと、こういうった同じような疑問が多々ありました。

神について自分自身に問いかけつつ、自分自身の人生経験から神を発見するため、上にあげたような超自然的な疑問と取り組めるようみなさんを助けることが、今日第三週・二日目のね

らいです。たやすくできることとはいえないでしょう。というのも、私たちは、物に囲まれた社会に暮らしているわけですし、みんなひじょうに忙しく動き回り、自分たちのことで頭が一杯です。ですから、神について思いを巡らすなど、時間の浪費というわけです。

今日の神学者の多くが言っていますが、無神論が、われわれの生きているこの時代での、もっとも深刻な現象といえるわけです。無神論者とは、どのような人のことでしょうか？

無神論者といっても、ごくふつうの人のことです。しかし、神の存在のリアリティーを否定しますし、神にいてほしくはない人です。

二種類に、無神論者を分類できます。積極的な無神論者。神の存在を否定する議論をふっかけ働きかけてくる人たちのことです。それから、日和見的な無神論者。自分では神を信じていると口先ではそう言いますが、それにもかかわらず、まるで神など存在していないかのように暮らす人たちです。無神論者であるとは、つまり、理性に問題があるにとどまらず、その意思もまた病んでいる状態なのです。

「無神論」という言葉には、現代人の多くの男女にとって強い響きがあります。そのため、「懐疑論者」と自称する方が、自身の宗教的立場や行動をより穏やかに言い表せるため、好んで使われています。では、「懐疑論者」とは、一体何でしょうか？ふつうの人のことです。神について信念を持つこともなければ、否定するでもなく、要するに、神のことは何も考えていない人たちです。したがって、神に会いたがるなどありません。実際、「懐疑論者」にしても「無神論者」にしても、どちらも、神を信じない人たちのことです。

ほんとうに神を信じている人とは、どのような人物でしょうか？一般的に言って、神について誠実に自分自身に問いかけ、神と出会い、さらに、神との個人的な関係をもっている人をさします。神について自分自身に問いを發することは、すべての人々の人生にとって、飛躍となるチャンスです。

神についての疑問

人生において、誰でも人生の答えを探していますが、ごくわずかのしかその答えを見いだしていません。

なぜ、そうなのでしょう？

なぜなら、答えを得るには、まず質問が要求されるからです。

ですから、もし、私たちが、正しい答えを得ようと望むならば、それにふさわしい質問を自分自身に投げかける必要があるわけです。

そうすれば、自分の心の中に正しい答えを見つけ出すことができるでしょう。

事実、私たち人間というものは、知的存在として、あらゆる事柄について疑問を生み出せる存在です。人間だれしも、いつてみれば、自分自身や他人にとって、不思議で疑問な存在です。一方、神についての疑問を掘り出すことは、勝手気ままにできるものではありません。そういった疑問は、すべての男性と女性にとって、個人の心の奥底にあるリアルな姿から出てくるものだからです。神についての疑問は、すべての人にとって、もっとも重要且つもっとも根源的な疑問なのです。なぜなら、人生のすべての問いは、神に関する疑問に由来するからです。

聖書によりますと、男性も女性も、望むと望まざるにかかわらず、あるいは、意識するしないによらず、つねに神と関わりをもち結びついているものです。神は、男女の創造者ですから。

私たちが人間の尊厳を放棄するかあるいは自滅することを望まないというなら、自分たちの存在の意味について、神に関する疑問を投げかける必要が是が非にもあるわけです。

神について自分自身に問いかけるためのノウハウ

神についての疑問に答える際、私たちが最初に自分に投げかけなければならぬもうひとつの質問があります。すなわち、「今日、大多数の人々にとって、もっとも大きな憧れとなっているものは、何でしょうか？」という問いです。専門家たちはこう言っています。多くの人が、何といっても真っ先に問題にする疑問は、どうやら暮らしの水準や人生の質を高めることができるか？ ということだそうです。もっと具体的に言いましょう。暮らしのための経済レベルをどうやってあげるか？ ということです。

経済や人生設計、人生における倫理や意義について、それに

ついでの問いに思いを巡らし答えを出していこうとするプロセスは、社会正義や共通の善、あるいは、平和のために私たちが手をとりあって取り組んでいくとき、お互いをより緊密な関係にしてくれるものです。

したがって、神についての疑問を自分自身に問うためのプロセスとしては、手の届かないほど高い、神学的な思想や概念をこねくりまわすのではなく、私たち自身の実際の経験に深く根ざした事柄、さらには、人生設計の水準を成長させ高めていく私たちの心の中の望みから、スタートさせていくことができるはずです。

それでは、次のポイントについて、自分自身に問いかけてみましょう。

- 1 私たちの生活の質。
- 2 私たちの日々の生活の意義。
- 3 人生そのものをトータルに見たとき、その根本的な意味合い。

最後に、ここまで考えてきて、私たちは、神についての問いを発することができ、その準備が整っていることでしょう。みなさんの人生の意義について自分自身に問いかけるまでは、神

に関する質問は横に置いておきましょう。人生こそ、神の神秘に根ざしたものだからです。

今日考えてきたもつとも根源的な問いかけの最後として、神に関する疑問が、答えられぬまま残っています。この人智を越えた事柄に関する質問に取り組まないならば、私たちは、ほかの大切な問題にも答えを見いだせないでしょう。

神を信じるべきか、信じぬべきか？それが問題だ！

内省するには

1 私の人生には、意義があるでしょうか？（はい／いいえ）

2 なぜ、そう思いますか？

3 今現在、私は、神について、何を感じ、どのように思っているでしょうか？

愛	力	希望	拒絶	恐れ	感謝	あたたかさ	ゆるし	罰	裁き	癒し	慰め	その他
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()



共に神を探し求めるために

私たちは神を失ってしまった

百年前、ドイツの哲学者フリードリヒ・ニーチェは、その著作「ツアラトゥストラ」の中で、「神は死んだ！」と書きました。

今世紀にはいって、アメリカの著名な心理学者であるエリック・フロムは、一九六六年四月一六日、サン・フランシスコにおける、アメリカ真正心理学協会(American Orthopsychiatric Association)主催の講演会で次のように言いました。「神学者や哲学者の方々は、一世紀にわたって、『神は死んだ』と言い続けてこられました。しかし、そういう見方をするのはつまり、人間のほうが死んでしまっており、あたかも物のようになってしまっている、という結論しかもたらしません。生産者であり、偶像崇拝者であり、そうでなくとも、ただの物です。」

言いかえると、私たちは死なずにこうして生きているのですから、神が働いておられるということです。神は、ご自身で存在する方、生命の源泉です。何が起きたのかといえば、私たち人間が、自身の心に無神論を植えつけてしまい、神を喪失したのです。何かを所有したり、何かをすることにとり憑かれてしまい、自分たち自身の存在を忘れてしまっています。ですから、必然的に、私たちが創られた神を失っているわけです。

目を現実に転じれば、現代のほとんどの夫婦たちは、物に最大の重きを置いているように見えます。自動車、住居、衣服、お金、などの「物」こそ、自分たちの人生の最大の意義を持つものであるかのように、行動しているわけです。物質至上主義にとり憑かれている彼らは、物以外の何かを受けいれるなど、想像しただけで反感を覚えます。

こうして、結婚生活をいとなむたい人たちの日常は、機械的なものとなっています。いろいろな機械に頼りすぎています。可能なかぎりてっとり早く、物が手に入る工夫をします。したがって、うわすべりで中身の無い、あるいは、心からの充足感や深みに欠けるその生き方は、同じような生き方をする現代風カップルを、将来さらに増やしていくというわけです。内的な満足感や平和がたりないと、人々の暮らしは、人工的な様

相を呈してきます。ありふれた面白くない生活にどんどんな
っていくわけです。人間の想いをはるかに越えた価値が存在し
ている、ということには、不感症にさせられてしまっているの
です。彼らは、すべての意味深い価値の源からは、疎遠なもの
となっています。つまり、至高の神や絶対的な価値観からは、
遠く離れたものです。神は、神秘的なものの中でも、さらに奥
深い不思議を秘めたものです。

こうした上っ面だけの、確かさに欠ける生き方の後、残るも
のは、ひとり取り残されたかのような孤独感です。頻繁に見ら
れることですが、結婚生活を営む人々が、一緒に暮らしていな
がら、孤独を味わい、あたかも互いに見知らぬ人同士のように
なってしまうのは、実にこのためなのです。こういった疎外感
が生み出すものは、疑心暗鬼です。自分の伴侶を、反対者とか
競争相手、あるいは将来敵になる者、と見なすようにさせられ
るのです。仕事をするこのほうが、家庭や教会を大切にす
るより、重要なんだ、と思わされていきます。こうした無神論的
な生き方や、神を無視する態度の結果、多くの夫婦たちやその
家族は、神など自分たちには関係ない、という風に思っしま
うようになります。彼らの生活のどこをひっくりかえしてみ
ても、神の存在は見当たりません。彼らにとっての神は影を潜め
てしまうか、そうでなければ、忘れられてしまう…、あるいは、

失われてしまいます。

夫婦で神に立ち戻るには

私たちが神を見失ってしまったというなら、私たちには何が
できるでしょうか？ 神を見失ってしまった私たちとは、あた
かも、ジャングルの奥地でふたりの人が別々に迷子になってし
まったときのようなものです。ジャングルの外に抜け出そうと
して道を探し、お互いに出会い、自分たちがふたりとも同じ問
題、同じニーズを抱えていることにたどりつくのです。ふたり
は、一緒に手をたずさえて、外への抜け道を探そう、と決意
します。こうすれば、もちろん、抜け道を発見できるでしょう。

現代社会というジャングルの中では、真理・愛・正義・平和
を探し求める必要が、夫にも妻にも共通のものとして存在して
います。絶対普遍のリアリティーとの出会いの必要も、夫婦に
欠かすことはできません。つまり、神。結婚生活を送っている
のですから、夫婦手に手をとりあいながら、一緒に、神を探そ
う、と決意してみても、いかがでしょうか？

神に立ち戻る具体的な方法

聖書を見てみましょう。男性と女性は、神が創造されこの世に授けられた、天上的な贈物です。ですから、男女とも、なによりも先ず神から受けいれられ、愛されている存在なのです。神から受けいれていることこそ、すべての愛を生み出す源です。人間が抱いているすべての愛は、この源から汲みとってきたものです。

神の愛を夫婦が体験する手段

第一に、ひとり静かに、神が愛であることを思い出しましょう。

第二に、自分たちそれぞれの生活で印象に残っている出来事をふりかえって、神が、単に第三者としてではなく関わってくださったことを黙想しましょう。

第三に、神御自身のユニシアタイプに委ねてひっぱりあげていただき、こうして神に立ち戻りましょう。こうして神に立ち戻れば、私たちは、神がもともとどのような者として私たちを呼んでくださったか、見いだすことができます。

誠実な結婚を営む愛とは、絶えざる巡礼であり、プロセスです。私たちは、決してきわめ尽くすことはありません。いつまでもいつまでも神に立ち戻り続けていくのです。

確かに、私たちの結婚生活は、永遠にのぼりつめる三角形の上に建てられていくものです。三角形の底辺は、夫と妻。三角形の頂点は、神です。私たちが頂点としっかり一致しているならば、底辺がなくなってしまい分裂してしまうことはありません。

私たちが、信頼をもって忍耐しつつ神を誠実に探し求めるならば、私たちのもっとも深いところに神を見いだすことができます。そうすれば、夫婦ふたりとも神と共におり、神も私たちと共におられる、そうしたところまで到達していくでしょう。

こうやって、私たちは、新しい心躍る体験を満喫するのです。夫婦としての私たちは、もはや単なるふたりではありません。神と一緒にいてくださり、いわば三人です。

こうして、神は、私たちの結婚と家族生活において、ナンバーワンの存在となってくださいます。これこそ、言葉で表し得ない素晴らしい体験です。

内省するには

1 私は、自分たちの結婚生活に満足しているでしょうか？

(はい/いいえ)

なぜ、そう思いますか？

2 私たちは、結婚生活を営む夫婦として、一緒に神を探し求

めているでしょうか？(はい/いいえ)

答えを具体的に書いてください。

3 神を見失ってしまったとき、私たちは、神に立ち戻ること

ができるでしょうか？(はい/いいえ)

どうやって、立ち戻りますか？

2 a 「神がすべての愛の源であることを受け入れなければならないならば、

夫婦が互いを、あるいは子供たちを愛することは不可能

だ」という認識を持っている。(したがって、夫婦が互

いを、あるいは子供たちを愛するために、神を探し求め

ている。) ()

b お互いの苦しみ・悲しみ・失望などを分かち合い、それ

らを乗り越えるため、神の助けを願い求めている。()

c 自分たちの生活の中にある神秘(子供ひとりひとりの性

格、自然の美しさ、神以外に説明のつけようがない癒し

や慰め、あるいは力など)を認識している。()

d その他 ()

3 a 神ご自身がご自分をあらわしてください「聖書」を通し

て、立ち戻る。()

b 神から離れさせる生き方を拒み、無視することによって、

立ち戻る。()

c 自分たちの結婚生活の中にある神の現存や働きに意識的

になることによって、立ち戻る。()

d 神の現存や働きを感じているか否かにかかわらず、一緒

に祈ることによって、立ち戻る。()

e その他 ()

神のみことばに聴くために

神に聴くには

ほんとうの意味で神を探求するというのは、たとえてみれば、私たちがお客様を迎えるようなものです。私たちは、まず腰をおろし、相手に耳を傾けるでしょう。

神は、私たちがお金を出して買えるようなものでありません。いわば、私たちのところにあちらから来てくださる方なのです。だれかが来てくださったとき、私たちが最初にすることは、腰掛けて、話を聴くことでしょう。私たちが神を探す態度として、これが、中心となるものです。

神学者たちはこう言っています。「神は、神秘的且つ何とも形容できない素晴らしいやり方で、私たちに語りかけてくださいます。」

神 創造されたものを通して、ご自身の業をあらわしておられます。

神 私たちの良心を通して、ご自身の声を聴かせてくださいます。

神 私たちの生活環境や事情を通して、ご自身のご意志を知らせてくださいます。

神 私たちの隣人の苦しみやニーズを通して、その人ならではの使命に呼び出してくださいます。

神 聖書を通して、ご自身の生きたまことばを教えてくださいます。

聖書は、神に耳を傾け、いろいろな他の方法を通して神が語っておられることを識別する上で、その鍵となるものです。実際、救いの歴史上健全で慰めに充ち満ちた生活を送ってきた男も女も、自分たちの生活の中で神を見いだし神を体験してきました。聖書に啓示されている、生き生きとした神のみことばを聴くことによって、それを体験したのです。

神のみことば

生き生きとした神のみことばは、聴く人の能力にあわせて、

いろいろと形を変えて響くものです。神は、ご自分のメッセー
ジを色とりどりに飾って描き出してください。ですから、
みことばの上にじっと目を注ぐ人は誰でも、自分にピッタリく
るものを見ることが出来るわけです。みことばの中に、
神は、多くの宝物を埋めてくださいました。それゆえ、私たち
ひとりひとは、その宝物を見つけ出して大富豪になる可能性
を得ているわけです。

神のみことばは、超自然的な光なのです。神のみことばは、
私たちを照らしてくれます。こうして、私たちは、神が自分た
ちの生活を通して語っておられることを識別できるよう、助け
てもらおうのです。みことばは、超自然的なエネルギーでもあり
ます。神が望んでおられることだったら、どんなことでも行え
るよう、私たちに力を与えてくれるものです。

神のみことばは、神が啓示してくださったことを証したも
のです。みことばが、神と私たちとを隔てる深い淵に橋渡しをし
してください。こうして、私たちは、神ご自身、神の知識、
神の愛、そして神の生命の中に溶け込ませていただけるのです。
そのためには、まず、私たちが個人的に神と出会うことか
らスタートします。

生きて働きかけるみことばを通して行われる、ひとりひとり
の人と神との出会いは、きわだった、他に比べるもののないユ
ニークさをもっています。神との個人的な出会いは、神ご自身
から心の深いところでなされる働きかけであり、インシアティ
ブをとられるのは、神です。神の無限普遍から私たちの虚ろい
やすい有限へ、神の恵みの溢れから私たちの惨めさへ、神の充
満する光から私たちの闇へ、神の力強さから私たちの無力さへ、
神の与え尽くす愛から私たちの自分本位な身勝手さへ、神の平
和から私たちの不和不信へ、神の溢れる喜びから私たちのさび
しさへ、神の幸福から私たちの不幸へと、働きかけてくださる
ことによって、神との親密な出会いが実現します。

神のみことばを読むには

聖書を読むといっても、簡単なことではありません。証拠な
しには、聖書に真理が書かれているなど、信じられません。な
ぜならば、私たちは、聖書を読むものとして扱うよう教育され
ていますし、聖書を読み物としてみることに慣らされているか
らです。聖書は、読むための単なる書物ではないのです。耳を
傾けて聴きいる、生きて働きかけてくる神のことばなのです。
どうやれば、聖書を読んで、神のみことばに聴くことができる

ようになるのでしょうか？

読み方はたくさんあります。ふたつの読み方にしぼることができるでしょう。つまり、資料とか知的な本としての読み方、あるいは、霊的な次元で内省するための読み方の、二種類です。それぞれの個人的な希望、目的、姿勢にそって、どちらの読み方も使うことができます。資料として読む場合は、知識をもつにするためにすぎない読み方です。こうした読み方をするとき、私たちは、量を重視するアプローチをとっていくことになりま

す。たとえば、できる限り早く多くのことを学習しよう読みこんでいく、というような場合です。霊的な次元での読み方になりますと、量よりも質がもっとも重要視されてきます。どれだけの量を読んだか、など関係なく、どれだけ深く読むか、が問題とされるのです。

量的な読書アプローチでは、しばしば時間との競争になります。こういう場合、私たちは、きわめて批判的且つ分析的に読む傾向を持つでしょう。内省的な読み方の場合、もっとはるかにゆったりとしたもので、時計とにらめっこすることも忘れてしまいます。一般に、量を重視する読み方では、状況を自分でコントロールしていきます。霊的な次元を大切にする読み方は、瞑想の時間であり、メッセージが目の前にはっきり浮かんでく

るのを忍耐強く待つものです。量重視型読書の目標とするのは、かなり具体的な事柄です。たいていは実用のみを追求し、特定の専門分野の能力を伸ばすために行われます。霊的読書における目標は、深く潜心し、みことばの形をとって宿っているメッセージに心を開くことです。このようなタイプの理解し受容する姿勢には、リスクを恐れず信頼することが求められます。しかしながら、これは人生のより深い意味に私たちをいざなってくれるものです。

聖書を読み、みことばに耳を傾けるためには、霊的な次元での読み方が要求されるわけです。頭だけで読むのではなく、心と魂をもって、読む必要が私たちにはあります。

心と魂をこめてみことばに耳を傾けているにもかかわらず、それなのに、みことばを理解することができない場合、私たちには、何ができるのでしょうか？ かまいません。残念がらないでください。私たちは、みことばからのチャレンジを受けるものです。ですから、何度も何度も聴いてみてください。飲んでいるとき人は満足しています。泉を飲み尽くすことなどできないわけですから、がっかりすることはありません。神のみことばの泉が私たちの渇きを癒すようにさせてあげましょう。神のみことばが、心の渇きを今満たしているその程度で満足し、知

識に対する渴望のあまり、泉の効力を見失ってしまうことのないようにしましょう。

神のみこととは、神秘に満ちた宝物です。私たちがその宝物の何かを発見したときには、この泉を飲み尽くしてしまうのではないかと、など、考えないでください。

内省して読むには

大勢の人がイエズスのもとに集まっていたが、さらに、あちこちの町からも人々が押し寄せてきたので、イエズスはたとえをもってお話しになった。

「種をまく人が種まきに出て行った。まくときに、ある種は道ばたに落ちた。踏みつけられ、空の鳥がそれをついばんでしまった。

また、ある種は岩の上に落ちた。はえ育ったが、湿り気がないので、枯れてしまった。

ある種はいばらの中に落ちた。いばらもいっしょに伸びて、

これを覆いふさいでしまった。

ある種は良い土に落ちた。そして、はえ育って、百倍の実を結んだ」。

こう話してから、イエズスは、「聞く耳のあるものは聞きなさい」と声高く仰せになった。

弟子たちが、このたとえ話は、どういう意味ですかと尋ねると、イエズスは仰せになった。

「このたとえ話の意味はこうである。種は神のことばである。

道ばたのものとは、一応はみことばを聞いた人々のことである。しかし、悪魔が来て、その人々が信じて救われるということのないように、彼らの心からみことばを奪い去る。

岩の上のものとは、みことばを聞いて喜んで受け入れるが、根がないので、しばらくは信じて、試みに遭うと、離れ去ってしまう人々のことである。

いばらの中に落ちた種の場合は、次のような人々のことであ

る。彼らはみことばを聞いても、日を過ぐすうちに、生活の
思い煩いや富や楽しみに覆いふさがれて、実が熟するまでに
いたらない。

良い土の中の種の場合は、正しい、良い心をもってみことば
を聞き、これを固く保ち、辛抱して実を結ぶ人々のことであ
る。

(フランススコ会訳・ルカによる福音書八章4a〜15節)

内省するには

1 聖書の具体的ななみことばを思い出さなかったにしても、以下の項目に関連する福音の内容をある時点で思い起こし、その内容を拒んだり、無視したり、あるいは心から喜んで受け入れ応えた実例を、私は、思い出すことができるでしょうか？（はい／いいえ）

いいかえれば、自分の心が次のような土の状態だった体験を思い出せるでしょうか？（はい／いいえ）

道ばた(HARD) ↓ まったくみことばを拒絶する。
 岩の上(THORNY) ↓ 結局、内面的な弱さのために、みことばに
 応えなくなる。
 いばらの中(ROCKY) ↓ 結局、外面的な影響のために、みことばに
 応えなくなる。
 良い土(GOOD) ↓ みことばに
 応えて、実を結ぶ。

(注) 以下の項目の()に(道)(良)とか、(H)(G)など工夫して記入してください。

行い	()	習慣	()	人生の目的	()
仕事に対する姿勢	()	健康	()	和解	()
神との関係	()	愛	()	レクリエーション	()
誓約	()	趣味	()	正直さ	()
共同体	()	生命	()	家族の関係	()
環境問題	()	レジャーの時間	()		
他人との関係	()	教育	()	信仰生活	()
親戚	()	怠り	()	ライフスタイル	()
奉仕	()	貞節	()	お金	()
社会的な立場	()	計画	()	ゆるし	()
受けいれ	()	友人	()	所有	()
物の使い方	()	寛大さ	()	祈りの生活	()
価値観	()	その他	()		

結婚に対する神のヴィジョン(一致)を発見するために

思いつくままに

神は、結婚に対して、ことばに言い尽くせぬほど素晴らしい、ご自身なりの計画とヴィジョンとを持っておられ、私たちにそれを啓示してくださいます。第三週・五日目の目的は、神の示しておられるその計画やヴィジョンに耳を傾ける準備を、みなさん自身ができるように援助することです。

とはいっても、聖書を開くより前に、まず、次にあげたいいくつかの質問について内省してみてください。

♀ 夫婦というものの本質や性格から見ても、彼らが一致して生きていくことは、重要且つ絶対不可欠なこと、といえるでしょうか？

♀ 結婚とは、深い意味と価値のあるものでしょうか？

♀ 結婚生活の必要条件とは、何でしょうか？

♀ 結婚の、本質となる目的は何でしょうか？

♀ ほんとうの意味での結婚の生き方とは、どんなものでしょうか？

♀ 結婚とは、形式的に行われる、つまり、社会的・心理的・経済的な事情や状況にのっとって行われる、人間的な習慣にすぎないものでしょうか？ それとも、結婚とは、神からのもので、聖とすべきものでしょうか？

♀ 夫婦というものは、結婚生活において、独立独歩して歩み、自分たちだけで充ち足りることのできるものでしょうか？ それとも、創造主である神にしっかり根ざし、信頼しきって生きていくべきものでしょうか？

♀ 結婚において、神のご計画は存在するのでしょうか？

♀ 結婚に対する神のヴィジョンは、何でしょうか？

♀ 夫婦が、神の抱いておられるヴィジョンや計画にそって生きていくことは、重要なことでしょうか？

♀ 神は、結婚生活を営む人々が幸せになってほしいと、思っているのでしょうか？

♀ 神なしに、結婚生活での幸せを獲得することができるのでしょうか？

♀ 健全で幸せな結婚生活のガイドラインになるようなものが、聖書の中にあるのでしょうか？

このような疑問に対するひとつひとつに答えを見いだすため、みなさんの理性、心、精神を総動員して、聖書全体の冒頭に置かれている創世記一〜三章を読みこんでいきましょう。

さあ、すぐやりましょう。

聖書に書かれている驚くべき啓示

聖書の冒頭に置かれている創世記の第一ページを開くとすぐ、結婚と家族に関する神ご自身啓示してくださったみことばが、出てきます。聖書学の権威たちは、「創造に関する二つの並行するストーリー、あるいは、互いに補足し合っているという記述がされている」と言います。

I 第一ストーリー：創世記一章1〜31節

神は、創造主です。

「はじめに、神は天と地を造られた。」

(フランシスコ会訳・創世記一章1節)

神は、結婚は、神の創造の業のうちでその頂点をなすものです。

「次に、神は、『われわれにかたどり、われわれに似せて人を造ろう。そして人に、海の魚、空の鳥、家畜、野の

すべての獣、血をはうすべてのものを治めさせよう』と言われた。」(フランシスコ会訳・創世記一章26節)

神は、結婚とは、生ける神の肖像(うつつしえ)です。

「神はご自身にかたどって人を造られた。人を神にかたどって造り、男と女とに造られた。」

(フランシスコ会訳・創世記一章27節)

II 第二ストーリー：創世記二章4〜25節

結婚とは、生命と愛の共同体です。

「また神ヤーウエは、『人がひとりであるのはよくない。かれにふさわしい助け手を造ろう』と言われた。そこで神ヤーウエは人を深く眠らせ、眠っている間にそのあばら骨の一つを取り、その所を肉でふさがれた。神ヤーウエは人から取ったあばら骨をひとりの女に造りあげ、人のところに連れてこられた。」

(フランシスコ会訳・創世記二章18、21〜22節)

結婚とは、分かち合いと一致の神秘です。

「すると人は言った。『これこそ、わたしの骨からの骨、わたしの肉からの肉。男から取られたのだから、これを女と名づけよう(糺)』。それゆえ、男は父母を離れて、妻に結びつき、ふたりは一体となるのである。」

(フランシスコ会訳・創世記二章23〜24節)

(*)「女」＝“woman”は、“out of man”（男から取られた）の意味。

内省のために読むには

創世記二章の終りまで読んでみると、だれにも明白な疑問が出てくるでしょう。神が啓示されたことによれば、結婚とはそんなに完璧なものであるというなら、いったい、私たちを取り囲むあまりにも多くの悲惨を、どう説明できるというのか!と。不倫、別居、離婚、結婚生活や家族生活の崩壊…、しかもこれらは、歴史始まって以来ただ今現在にいたるまでずっと起こり続けています。創世の「初めに」、何が起こったというのでしょうか？

人智を越えるこの疑問に正しい答えを見いだすため、創世記三章に書かれている、みことばをよく読み、注意して耳を傾け、内省を続けていきましょう。創造されたばかりの夫婦が誘惑されるお話です。彼らは、自分たち自身を神から切り離してしまい、自分たちだけで独立して生き、自信過剰に陥りました。

さて、神ヤーウエが造られた野のすべての動物のうちで、へ

びは最もこうかつであった。蛇は女に、「神は『おまえたちは園にあるどの木の実も食べてはならない』と確かに言ったのでしよう」と聞いた。

女はへびに、「園にある木の実を食べてもよろしいのですが、神は、『園の中央にある木の実を食べてはいけない。また触れてもいけない。おまえたちが死ぬといけないからである』と言われました」と答えた。

しかしへびは女に、「いいえ、あなたがたは死にはしません。それを食べると、あなたがたの目が開かれて善悪を知り、神のようになることを、神は知っているからです」と言った。

そこで女は木をながめると、その実は食べるのによく、目をそそり、賢くなるには望ましいと思われたから、それを取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、かれも食べた。するとふたりの目は開かれ、裸であることを知ったので、いちじくの葉をつづり合わせ、腰に巻く物を造った。

いつものようにそよ風の吹きはじめのころ、ふたりは園をそぞろ歩きされる神ヤーウエの足音を聞いたので、人とその妻とは神ヤーウエを避け、園の木の中に隠れた。神ヤーウエは人に

声をかけて、「おまえはどこにいるのか」と言われた。

そこで人は、「わたしは園でああなたの足音を聞き、裸なので恐れて隠れました」と答えた。すると、「だれがおまえの裸であることを教えたのか。おまえは、わたしが食べてはならないと命じておいた木の実を食べたのか」と言われた。人は、「わたしの連れとしてください。あの子が木から取ってくれたので、わたしは食べました」と答えた。そこで神ヤーウエは女に、「おまえはなんということをしたのか」と言われた。女は、「へびが私を迷わしたので、食べました」と答えた。

神ヤーウエは、人をエデンの園から追い出された。これは土から取られたかれに、その土を耕させるためである。

(フランススコ会訳・創世記三章1〜13、22 a、23節)

結婚に関する貴重な道しるべ

神のヴィジョンにしたがって結婚生活を営むためには、何がキーポイントとなるのでしょうか？

聖書を読み内省してきて私たちが発見してきたことは、「神

のご計画においての結婚とは、ふたりの人間が創造され、そのふたりが一体となること」、そして、「神と一致すること」です。

ですから、神が結婚に対していただいておりますヴィジョンの、道しるべともいえる次のことばが、重要なポイントとして考えられるでしょう。

♫ 夫と妻、さらに夫婦と神との誠実な一致をもたらすものならば何でも、

神のヴィジョンと計画にそっています。

♫ 夫と妻、さらに夫婦と神との誠実な一致を危険にさらし、その邪魔をし、

墮落させるものは何であれ、
神のヴィジョンと計画に反しています。

私たちが、幸せな結婚と家族生活を心から願うなら、ここにあげた道しるべともいえることばを、心にしっかりとめて実行しましょう。

結婚の中におられる神と出会うために

私たちふたりきりではない結婚

おそらく、今この時点で、みなさんは、結婚生活における一致など、ほんとうに可能なのだろうか？ と、強く疑問を覚え怪しんでおられることと思います。神のご計画による結婚は、かなわざる夢などではありません。

今日、第三週・六日目の目的は、今申し上げた疑問に対する答えを見いだすためのものです。さらに、神が、特別な方法で共におられるため、私たちの結婚生活はふたりきりではない、ということを知るためにも、その機会を提供するものです。

自分たちが今のところそれに気づいていなかったにしても、神は、婚礼の日から今にいたるまで、私たちと共におられました。ですから、私たちは、結婚に関する三元論(糺)や世俗主義(糺)的な考え方を要するよう呼ばれているのです。つまり、

「私たちふたりつきり」という考え方を要するように、です。さらに、私たちの結婚における神の現存と働きかけに希望をもって心を開くよう招かれています。

神は、私たちの結婚における第一の次元です。

私たちは、どうすれば、自分たちの結婚における神の現存を発見しそれを体験することができるでしょうか？ 私たちは、自然の次元に暮らしているのですから、いちどきに、神を見いだし知ってしまうことなどできません。信仰という賜物によって、私たちの現実の姿が照らされることを通してこそ、神を見いだし知りうるのです。現実とは、神から送られたもので、神ご自身に導いてくれる出来事を意味します。ですから、神とは、さまざまな考え・思い・イメージ・シジョンなど霧がかかったようなどころで見いだされるのではなく、私たちの毎日の生き生きとした体験を通し、且つ、自分たちの存在の奥深い部分で、見いだされるべきものです。私たちそれぞれの持っている体験は、私たちの目を、神の恵みの世界に向けてくれます。

伝統的な神学も、その原理として、次のことをいっています。いわく、「恵みとは、自然性の上に造り上げられていくものである」と。ですから、人が、自分たちの現実と与えられた自ら

の賜物を認識すればするほど、生活の中で現存し働き続けておられる神にもっと気づくようになるわけです。反対に、自分たちの現実や才能に気づかないならば、孤独感と不幸を味わうことになるでしょう。

以上のことを、結婚生活における現実とその賜物に照らして当てはめてみましょう。すなわち、結婚とは一体どのようなものであるか、をはっきり理解し、そのあとで、理解したことにしたがって生きていこう、というわけです。

(1) 二元論 Ⅱ この場合、「夫婦」と「世界」を二つの対立したものであるかのように見なすこと。二元論はあたかも閉じた円のようなもので、その円を断ち切り、スパイラルのように広がっていかねばならない。

(2) 世俗主義 Ⅱ 第一週・三日目「結婚の現実と向き合うために」(1)を参照。

誓約としての結婚

結婚とは、神が発案したものです。誓約とは、神の発案した結婚を理解するとき、その中心となる概念です。霊的な次元に

おける誓約を、結婚の根底にあるテーマとして見たとき、聖書の中には多くの、その証明となるみことばが散見されるでしょう。

愛の物語：

おまえのときがやってきた。愛のとき……。私は、おまえの上に衣の裾を広げ、おまえの裸を包んであげた。私は、自分自身を誓いによってお前に結び、お前に誓約を立てた。こう語られるのはヤーウェ。そして、お前は私のもとなった。
(エゼキエル書十六章8節)

不忠実：

おまえの母を告発せよ。彼女を公然と訴えるのだ。彼女は私の妻ではない、私は彼女の夫でもない！ 彼女の顔から売春という文字を捨てさせ、姦通をその胸から取り除くのだ。さもないと、私は彼女の裸をさらすことになる。生まれたばかりのその日のような姿で、さらさねばならなくなる。彼女のために荒れ野を用意し、不毛の土地に彼女を連れていき、そして、彼女を渇きで死ぬままにさせておくことになる。それゆえ、私は、彼女をおびきよせ、荒れ野に連れ出して、彼女の心に語りかけようではないか……。
(ホセア書二章1〜6、16節)

ゆるし：

戻ってきておくれ、不忠実なイスラエルよ！ こう語られるのはヤーウエ。もう、おまえに顔をひそめ怒った顔を見せることはしない。私は、いつくしみに富んでいるのだから。永久に恨みを抱き続けることなどしない。

おまえは罪を認めるだけでよいのだ。どうやって、おまえの神であるヤーウエに対する信頼から去っていったのか、どうやって、異国の民と戯れの火遊びをしたか、そして、私の声に耳を傾けなかったか…。

もしおまえが帰ってくることを望むなら、イスラエルよ、とこう語られるのはヤーウエ。おまえが立ち戻るべきところは、私のところ。忌まわしい行いを捨て去れ。そうすれば、私を避ける必要などないはずだ。真理に根ざし、正義と誠実をい দিয়ে「ヤーウエは、生きておられる！」と誓うなら、おまえのおかげで、諸国は祝福を受け、栄光はお前のうちにあるだろう。

(エレミヤ書三章12〜13節、四章1〜2節)

無条件の愛：

「ヤーウエは私を見捨てた。主は私を忘れてしまった」、

こうシオンは言うが…。女が、その胸に眠る子を忘れるだろうか？ その胎の子をいとおしむのをやめてしまうことがあるか？ もし忘れることがあるうとも、私がおまえを忘れることなどないのだよ。ごらん、私の掌におまえを刻み込もうではないか。

(イザヤ書四十九章14〜16節)

ですから、結婚は、誓約によって結ばれた人と人の関係です。夫と妻は、互いに対し、そして、神と共に、誓約を結ぶのです。神の考えにそって結婚生活を営むならば、結婚している配偶者同士は、ご自分の民に与えられる神の愛の神秘を体験するので

す。

神の啓示によれば、結婚関係の基盤となるものは、貞節、信頼、そして無条件の愛です。不貞、自分本位、心変わり、結婚を破壊する際たるものです。

結婚の秘跡

結婚には、秘跡という、重要な次元がありますが、これは、イエズス・キリストと彼の教会の間に結ばれた関係を意味しま

す。この関係に照らして、クリスチャンの結婚の何たるかは説明されず。

クリスチャンやキリストを信じている人たちは、イエズス・キリストにおいて、神が現存し力ある方であることを祝い、また体験しています。クリスチャンやキリストを信じている人たちにとっては、神の現存と力が結婚関係とその誓約の中に存在している、と認識することは必要でもありません。神が、私たちがうちに、私たちを通して、働いておられることに、単純に気づけばよいのです。ローマ・カトリック教会の伝統は次のように宣言しています。すなわち、カップル（正式な結婚をしている夫と妻）は、自分が持っている秘跡を分かち合うことにより、継続した奉仕をお互いにするものであり、司祭は、結婚式の典礼上の公式の証人なのである、と。

結婚が秘跡であることを証明するため、特定した箇所を聖書から引用するのは難しいことです。しかし、夫婦が、キリスト者としての自分たちの結婚生活において、救い主であるイエズスが実際に存在し働いておられることを見分けることは、難しいことではありません。

秘跡とは、神の愛が生きていることを示す、目に見えるしる

しです。イエズス・キリストは、私たちに對する神の愛が、具現化したもの、その誓約、その「しるし」です。たとえば、パウロは、エフェソの信徒にあてた手紙五章の中で、結婚を、人と人が結ぶ誓約と比較して語っています。キリストとその神秘であるキリスト者の間には、契約(33)は存在していない、と彼は言います。契約ではなくて、キリストの十字架上で流された血による誓約(34)がそこにあるのだ、というわけです。ですから、結婚においても、夫婦の間には、神秘的なきつなと誓約が存在しているのです。「キリストに對する忠実のうちに、互いに身を委ねよ」。私たちには、キリストご自身の模範が与えられているわけです。ですから、キリストがご自分を、ご自身の教会である民への愛にかられて与えられたことにならって、私たちも、互いに自分たち自身を与え合うことができるようになるのです。

コリントの信徒にあてた最初の手紙の中では、主と一致する結婚について、パウロは関連づけて語っています。ふたたび、互いに誓約を交わした夫婦のことです。しかも、「主において」。彼らの誓約には、いつでも、神の力と恵みが現存しています。なぜなら、洗礼を受けて、イエズスと一致しているからです。

結婚を営む夫婦たちは、自分たちの持っている愛と誓約には、

深遠な聖なる次元があることをはっきり認識すべきです。私たちの心臓の鼓動も、私たちの内面にある生命の息吹である呼吸も、恵みとして与えられたものなのですから、互いに対する深い誓約と愛の何たるかを認識し、その誓約をさらに強めていかねばなりません。そうすれば、神が自分たちの中におられ、自分たちの力は、自分たちよりさらに偉大なお方、つまり神からのものであると、気づくようになるでしょう。夫婦は、この誓約のおかげで、自分たちにとってではなく、特に他の人たちに對してしるしとなるのです。こうして、他の人たちは、彼ら夫婦のきづなと誓約を見て、神の力と恵みを実感することができるようになります。

(13) 契約 || 仕事の取り引きなどで、互いに約束を交わすが、どちらか一方が契約に違反したら、反古にしても構わないもの。責任は相手次第。子供にもできる。

(14) 誓約 || 個人としての誓いや結婚などで、互いに約束を交わし、たとえ一方が誓約に反したときでも、あくまでふみとどまり、自分の誓約を守り抜くもの。責任は自分次第。成熟した人にしかできない。

結婚に靈性をもたらすには

結婚生活をおくっているたいいの夫婦たちは、自分たちの結婚のきづなの中に、神が実際におられることをはっきり理解していません。神は、ご自身の特別な恵みによって、いつでも彼らに協力しようとスタンバイしておられます。夫婦たちが、欠けることのない聖なるものであり続けるよう、支えようとしておられます。さらに、必要ならば、彼らの結婚を救ってあげようと身構えておられるのです。一方夫婦たちのほうでは、自分たちは神を信じていると口先で言っていたとしても、現実には、信頼をおいていません。

神の恵みのかずかずや、愛に満ち力あふれ目に見ることのできる、そういう神の行為というものは、自動的に生じたり、魔法のようなものではありません。神の助けを、夫婦たちが両方とも、自分たちの心の中に探し求めることが、必要とされます。さらに、力を尽くして神に協力を惜しまないことです。これこそ、まさに、結婚の「靈性（靈的次元）」の意味するところです。

今日、いろいろなたぐいの靈性の概念は、しばしば、誤解さ

れ続けています。「靈性」という用語のニュアンスには、非現実といった響きがあります。祈りの時間、聖書の勉強、「靈的な体験や宗教生活の実践」のため物質的な事柄を捨て去る、といったように……。このような誤解や幻想こそ、非現実的なものとして捨て去ることが重要でしょう。靈性とは、日常生活と遊離してはありえないものなのですから。ほんものの信仰者にとっては、「靈」という次元は、現実の毎日の生活と取り組み、神の靈の現存に導かれながら暮らしていくところにあるのです。健全でゆるぎない靈性とは、毎日の生き生きとした体験、人と人との関わりや実際の出来事を生きていくことを別にしては、考えられません。

結婚の靈性は、結婚生活の毎日の営みに根ざす必要があるものです。必然的に、夫と妻とが、心から通じ合い、そのきづなを深めていくことこそ、結婚生活を営むどの夫婦にとっても、その靈性の核をなすものです。いいかえれば、自分たちの結婚生活に靈性をもたらし、結婚の核の部分で神に出会うには、夫婦が通じ合いにおいてありのままの自己を分かち合い、そのきづなを、現実の生活の中で実際に深め、意識的に生きていく必要があるわけです。

聖書によくでてくる用語で、「隣人」ということばがありま

す。この「隣人」ということばは、結婚している人たちにとっては、何よりもまず最初に、自分の配偶者にあてはめられなければなりません。これは、結婚の靈性を実際に生きていく上で、とりわけ必要とされる事実です。しかし、夫婦の誠実な愛は、神との関係から切り離すことができないものです。個人としても、夫婦としても、神とのつながりは必要です。どうすれば、真実でバランスのとれた、神との親密な関係をものにすることができのでしょうか？ もし、力不足で、そのような関係を手に入れることができないならば、「隣人」である自分の配偶者との関係も、その程度の均衡しか持ち得ないものになってしまふのではないのでしょうか？ 私たち夫婦の相互のあり方いかんによって、神に対する私たちのあり方も決まってくるでしょう。結婚における靈性は、新しい生き方として私たちが始めるものです。しかし、その前に、神の光に照らして、自分たちの結婚を見いださねばなりません。

夫婦として共に祈るために

祈るには

信じるとは、祈ることです。川が大海に流れこんでいくように、信仰は祈りへと導かれていきます。祈りは、私たちのからだを養うための食べ物と同じで、祈りが私たちの信仰を育てくれるのです。もしほんとうに信じているというなら、私たちは祈るにちがいません。

しかしながら、祈りは、神からの贈物です。神が私たちの理性を開き、心を動かし、ご自分に向けさせてくださらなければ、私たちは祈ることができません。パウロは、こんな風に言っています。

「霊も、私たちの弱さにあって助けてくださいます。私たちは、どう祈るべきか知らないのですから。しかし、聖なる霊は、ことばでは言い表しがたい呻きをもって、私たちのために執り

成しをしておられます。」（ローマの信徒への手紙八章26〜27節）

祈るということは、神の考えや御心を変えてしまうための魔法の道具ではありません。むしろ、私たちの理性、心や意思を変えするための、神の賜物なのです。祈るときにキーポイントとなるのは、自分の個人的な利益のために祈るよりもむしろ、謙遜な心と信頼、そして生き生きとした信仰をもって、神の現存の前に単純に立つ姿勢を持つことです。

祈りの効果とは、実り多いものです。しかしながら、役立ちからという理由で祈るものではありません。祈りは、友情に似ています。友情からは多くの有益なことがもたらされますが、かといって、友人を利用しようとするだけの目的しかないなら、そこには、真の友情はありません。ただの仕事仲間というだけでしょう。祈りとは、便利であるかないかというような尺度で測れるものではありません。つまり、「何かを手にいれる」というような、明白な結論を出せるものではないのです。神に完全に委ねることを通してのみ、祈りは理解され得るものです。絶対普遍的の主。

単純な祈りは最高です。たったひとつの目的しか持たない祈

りは、単純そのものです。神と共にあって、神の現存の中を歩む、という目的。花は、自分をサポートし栄養を毎分毎秒ごとに送ってくれる茎の存在を忘れて、開花することができるとしようか？ 創造されたすべての人の心の中にある自己には、神が存在しておられます。ですから、私たちは、自分自身を内省することによって、神の現存のうちに住まうことができるのです。

しかしながら、実際のところ、祈りは、その人の生活全体から溢れる表現であるべきです。時間を割いて神と共に過ごし、通じ合い、対話することが必要です。それは、ちょうど、友人や愛する者同士がするようにして、です。友人や愛する者同士は、時間をしっかりと決め、ほかのことは何もせず、「一緒にいる」ときをすくすものことです。そして、互いにコミュニケーションします。義務だからそうするわけではありません。必要なのです。

夫婦での祈りの生活

神との個人的な関わりは、かけがえのない重要なものです。しかし、結婚生活を営む人々にとっては、それで十分とはいえ

ません。それぞれの夫婦ごとに、神は、夫婦としての特別の使用と通じ合いの仕方を用意しておられます。

夫婦たちの司牧体験に基づいて私にわかっているのは、夫婦たちは、個人での祈りはするけれども、夫婦での祈りはほんのわずかしかしていない、ということ。結婚している夫婦なので、あらゆるものを分かち合っているわけでしょう。家も、食べ物も、ベッドも、仕事も、遊びも、お互い自身の体も、その望みも夢も、何でも。それなのに、自分の、個人的な神との関係を分かち合っていないというのは、おかしいではありませんか？

どうして、こんな風になっているのでしょうか？ 最大の理由として考えられるのは、信仰・神・宗教に対して非常に多くの人がもっている、個人主義的なメンタリティーのせいだと私は思います。つまり、神との個人的な関わりは、人が分かち合えるもののうちで、もっとも親密な体験です。そのため、そういう祈りの体験を分かち合うことに臆病になってしまおうとしても、当然といえるでしょう。ときとしては、恐れのためでしょう。しばしば、このような困難さが生まれるのは、配偶者それぞれの個人的な生い立ちや感受性、あるいは受けてきた教育など、さまざまな要因が組みあわさっているがゆえです。ま

た、あるときは、伴侶が自分とは違う宗教を信じていたり、異なった文化を持っていることから、そうなりえます。

なぜ、夫婦で祈るのでしょう？ 実際に祈っている夫婦たちが言っていることですが、祈りのおかげで非常に強く励まされ、熱意をもって夫婦生活を営めるがため、彼らは祈ります。夫婦としての祈りの生活が、個人の生活を豊かなものにし、さらに、ふたりの結婚のきづなを新たにしてくれる、と夫婦たちは口をそろえて言います。祈りの生活が、彼らを、より幸せな新しい次元に高めてくれるわけです。

聖書によりますと、祈りの生活をする理由は、単純明快です。いわく、「創造主が初めから人間を男と女とに造り、そして、『それゆえ、人は父母を離れて自分の妻に結ばれ、二人は一体となる』と言われたことを、あなたがたはまだ読んだことがないのか。したがって、彼らはもはや二人ではなく、一体である。それで、神が合わせたものを、人間が離してはならない。」(フランシスコ会訳・マタイによる福音書十九章4〜6節)

聖書ははっきり結論しています。つまり、もし結婚するならば、私たちは、結婚生活から、個人としての自分たちの祈りを切り離すことはできないのです。単にふたりの人間として神と

関わりを持つよう呼ばれたのではなく、一体となった夫婦として祈るよう、呼びかけられているのですから。

一体となった夫婦であるみなさんは、どうやって、神と関わり、通じ合いをすることができなのでしょう？

実践のための5ステップ

みなさんが、夫婦として、神に結ばれ通じ合えるよう励ますため、私は、祈りの実践のための5ステップをつつしんで提案したいと思います。このステップは、段階的に進めていくものです。前の段階を完全にすませないうちに、次の段階に行くことはできません。これは、きわめて重要なことです。

この5ステップのいづれにおいても鍵となるのは、夫婦として、神の現存のうちに分かち合いをすることです。これらの段階それぞれにおいて、無条件に出発点といえるのは、ひとりひとりが神とのきづなをもち通じ合いをするということなのです。この個人的な体験をぬきにしては、結婚における分かち合いも、うわすべりなもの、意味もなく空しいものと言えるでしょう。

もっとも貴重な段階である、第5ステップについて申し上げますが、誠実にこのステップをやった結果、混乱を経験したり、喪失感を味わったり、フラストレーションを覚えても、驚かないでください。実りを得るための代価なのですから。このステップを取り上げる際、夫婦ふたりともに、謙虚で愛のある忍耐がとて必要とされます。その前の四つの段階を深く体験しているのであれば、神が、その忍耐をきわめて特別な賜物としてみなさんに与えてくださるでしょう。しかし、一晩でそうなってしまうことはないでしょう。さて、次のものが、その5ステップです。「主において」行われる結婚における通じ合いの段階ともいえるでしょう。

第1ステップ：聖書のみことばによる分かち合い。まず、一緒にみことばを読み、ちょっとした時間をとって沈黙します。それから、お互いに、自分の思いや感情、みことばから受けたそれぞれの印象などについて、分かち合います。相手の言ったことにコメントはしないでください。神の現存のうちに、心からの尊敬と愛に満ちた聴く態度だけが求められます。

第2ステップ：私たちがそれぞれが祈りの生活から分かち合う。神との個人的なきづなと実際の体験について、お互いに分かち合います。たとえば、人生、死、愛、平和、正義、使命、夢、

苦しみあえいでいる事柄、危機、真理、善、セックス、悪、誘惑、理想、美、深く必要とするもの、神からの賜物、などについて、です。

第3ステップ：私たちの結婚生活を評価する。聖書のみことばに照らして、結婚生活をふりかえります。「時のしるし」を読み取り、主である神が私たちに今何を言おうとしておられるのか、識別するわけです。その識別は、私たちの、個人として・結婚している夫婦として・家族としての、生活の中で起きる普通の出来事・変わった出来事をふりかえって、行いましょう。

第4ステップ：私たちの結婚の誓約をふりかえります。愛と一致の証しである自分たちの誓約を再検討しましょう。自分たちの家庭・職場・近所づきあい・教会・自分たちの住んでいる地域共同体、さらに、あちこちでの、自分たちのたてた誓約について、見直します。

第5ステップ：お互いの勧め合い。神の現存のうちに、相手のやり方とやったことについて、心から正直に且つ愛をもって、対話します。こうして、神の意思にしたがって生き成長していきけるよう励まし合うのです。

一緒に祈りましょう

今日は、第三週・七日目、最終日です。おふたりにとって、夫婦として共に祈り、自分たちの中に生きておられる神の現存と働きかけを体験するには、ぴったりのよいチャンスです。この祈りによって、みなさんは、第四週を大きな期待をもって迎えることができるでしょう。

以下の簡単なアウトラインにそって祈ることができます。

1 お互いの親しさと暖かさを感じるために一緒に腰をかけ、沈黙の時間をしばらくとります。私たちが神の現存に心を向けるためです。

2 聖書から短いテキストをとって、一緒に耳を傾けましょう。たとえば、新約聖書の四福音書（マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ）の部分をパッと開いて、目についた一節あるいは、状況を把握するために、その後の数節を、どちらかが、声を出して、ゆっくりと読んでください。

3 数分間、間を置いて、沈黙のうちにみことばが私たちの

心に染み透っていくようにしましょう。

4 できるだけ簡潔に、神のみことばが私たちにあって何を意味しているかについて、互いに語り合しましょう。

5 沈黙します。

6 自発的に、直接に、神に語りかけます。「主よ、感謝します!」「私たちと一緒にいてください!」「神よ、私たちを祝福してください」「主よ、私たちはあなたを信賴します!」など、短いもので構いません。

7 いづれの場合でも、手をつないで、一緒に「主の祈り（*1）」を唱えることができます。

（*1）主の祈り Ⅱ イエズスが、弟子の頼みに答えて教えた祈り。クリスチャンは、一緒によくこの祈りを唱える。

「天にましますわれらの父よ、願わくは、み名の尊まれんことを、み国の来らんことを、

み旨の天におこなわるるごとく地にも行われんことを。

われらの日用のかてを、今日われらに与え給え。

われらが人にゆるすごとく、われらの罪をゆるし給え。

われらを試みに引きたまわざれ、

われらを悪より救い給え。アーメン。」

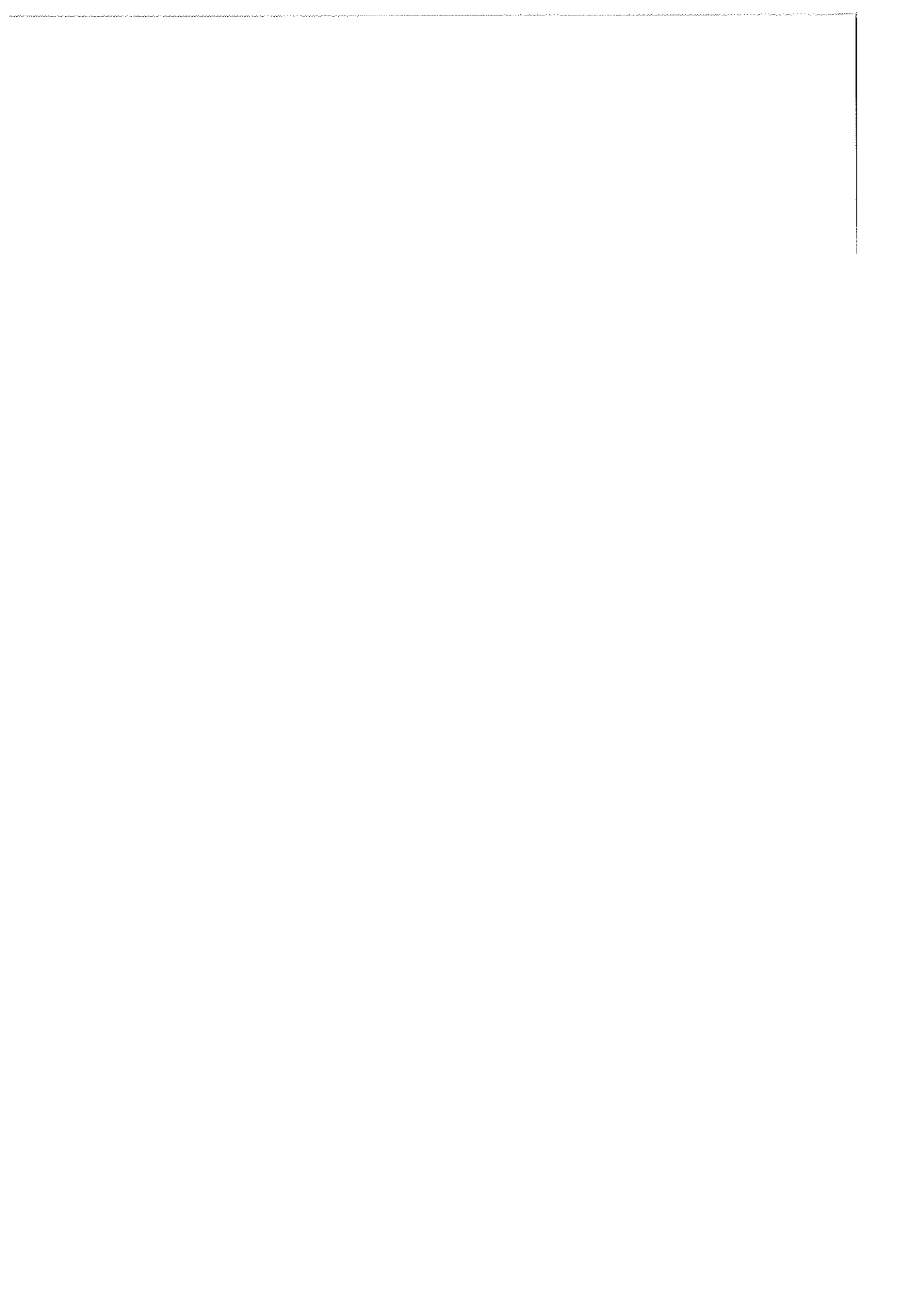
第四週

私たちは、

一致に向かいつつあるでしょうか？

Are We
Becoming
One?





第四週

私たちは一致に向かいつつあるでしょうか？

一日目 結婚における私たちの愛を強めるために

二日目 私たちの理性を開くために

三日目 私たちの心を溶け合ったひとつの心とするために

四日目 私たちの意思を一致させるために

五日目 私たちの心の奥深くにある自己を明らかにするために

六日目 神の愛について分かち合うために

七日目 顔と顔を合わせての出会いを体験するために

『私があなたがたを愛したように、あなたがたも愛し合って！』

ナザレト（*）のイエズス

（*）ナザレト II イエズスが少年期・青年期をすごした、

ガリラヤ地方の町。マタイによる福音書二章23節を参照。

一致していくには

第四週は、このワークブックの中心となる部分です。まったく一致の体験を味わうことによって、幸せな結婚生活にいたる道を発見する機会を、それぞれの夫婦のみなさんに提供するのですが、この第四週の主な目的です。

一致は、結婚生活を営むどの夫婦に対しても、神がいておられる夢なのです。同時に、夫婦のだけれども、心の奥深いところで一致を切望しています。まったく一致への道のりは、結婚と家族生活における幸せへと向かう、神秘的なプロセスです。

結婚生活における不幸とは、夫婦が、自分たちの生活はひどくたりかみあっていないとはっきり悟り、さらに、どんどん分裂していってしまう一方だと気づいたとき、見いだされるものです。こうなると、苦々しい挫折感やどうにもならない無力感で、夫婦たちは圧倒されてしまいます。あげくのはてに、幸せな結婚を心から望んだって、どうせ、くだらない幻想だし、かないっこない夢なんだ、という致命的な結論にたどりつくのです。なぜ、結婚を営む現代の夫婦たちのひじょうに多くが、こうしたとりかえしのつかない思い込みにはまり込んでしまうのでし

ようか？

一般的に見て、結婚生活にフラストレーションがたまり、不幸せを感じるようになるのは、一夜にして起きることではありません。長い間続いてきたフラストレーションや空しさがつもりつもった最後の段階なのです。そのようなフラストレーションや空しさの原因は、肉体の一致こそ結婚の幸せの秘訣だ、とまちがって信じているところにあります。夫婦の肉体での一致は、神の意向にそって見るとき、もっと深い、あるものの、目に見えるしるしだ、ということなのです。つまり、理性の一致、意思と魂の一致のしるしなのです。ですから、配偶者同士が身体だけ一致したところで、その前に、理性・心・意思・魂という精神的内面的な一致が伴わないならば、意味のない空虚なしるしにすぎなくなってしまうわけです。

理性・心・意思・魂の出会い、結婚における幸せの大切な要素です。では、夫婦が一致するために、精神的内面的な出会いのキーとなるものは、何でしょうか？

相互の信頼

相互の信頼は、一致していくために求められる、人間らしい方法です。相互の信頼とは、どのようなものでしょうか？

♀ お互いが、人生に関して、心の奥深くまでオープンであること。

♀ お互いにあますところなく自己を分かち合う力。

♀ 伴侶に対して忠実で、希望をもって相手と関わること。

♀ 前向きなやり方で配偶者とすべてを分かち合おうと、個人的に決意すること。

♀ 内外のあらゆる困難にもめげることなく、いつでもすべてを配偶者に分かち合おう！、そういった意向をいつまでも持ち続けること。

♀ 毎日、ごく小さなことをお互いに分かち合う習慣を持つこと。

♀ 仮面をかぶったり、うそをついたり、どうとでもとれるような言い方などせずに、お互いが正直に関わり合うこと。

♀ 何の条件も留保もなく率直に、お互いを与え、また、受けられること。

♀ 職業上の秘密やだれかの懺悔に関することはさておき、あらゆることは、夫婦ふたりの共有であるという、深い確信があること。

♀ 飾り気がなく分かりやすい態度で、お互いに接すること。
♀ 夫婦が毎日通じ合いをしていった結果実りとして現れてくる、成熟した態度。

♀ 配偶者同士が与え合うことのできる自己に関する、かけがえない恵み。

♀ 結婚生活を送る夫婦と神との間にたてられた、誓約、あるいは、聖なるきづな。

相互の信頼を深めていくには、どうすればよいのでしょうか？ 1

♀ 相手に信頼を要求するのではなく、お互いにこちらから相手を信頼をする。

♀ それぞれの実際にあった体験を、毎日分かち合う。

♀ 何かを一緒にする。

♀ お互いに「ラブ・レター」を書く。自発的に一緒に祈る。

証し

夫：

私たちの結婚生活で、信頼といえ、自分に対して、あるいは、妻に対しての忠実さのこと、と考えたいですね。忠実であればこそ、私たちは互いに、自分の内面の深いところにある自己についても、オープンに話せるわけです。こわがったり、仕返ししようと思ったり、裏切ったり、ひどいことをしたりせずすみませぬ。たとえ、今言った全部のリスクを覚悟して飛び込んでいかなきゃいけないときでもね。結婚生活やお互いに対して、こういう信頼や信用がないんだとしたら、ことばで私たちがやりとりをしたとしても、単なるディスプレイにすぎなくなってしまう。頭に浮かぶ思いや考え、あるいは、あったことなんか、うわつつらをなせる程度にしか、分かち合わんでしょね。

私たちのいく人かにとって、まあ、多分たいていは男の場合でしょうが、自分の持っている恐れを人に見せるのは、男のすることじゃないって、子供の時分から教わってきています。「肝のすわった男は、こわがったりしないもんだ」「勇気の

ある男は、決して泣かない」なんてね。こういうことは、ごく小さいときから聞かされてきましたし、気持ちが高まったり何かを感じても、ぐっとこらえて腹の中におさめ、絶対人に知られないようになって、言われてきました。女性に対しては、特に知られるなってね。しかし、結婚生活で信頼するということは、自分の伴侶に信頼するということです。お互いが前よりずっと親しくなってきたら、私たちは、パートナーに、ほんとうの自分を見せてあげなきゃいけません。

私たちの自己には、恐れという部分がありますね。私を感じているいちばん深い恐れを妻に言ったとしても、彼女は、誰にも言わないってわかってます。笑ったりもしませぬし、私がこわがっているからといって、あなどったりもしないって分かってるんです。反対に、心底からもっと優しくしてくれます。彼女に対して私が正直にしているわけですからね。

今までの人生のうち、おそらく、もっとも相互の信頼や信用、さらにお互いに対話することが必要だったときといえ、妻が、乳ガンと診断されたときだっと思えます。私はその時に感じた恐れは、あまりにも圧倒的で、ことばで言い表すことなどできません。しかしながら、問題は、自分が抱えている恐れについて妻に話すことがこわかったことなんです。

彼女は、私よりも、恐れるに足る理由を持っている当人だったわけですからね。私はそう思っていました。つまり、私は健康で、彼女は、そうじゃないんです。

この危機の最初の頃から、私は、表面は強がって見せ、自分の恐れについて妻に分かち合うことはありませんでした。もちろん、心の中に抱えているあらゆる恐れと、本気で立ち向かうことなどありませんでした。しかし、手術の間、待合室でひとり座っているとき、肝っ玉のすわったふりをするのには、もう見切りをつけるべきだって、はっきりわかったんです。それで、自分の感じていた恐れと、ほんとうの意味で向き合うことができ、それを妻に分かち合いました。「君が死ぬかもしれないってこと、わかってるかい？」と、どうやって妻に言ったらいいかが問題だと思っていたわけですが、現実には、問題はこうだったんです。つまり、「君が死ぬかもしれないって事実を、僕はまっ正面から受けとめているだろうか？」ということですよ。

妻が退院した日に、高速道路にはいったところで、君が死んで僕をひとり残してしまっただらと考えると……どれほど恐ろしかったか、彼女に話し出しました。そして、もし今度たいへんなことが起きたときには、恐れていることや思っている

ことを正直に話そう、とお互いに約束しました。お互いに信頼して、正直に対話した結果、妻と私は、自分の心の中にあるほんとうの感情をしっかりと把握できるようになったというわけです。

妻：

対話を定義してみると、思っていること分かち合い、あるいは、親密なコミュニケーションとも言えるでしょう。

夫と私にとって、対話といえば、お互いが自分自身の心を開いての分かち合い、という意味があります。自分たちが持っている感動や、心や肌で感じられる感情、お互いの喜び、恐れ、幸せ、孤独感など全部分かち合うこと、それぞれの生活体験の全体を通して感じているハイな気持ちも、さびしさなども分かち合うのです。これは、私たちの存在の奥深くにあるとても大切なことを分かち合う、という意味があり、思い浮かんだときをのがさず、できる限りありのままにことばにするか、あるいは、目に見える形でお互いに伝えるわけですよ。

信頼だけを持つこともできますし、信頼せずに対話するこ

とも可能です。でも、信頼と対話は、みごとに互いを高めていくものなのです。信頼するということは、自分自身の心を開きまけて分かち合う力を意味します。さらに、対話のほうは、ちょうど私たちが使うことのできる乗り物のようなものです。信頼という力が、対話という乗り物を動かし、ひとつになって進んでいくと、相互の信頼が生まれてきます。この相互の信頼が、私たちの友情をつくりあげていってくれるものです。

この何週間何ヶ月かの間、夫を信頼することは、私にとつて、前よりもっと重要なものとなりました。治療を施されて私の外見は前とちがってきてしまいました。こうなると、私のうぬぼれや自分なりのみてくれなど、ほんとうにすべてのことに、影響が及びました。

こんな風にまで考えるようになったんです。「おなかや顔には毛が生えてきちゃってるし、腕や肩には今までなかった筋肉までついてしまって、こんなに、醜く切られてしまった胸をした女…、こんな女を、一体どうやって、男が愛することができるのかしら？」

一度彼にこう尋ねたのを思い出します。「もしあなたが死

んで、私が誰かほかの人と結婚したとするでしょ…、そうしたら、『私の胸かわいくないの』って、ベッドにはいる前に言うほうがいいかしら、それともあとに言うべき？」って…。

私が恐れを感じる度ごとに、夫は、初めから終りまで、私につきあって話し相手になってくれました。彼が私を愛してくれていることを、ことばや彼のしぐさなどからはっきり確かめるのは、私には必要な慰めだったんです。心の奥で恐れを感じながらも、私は、彼を信頼することができました。それに、私が心打ち明けたことをほかの人に話してしまったり、あるいは私の言ったことを馬鹿にしたりして、うらぎるなど、彼は絶対にしない、とわかりました。

ほんとうの意味で、私たちはお互いを信じていましたし、心から打ち解けて対話しました。こうして、夫も私も、ふたりの生活のむずかしい時期を乗り切ったんです。

以上が、私たちにとっての信頼と対話の姿です。喜びを分かち合うのと同じように、重荷をも分かち合います。希望を伝え合うのと同様、自分たちの感じている恐れも伝え合います。強さだけじゃなくて、弱さをも分かち合うわけです。

ラブレターを書くには

私が、最後に自分の伴侶宛てのラブレターを書いたのは、いつのことだったでしょうか？ 結婚式の後、ラブレターを書くのをやめてしまったのは、なぜでしょうか？

世界中の数千の夫婦たちの体験を元に見てみますと、自分の伴侶にラブレターを書くことは、結婚生活における通じ合いと相互の信頼を高める、实际的でエキサイティングな手段であることが分かります。

ときとして、ラブレターは、自分の個人的な実際にあつた体験を表現する最高の手段でしょうし、また、心から心へダイレクトに、正直に、愛のあるスタイルで、自分の配偶者に手をさしのべる、最善の方法でもあるのです。またあるときは、ラブレターを書いたことによって、それが、お互いに和解を必要としているふたりにとって、ぴったりの架け橋となる場合もあります。

どうやって、ラブレターを書いたらよいでしょうか？

ラブレターを書くこと自身、個人的な事柄です。以下に、ちよつとしたアウトラインを載せておきます。私がかち合つてもらった、夫婦のみなさんラブレターを、まとめてみたものです。

1 自分の伴侶のことを、頭と心でしっかり意識します。それから、自分が、伴侶に対して、もっとも分かち合いたいことが何か、よく内省します。

2 愛情のこもった自発的なことばで書き始めましょう。心からの誠実なほめことばや、暖かいあいさつ、ちよつとした良い知らせ、などで始めます。

3 正直に、単純に、書きます。知的なことばや洗練された表現などは、避けましょう。

4 ありのままの自分を書きましょう。私たちひとりひとりの、個人的な、実際にあつた体験を書くわけです。

5 会話調にし、暖かい感じを醸し出しましょう。細部にまで愛の行き届いた書き方をします。

6 肯定的に書きましよう。私たちがお互いに協力し合え、励みとなることや、ふたりでチャレンジしていくこと、などを強調するわけです。

7 デリケートな心遣いをもって、元気に書きましよう。私たちの苦しかった体験は、相手を思いやりながら優しく書くようにします。

8 ラブレターの中に、自分がわかったことや、相手へのいたわりが強く響くようにさせましよう。

9 相手を元気づける親愛の情をことばにして、しめくります。

10 渡すのにピッタリのとかがくるまで、ラブレターを手元に持っていますよう。

自分の配偶者に、ラブレターを書く準備ができましたか？

それでは、とりかかって！

結婚における私たちの愛を強めるためには

ある夫婦のラブレター

親愛なる妻へ

僕を魅きつける君のすばらしさのひとつは、何といっても、君の愛らしさだ。特に、その輝くような瞳と美しい笑顔はたまらない。それを見るにつけ、ひとりの女性としての快活さを感じさせてくれる。

君が好きだ。だって、僕のジョークに笑ってくれるからね。はじめての僕たちのピクニックのとき、お金をたくさん使っちゃいけないって、君が言ったのが、印象に残っているよ。だって、少尉はそんなに高給とりじゃないって、君には分かっていたからね。君が、自分の家族について分かち合ってくれたり、家族をどれほど誇りに思っているか分かち合ってくれるのも、好きだ。

君の上司が、君のことをとっても正直な人だって言ってくれたのも、心に残っている。僕もそう思う。たいていいつでも、君は正直だし、オープンな心を持っていて、勇気がある。そして、リスクを負うことがわかっていても、正しいことはやるうとするその心意気に感服する。これが、僕が尊敬していてもうらやましいとも思っていること、子供たちにも持ってもらいたいと願った、君の長所だ。しばらくしてから、僕自身もこういう長所を身につけていく必要があるとわかったし、きっと、できるだろう…。

僕は君と結婚したんだ。こういうすべての良い理由からね。それに、今まで会ったどの女性より、君と一緒にいるのが心休まったからね。

ウォー！ 君をすっごく愛してる。

夫

地 地 地

親愛なるあなたへ

私たちが分かち合えば分かち合うほど、あなたがなんて楽しい人なんだろうって、新たにわかってくるわ。それなのに、あなたはとも礼儀正しい。地に足がついている感じだし、ものを見る目もあり、神を深く信じている。

最初会ったときから、あなたにはこういった良いところがあったけど、あなた、もっと私にとって素敵になってきてるのよ。ここ数年、私は、あなたがすばらしく成長を遂げてきたのを見てきましたから。

閣下！ 今ではもっとおもしろくて心の暖かい人だし、前よりさらによい聴き手だし、私のニーズや心の痛み、望み、期待していることによく気づいてくれるし、より励まされ、信仰深くなった、あなた。私にとって、きわめつけに特別の親友よ。

毎日、あなたと一緒に人生を送れること、ほんとうに嬉しく思います。

神様が、私に、あなたを与えてくださったことを感謝します。

心からあなたを愛しています。

あなたの妻より

オリエンテーション

第四週・一日目の目的は、自分の伴侶にラブレターを書くことです。パートナーに自分の愛を伝えるのです。

どうやって、やりましょうか？

伴侶に、自分の抱いている愛を示すため、ラブレターを書きましょう。次にあげた質問についてよく内省してから、力のかぎりをつくして、愛を表現し、愛していることを力説し、ことばにしてみるわけです。

1 もっとも私を魅きつける、あなたの持っている長所は、何でしょうか？

2 なぜ、私は、あなたと結婚したのでしょうか？

3 どれほど深く、私はあなたを愛しているでしょう！

前述の質問についてよく内省してから、ラブレターを書いてください。←

1 優しさ () ユーモア () 愛らしさ ()

オープンさ () 信仰が深い () 正直 ()

楽観的 () 成熟さ () 寛大 ()

謙虚 () 聴く耳がある () 誠実さ ()

礼儀正しい () 理解がある () 受けいれる力 ()

ゆるす力 () 穏やかさ () 愉快 ()

奉仕するセンスを備えている () 忍耐強い ()

思いやりがある () 配慮がある () 正義漢 ()

頼りになる () その他 ()

2 前述のリストを参考にしてください

3 命を与えるほど ()

↓「愛する者のために命を捨てること、これ以上の愛はない。」

(フランシスコ会訳・ヨハネによる福音書十五章13節)

(注) 第四週は、毎日ラフ・レターを書いていきます。書きあげたラフ・レターは、第四週・七日目に、六通までめてパートナーに渡しますので、それまでは手元に残っていてください！

何度でもゆるすくらい

()

↓「そのとき、ペトロはイエズスに近寄って、『主よ、兄弟がわたくしに対して罪を犯したならば、何回までゆるしたらよいのでしょうか。七回までですか』と尋ねた。イエズスは答えられた。『わたしはあなたに言う。七回どころか、七の七十倍までもと。』

(フランシスコ会訳・マタイによる福音書十八章21〜22節)

ふたりの間を離れさせる事や人を絶対許容しないほど

()

神の次に、何よりもだれよりも優先するくらい

()

その他

()

私たちの理性を開くために

ある夫婦のラブレター

親愛なる妻へ

今夜は、君にうちあけねばならないことがあるんだ。それは、こうだ。僕は、これからもずっと生きつづけ、もっと成長し、神が僕にそうなるようにと望んでおられる、かけがえのないユニークな人間になっていきたい。つまり、もっと愛の深い人、もっと心の開かれた人、もっとリスクを負う意気込みのある人間、自分も回りの人をもさらに受けいれることのできる人間、臨機応変で、柔軟性に富み、いろいろなことに興味を持ち、あれこれトライすることに倦むことなく、自分と自分のやることには、さらに責任をとれるような人間、そういう人になりたい。

これからも君とずっと暮らし続けていきたいと思っている。だって、君はとても美しいし、チャーミングで、信心深く、そ

れに魅力的だ。君といると、ありのままの自分でいることができるんだ。君は、僕が成長するようにチャレンジしてくれるからね。君は楽しい人だ。僕たちのセックスもとても充実している。君がもっと成長し、君らしくあれるように、僕も協力できると思う。というのも、勇気があって、オープンで、正直で、愛すべき、君のキャラクターから僕は学べるわけだし、そうすれば、僕自身も成長できるからだ。

僕らに関して抱いている夢は、近い将来仕事をやめられたら、一個の人間としても、夫婦としても、家族としても成長し続けていけるだろうということだ。そうすれば、個人でやることや夫婦で取り組むことも、思う存分できるだろうからね。一緒にやっける奉仕活動を広げることもできるだろう。神の平和や喜び、そして愛を知るようになるだろう。家族での僕たちのきずなをもっと美しいものに成長させていこう！ これからも、僕たち自身の中にある優先順位を大切にしていこう。つまり、神、僕たち夫婦、家族、隣人、それから奉仕活動、という順にね。君のおかげで僕のこういった夢は浮かんでくるんだ。僕を愛してくれて感謝している。

いつも君のことを愛している。

君の夫より

親愛なるあなたへ

あなたも分かっているように、神様は、無条件で他の人たちが愛するように、私を使っておられるわ。そして、これこそ、生きていくってことの素晴らしい理由なの。だれかから拒絶されたり、叱られたりしたとき、心を取り直して、自分がその人の苦しみの原因となってしまうことを素直に謝り、ゆるしを願う…。これは、どんな場合でも人を愛するという恵みだと思っ、心から感謝しています。私の心の痛みを主に委ね続けることができ、そして、他の人の心の傷、その人なりのいつもの反応を引き出してしまう、その心痛をみとめることができるなら、私の人生は活気のあるものになると思う。

あなた、私がおっとよい人間になり、自分や他の人のことを忍耐できるよう助けてくれて、ありがとう。あなたは、私にとっ、ピッタリの人だわ。まずなによりも主を優先にできるようにしてくれる。あなたが、神に深い信頼をよせる人としてよい模範となっているからよ。私は、恵まれています。

主が、どのように、夫婦としての私たちを他の人に捧げるため使おうとしておられるのか、それをもっともっと知ることができたらと…、私は夢見ています。私たちの暮らしゃ私たちが

証しをしていくことによって、これからも、他の結婚しているカップルが正しい道を歩んでいくための助けとなるんだったら、夫婦としての私の夢は実現することになるわけです。

いつまでも、私は、あなたを愛しています。

あなたの妻より

オリエンテーション

自分の配偶者にラブレターを書きましよう。内容は、自分の
 いただいている主な夢、さまざまな思い、意見、判断、確信して
 いること、優先する事柄、信じていること、生きて人を愛する
 理由、などについてです。そうすれば、私たちは、理性におい
 てひとつになれるのです。

内省するために、以下の質問を使ってください。

- 1 私がこれからも生き続けていきたいと思う主な理由は、何
 でしょうか？
- 2 私がこれからもあなたと生きていきたいと思う主な理由は、
 何でしょうか？
- 3 あなたと私について、私が抱いている夢は、どんなもので
 しょうか？

以上の質問についてひとりでもよく内省してから、自分のラブレ
 ー

1自分の長所を発見し、発展させるため

自分の短所を克服するため

自分の個人としての使命を発見し、実行するため

神との関係をいっそう深めるため

その他

2あなたに対する愛やあなたとの関係を

いっそう深めるため

あなたが自分の神との関係を深められるよう助け、

協力するため

あなた（私たち）の夫婦としての使命を発見し、

それを実行できるようにするため

私たちの子供が、愛し合っている親の愛を実感すること

によって、成長し幸せになっていけるため

その他

3夢とは、

霊的なもの

知識的なもの

（ ） 社会的なもの

（ ） 経済的なもの

（ ） その他

レターを書きましよう。

たとえば、

夫婦として福音を活かす

()

困っている人たちを助ける

()

お互いの、肉体的に癒しを必要とするような問題を

克服する

()

お互いの人格を深める

()

借金を返済する

()

その他

()

私たちの心を溶け合ったひとつの心とするために

ある夫婦のラブレター

最愛の妻へ

僕がもっとも恐れていることのひとつは、他の女性に魅かれてしまう弱さがあるということだ。これは、僕が成功することを恐れているのと、関連があると思っている。僕たちはとっても幸せだし、セックスもとても充実している。他のあらゆることとでうまくいってる。でも、僕の中には、なにかも台なしにしてしまいたいような、欲望というか、生理的欲求があるんだ。僕の父親も、浮気の常習だった。

父である神よ、この問題をあなたに委ねます。ありがとうございます。主よ。あなたの愛、守り、恵み、そして、強めてくださっていることを、感謝します。

特に退職してからの、僕たちがお酒を飲む習慣（ほんとうは僕の飲み方）についてなんだけど、心配している。ウィークデーはいっさい飲まずにうまくやってくけど、週末になると飲みすぎちゃう傾向が僕にはある。ありがとうございます、主よ。ひかえめにお酒を飲もうという望みと、それを実行する恵みを与えてくださることを感謝します。

僕の喜びといえば…、リラックスすること、一日に三・四時間は何かを作るといふようなクリエイティブなことをやって満足味わうこと、ふたりのセックスの関係を持つこと、旅行したり、旅の計画を練ったり、夕食を外で一緒にしたり、君とふたりでいたり、分かち合ったり、成長していくこと、家族と共にごすこと、いろいろな問題を受けとめ取り組んでいけるよう、神の恵みに心を開くこと、です。

僕が君に期待しているのは、いつまでも僕の愛らしい妻であってくださること、これからも僕と共に成長し分かち合ってくれること、僕がありのままの自分でいられるよう、成長していくための支えとチャレンジを与えてくれること、僕が仕事を辞めてからも、僕たちのこれからの奉仕活動においても、すてきですばらしい奥さんであってくださること、です。

サリ、とても愛しているよ。君はきれいだ。

愛をこめて

夫より

うことで前よりずっと深い愛情がもたらされたことについては、とても嬉しく思っているわ。あなたが自分のことをもっと分かち合ってくれることは、私、期待してもいいと思っています。だって、私にはそれが必要なんですから。そうできると思うと、元気になっちゃうわ。

私を愛してくれていること、感謝しています。

親愛なるあなたへ

妻から

あなたに分かち合うのがむずかしく思える心の傷のひとつは、エド…、私の話に本気で耳を傾けてもらおうニーズが、私にはあるの。私がすごしている日常のこと、私が今までやってきたこととや抱えているフラストレーションのことも、あなたが心を配ってくれているって、知りたいのよ。おさなりに尋ねられて、答えても右の耳から左の耳に抜けていってしまうようにじゃなく。

私が話していることには何の関心も示さないで、あなたが自分の世界にとじこもっているのを見ると、私嬉しくないわ。

私たちの味わっている親しさ、それから、こうして分かち合

オリエンテーション

今日書こうとしているラブレターの目的は、私たちが持っている、感情、気持ちの動きや感動したこと、恐れていること、関心のあること、期待、失望したこと、挫折感、印象に残ったこと、喜び、苦しいこと、嘆き、幸せと不幸せを分かち合うことです。ひとつの心になるために、分かち合います。

初めによく内省するようにしましょう。それから、ラブレターにとりかかります。ここにいくつかの質問を用意しました。

1 私があなたに分かち合うのがむずかしいと思えるものは、何でしょうか？

感情、恐れ、関心、失望、フラストレーション、苦しみなど。

2 現実を見て、私たちの生活を不幸せにするものは、何でしょうか？

では、幸せにしてくれるものは、何でしょうか？ ←

1 『私の短所の例 (105頁)』を参考にしてください

2 「幸せにすること」

お互いの愛 () ゆるし合い () 受けいれ合い ()

相互の理解 () 協力 () 共に祈る ()

オープンな心 () 助け合い () ユーモア ()

忍耐 () 一緒に意思決定する ()

思いやり () お互いの欠点を受けいれ合う ()

通じ合い () 劣等感がないこと ()

マザコン・ファザコンでない ()

自然の美しさを愛する ()

お互いの家族を愛する ()

子供たちを愛し尊敬する ()

信仰を分かち合う () レジャーの時間を共に過ごす ()

一緒に食事をする () その他 ()

「不幸せにすること」

「幸せにすること」の逆

3 私があなたに期待していることは、何でしょう？

3 前述の例を参考にしてください

私たちの意思を一致させるために

ある夫婦のラブレター

親愛なる妻へ

建設的にやっていけるしるしがあったので、僕は、人生を、君と共にすこす決意をしたわけです。そのしるしとは、僕たちがよく分かち合えること、僕たちの家族（つまり、息子たちや嫁、そして孫たち）が成長していっていること、僕たちのやってくる奉仕活動、それに、もうじき仕事を辞めること、です。

君のニーズにもっとよく耳を傾け、その願いを満足させてあげる必要が僕にはあると思います。たとえば、昨日のように、君が外食しようと言ったときなど。

僕の限界には、困難に身をさらすのを恐れること、君や他の人に対するオープンな心が足りないこと、…これは、君に責め

られるんじゃないかとこわいからです…、それに、優しく君と向き合おうとしないこと、があげられると思います。

僕の中に秘められている可能性を発揮して、神の恵みに力づけられながら、僕は、もっとオープンな心に、もっと愛のある人に、もっと正直に、もっと優しく君と向き合う人になろうと思います。たった今からも、自分が変わらないことのほうがよっぽど苦しいのですから、自分自身を見つめることを仕事よりもっと重要なこととしてとらえ、あえて困難に乗り出していきます。こわいなあ、と思います。罪悪感や恐れを感じています。

神の支えと、愛深く誠実な妻である君と一緒に、僕は、残された自分の生涯を、オープンな心で、正直に、愛をもって送る決意です。こういう態度を、神に対する信心が足りないとか、現実的じゃない、とか言って隠したりしません。

愛しているよ、おまえ…。

夫より

W W W

親愛なるあなたへ

私が心からもっと願っていることは、日毎に成長して主である神に近づいていくことです。あなたと一緒に暮らすことで、それは前よりずっとやさしいものになりました。ですから、私の心からのこの夢を実現するため、私が、いつもあなたを必要としていることは、まちがいません。あなた、すばらしい人よ。

あなたにとって、髪の毛を洗うことがたいそう面倒なことであると、私には認める必要があると思います。このことは、もっと話し合います。そうすれば、もっと理解できて、あなたをシャンプーする気にさせる秘訣もわかってくると思います。愛してるわ。

ねえ、あなた、私が銀行に預金しているお金について気を使ってくれないこと、悲しく思います。あなたと一緒に遊びに行くのは楽しいし、旅行やプレゼントなんかを使うのを満喫してはいます。でも、私が使うより余計にそっちにとられてしまうのには、鬱憤がたまります。ある期間おいて、そういう気持ちになります。最近の二度の旅行で銀行の口座を分割したときなんかね。多分、もっとお金をためるように毎週がんばるべき

なんでしようけど、きりつめながら首尾よくやっていくなんて、私は嫌です。そうすべきなんだとは思うけれど…。お金のことについては、あなたもよく考えて、私をもっと楽になるように助けてほしいと思います。

私の友達でいてくれること、ありがとう。

妻より

オリエンテーション

今日の私たちのラブレターには、次のことについて書きましよう。つまり、私たちそれぞれが持っている、個人としての願、欲求、感じ方、何らかの選、解決策や決めたこと、目標、好きなことや嫌いなこと、誓約したこと、意思を一致させるための態度や努力、などです。

まず、よく内省するようにして、それから、手紙にとりかかります。以下にいくつかの質問を載せておきます。

1 あなたからの助けをもらうために、私がかち合う必要のある事柄には、どんなものがあるでしょうか？ たとえば、私自身がもっている、個人的な願、欲求、感じ方、何らかの選、解決策や決めたこと、目標としていること、好き嫌い、誓約、態度や姿勢、など。

2 私には、正直に言って、いまだにあなたについて受け入れられないことの中で、何を、受け入れる必要があるでしょうか？ ←

1 受けいれ () 忍耐 () 健康 ()
自己本位 () 家族より仕事を優先する ()
転職 () 会社あるいは「昇進」に躍起になる ()
配偶者の家族あるいは友人に好き嫌いの感情を持つこと ()
貧しい人を助けるよう誓約する () その他 ()

2 『私の短所の例(105頁)』を参考にしてください

3 一生の伴侶としてあなたを選んだ肯定的なしるしには、どんなものがあるでしょうか？

3 配偶者を優先するために仕事を辞める

思いがけない行動（たとえば、姦通）をゆるす

配偶者を優先するために、

親戚・友人から距離をおいて暮らす

相手の肉体的な弱さを受けいれる

子供よりも配偶者を優先する

その他

()

()

()

()

()

()

()

私たちの心の奥深くにある「目」をあらわにするために

ある妻の証し

イエズスが言ったみことば「真理はあなたがたを自由にする」というのがありますが、夫と私にとって、このみことばは特別な意味があるものです。というのは、このみことばこそ、心が死んでしまった状態にあった私たちの結婚生活を救ってくれたのですから。夫と私が結婚したとき、私たちは、60年代にありがちだった理想主義者でした。つまり、ほんとうにこう信じていたんです。つまり、もし私たちがお互いに何もかもまったく正直であれば、今自分たちが持っている友情も愛もいつまでも保ち続けられるにちがいないって。後になって、私たちの肉体の貞節が試されたとき、私たちのこの理想主義も証明されました。

結婚の最初のころですが、夫の「不貞行為」が顔を出してきました。浮気よりはひどいことで、完全な情事とまではいきま

せんでしたが……。彼は罪悪感で一杯になり、心はスタスタに引き裂かれていました。私にほんとうのことを言おうか言うまいかで呻吟したあげく、夫は自分の犯したあやまちを、隠さずに認める決意をしたんです。それから約七年たって、私もしばらくの間浮気をしてしまい、やはりそのことを彼に告白しました。

「わかりさえしなければ、彼が傷つくこともないだろう」とか、「そんな心の痛手に彼が耐えられるわけではない」と考えていました。これは、夫を過少評価していることでした。でも心の深い部分で、私は、夫は成熟した大人なんだと、信頼をいだいていたのです。私が心からの愛をもって打ち明ける限り、真理と真つ向から立ち向かうことができるにちがいないって。私たちの愛は強く、この対決を乗り越えていける！ と、「山ほどの信仰」をもって自分に言い聞かせる必要がありました。

お互いが何か秘密を持ち続けていたならば、人生の残りの日々をうそにつぐうそで塗り固めていくことになっていたでしょう。運悪くうっかり「口がすべっちゃた」ことがないだろうかと、いちいちしゃべったことを点検しなければなりません。実際のところ、最初相手をだましていたときは、いりくんだクモの巣をはり巡らしているかのようにでした。うそをついて夫をまるめこんでしまったなら、私は、自由に考えを巡らしたり、

自由に言葉を発することなど絶対できなかったでしょう。いつだって、センサーをめぐらし、自分を見張っていなきゃなりません。いつだって、壁でガードしている感じだったにちがいないりません。私の持っているぎどらない態度も自発的な性質も抑圧され、罪悪感のために私はおしつぶされてしまったことでしょう。愛することが、喜びどころか、重荷になってしまおうのですから。

夫が私にほんとうのことを話してくれたとき、私は傷つき怒りました。私が彼にほんとうのことを話したときも、彼は傷つき怒りました。しかし、ほんとうのことをオープンにしてしまってから、私たちは、わめき、言い争い、泣き、それから静かに座って、何時間も話し合うことができました。私たちは、感じていることのすべてを表に出すことができました。真理に与っての危機ともいえる、このような出来事があると、心の中に閉じ込められていたちっとも知らなかったことさえ、しばしば、わかるようになってくるものです。こうして、私たちは、自己を相手にあらわにすることができ、より深い自己認識を得ることができました。…私たちの友だちとしてのきづなも同じように深まりました。

のちに、夫と私がマリッジ・エンカウンターに参加したとき、

私たちがやった例の長時間の話し合いがイキな名前で呼ばれていることを知りました。対話、です。ほんとうのことを言わなければ、対話になりません。真理なきところ、心からの親しさは生まれません。真理あればこそ、ときとしてそれがどれほど相手を傷つけるかどうかに関係なく、前よりはるかにお互い成長し親しくなれる可能性を、私たちは持っているのです。ことはで言い表わすよりもっと親密で、セックスで表現しうるよりずっと密接な関係…。それは、魂と魂でしっかり一致することです。

オリエンテーション

いつわらざる自己の、もっとも深い部分を、自分の配偶者にあらわにするため、自由な態度で友だちのように相手を信頼する必要があります。こうして、私たちの個人的な事柄について、ラブレターを通して伝え合ひましょう。個人的な事柄とは、困っていること、もがき苦しんでいること、誘惑、欠点、克服したこと、疑い、心の中の苦しみや深く慰められたこと、ちょっとした秘密、重大な隠しごと、などです。こうして、私たちは配偶者を、自分自身の心のいちばん中心となる部分に受け入れることになり、ひとつの魂になることができるわけです。

みなさんのインスピレーションになるならと思います、以下の質問を用意しました。

1 心の奥深くにある自己をあらわにすること、あるいは自己発見についてですが、私があなたに分かち合ひたいのは、どんなことでしょうか？

2 もっとも落ち込んでしまったときでも、もう一度奮闘努力できるよう私を立ち直らせてくれるものは、何でしょうか？

1 弱さと誘惑

↓セックスに関して ()

金に関して ()

権力に関して ()

物に関して ()

その他 ()

困っていること

()

↓劣等感

自己嫌悪 ()

秘密 ()

子供のときの体験 ()

敵 ()

ある罪に対する傾向 ()

その他 ()

慰め

()

↓愛されたり、

ゆるされたり、

()

受けいれられたする、

()

そういった確信からもたらされるもの

()

その他

()

もがき苦しんでいること

()

↓自分を愛すること ()

()

3 あなたの心の奥深くにあることで、私がいとも知りた
いと願っていることは、何でしょうか？

それでは、内省して、その後にラブレターを書いてください。

愛を表すこと () ()

誘惑を克服すること () ()

その他 () ()

2 私たちの結婚はしっかりした土台に基づいている、

という確信

相手をゆるしたり、受けいれたり、

過去のことを忘れたりする意思

その他

()

()

()

3 1の例を参考にしてください

神の愛について分かち合うために

ある夫婦それぞれの神への手紙

親愛なる神様

あなたは私の救い主になってくださった。私のために死んでくださった。とても力強く、愛に満ちていて、私の最高の友だちになってくださった。これらのことを心から感謝します。私をゆるしてください、私を選び出し、あなたがご自分の人生を生き抜かれたのと同じように生きてほしいと、私を使ってくださること……、ありがとうございます。

結婚生活で傷ついた私たちの心の傷を癒してください、和解決と平和の心を夫婦にお与えくださったことを感謝します。

それから、主よ、セックス不能の状態に陥ってしまおうという、僕の問題を癒してください、ありがとうございます！ あなたは、ほん

とうに偉大なお方です。

私たち夫婦が、ずっとオープンな心をもち続け、愛し合い、通じ合い、個人としても成長し、さらに、あなたとの関わりも、夫婦互いのそれも、より密接になったことを、感謝します。

私はあなたを愛します、主よ。

夫

✍ ✍ ✍

親愛なる天の御父よ

あなたに手紙を書くなんて、これはすごいことです。だって、私はこんなことめったにしませんでしたから。あなたは私にほんとうによくしてくださいます。あなたは私を選び出し、ご自分のものになるよう私を呼んでくださいました。とても深く私を愛してください、犯した罪をゆるしてくださいました。私の人生をイエズスのおかげで充実したものにしてくださいました。

私の主よ、私を救ってください、私の方、私の王様、そして、私

のすべてであるあなた！ああ、こんなによくしてくださったことを心の底から感謝しています。いつも私を愛して、力づけてくださいました。どうやってあなたが私をお使いになるか、私に示してくださいました。

そして何にもまして、私があなたから離れることのないようにしてください。

あなたが愛してくださいなさっている娘、妻

私が世の中をどう渡っていけばよいのかについて、あなたはすばらしい模範となってくださいます。私がしなければならぬこと……それは、あなたが私を深く愛してくださいている、その愛をよく内省し、それによってあなたのご意志が私の上に果たされるようにすることです。そうです。「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合って！」という、そのご意志……。夫と私が夫婦として、あなたのご意志を果たすならば、私たちのこの地上の生活は、あなたによってワクワクするようになるものと、私にはわかります。

私たちを助けてください、主よ。あなたが私たちにそうなるようにと望んでおられるすべてが実現されますように。

主なる神よ、他人を裁くことのないよう、毎日私を教え導いてください。私たちの住んでいる世界がどれほどちっぽけなものか、私に示してください。そうすれば、あなたが私のために用意しておられる、もっと大きな喜びを垣間見られるでしょう。

オリエンテーション

今日、第四週・六日目の目的は、きわめて特別なものです。

おふたりとも、神に対する個人的なラブレターを書くよう、招かれているわけです。

どうやって、私たちはこれをしていきましょうか？

私たちの夫婦生活に、神が実際におられ働いてくださったことを心に思い起こしながら書けば、それだけでいいのです。

神からの呼びかけ、使命。神からの贈物、才能。神からのインスピレーション。神の与えてくださる光。神の力。神のいくしみに満ちた愛情。神の癒しの力。神からのメッセージ。神の私たちへの友情。神の愛。

まず、次の三つの質問についてよく内省してから、神に手紙を書き出してください。←

1 神よ、あなたは、私にとってどなたでしようか？

1 創造主
愛の源

()
()

2 私は、あなたの愛を、どのような形で感じているでしょうか？

愛深い父親のような存在
救い主

()
()

3 主よ、私があなたにもっとも感謝しなければならないことは、何でしょうか？

友人のような存在
理想的な兄のような存在
癒し主
慰め主
ゆるしてくださいさる方
その他

()
()
()
()
()
()
()

2 1の例を参考にしてください。

3 1の例を参考にしてください。

顔と顔を合わせての出会いを体験するために

証し

嶋 11年間結婚生活を送ってきましたが、自分たちのありのままの姿について、いまだに分かち合っていないかったのだ、とはっきり認めるのは、たいそうきついことでした。でも、互いに「ラブレター」を交わしたことは、とても意味深い体験となりました。今週は、私たちにとって、前には思ってもみなかったことについて見直す、よい機会となりました。今は私たち、新しい結婚生活を始めたみたい、そんな気がしています。

嶋 ほんとうに、今週は、私にとって、最高のものでした。が同時に、もっとも困難な週でもありました。私が、自分の個人的な生活について妻に分かち合ったのは、初めてのことだったんです。いつもひた隠しにしていました。というのも、あまりにも否定的で、自分だけの問題なんだと思

込んでいましたから。ふたりとも苦い思いをしました。しかし、終わってみると、確かに成長できたと思います。床に就くときには、まだ、いろいろな心の痛みを感じていても、彼女の、優しく愛深い態度のおかげで、オープンな心でいるための信頼が培われたと思います。私たちがいちはん深く対話したときのことですが、妻の私に対する愛の深さを見いだせました。彼女が私に分かち合ってくれたことがあります。お互いにもっと愛していることを示すサインが欲しい、そして、もっとセックスを通して愛し合う機会が必要なこと、さらには、毎日の嬉しいこと、つらいことなどを分かち合って通じ合う必要などについて、分かち合ってくれたんです。こうして、今では、私たち夫婦は、暖かく愛に満ちた思いをかけあい、将来に対しても希望を感じています。

嶋 私がかもっとも気にいったことは、ラブレターを通して、まったき信頼をお互いがいただいているのがわかったことです。それは、私たちがよい結婚生活を営むうえで、とても重要なことですから。ほんとうにそう思いますが、神様の助けに支えられて、私たちはふたりの関係に新しい道を開くことができました。

喟 この週を始める前は、気乗りしませんでした。ほんとうの

自分自身をさらすことで、笑われるんじゃないかとか、傷つくことになりはしないかと、思っていたからです。しかし、実りのある体験を今週私たちは分かち合うことになりました。こんなこと、以前にはなかったことです。今までやってきたやり方とちがって、ほんとうにずっと難しいものではありませんでしたが、まったくありのままに、深く通じ合うことができました。

喟 ふりかえってみると、妻と私にとって、今までやってきた

最高の対話のひとつに数えられると思います。お互いに現実の生々しい体験を分かち合い通じ合うことができる、どれほどふたりの関係が深まるのか、はっきりわかりました。ラブレターを交換することで、妻が私を愛してくれているだけじゃなくて、私のことをよく聴いてくれており、それにとっても評価してくれているんだと、もっとよくわかった気がしています。心が洗われたような気持ちで、励みになりました。

喟 この数日間のおかげで、私たちは、今現在のこと、たった

今のことについて分かち合うことができました。それによつて、今まで自分たちがどこに立っていたか、それから、

これからどこに進んで行きたいと思っているか、はっきり分かることができました。まったくめくるめく体験でした。苦しいこともいっぱいでしたが、喜びもまたひとしお、お互いを分かち合い、受け入れ合うこともたくさんできました。私たちをこのような機会に呼んでくださって、ありがとうございました。

喟 何時間も対話して、かつてなかったほど、ものすごく強烈

に、ふたりの一体感や喜びを分かち合うことができました。さあ、これから、私たちの結婚生活は、心のドアを大きくあけて、ありのままのすべてを分かち合う新しい通じ合いに向けて、スタートするところです。

オリエンテーション

ふたりともラブレターをすべて書き終わったところで、お互いにそれを交換する時間がやってきました。

この時間を、今までにないユニークで忘れがたい特別なものとするため、お気に入りの場所を選んで、ゆったりと腰かけ、ラブレターについて分かち合い話し合うのが、よいでしょう。愛のある心穏やかな態度で、お互いに相手を受け入れ、信頼するようにします。

やり方の提案

- 1 始めるときには、お互いに向き合って、優しく愛のある態度を示しましょう。たとえば、思いやりを表すしぐさ、スキンシップ、キスしたり、抱き合う、などです。
- 2 ろうそくに火を灯し、短い祈りを捧げて、主が、私たちの分かち合いにきてくださるようお願いしましょう。

3 それから、自分の書いたラブレターを交換して、二度、読むようにします。一度目は、理性によって相手の言葉んとすることを読みとります。そして、二度目は、心にくみとりながら読むわけです。

4 自分の伴侶から渡されたラブレターを全部読み終えたら、自分なりのコメントを伝え合うことができるでしょう。そのコメントは、次のようにしていきます。

肯定的に。否定的なコメントは、いかなるものであれ避けましょう。

感謝の心を表しましょう。伴侶の書いてくれたラブレターのおかげで、もっとも励ましとなったことについて、感謝します。

相手にゆるしを願ひ、また、相手をゆるしましょう。ラブレターを読んでいるとき、気づいたあやまちや失敗があれば、何であれ、ゆるし合ひましょう。

相手を力づけ、励まし合ひましょう。自分の伴侶が必要としている、力づけ、勧め、励ましなどは、どしど

し、お互いに分かち合います。

♀ お互いの心の中から浮かびあがってきた、特に響くメッセージがあるならば、しっかりと伝え合きましょう。

♀ 何らかの誓いや誓約をしましょう。結婚における愛と通じ合いを、生き生きと成長させられるよう、愛の炎を燃やし続けるためです。

第五週

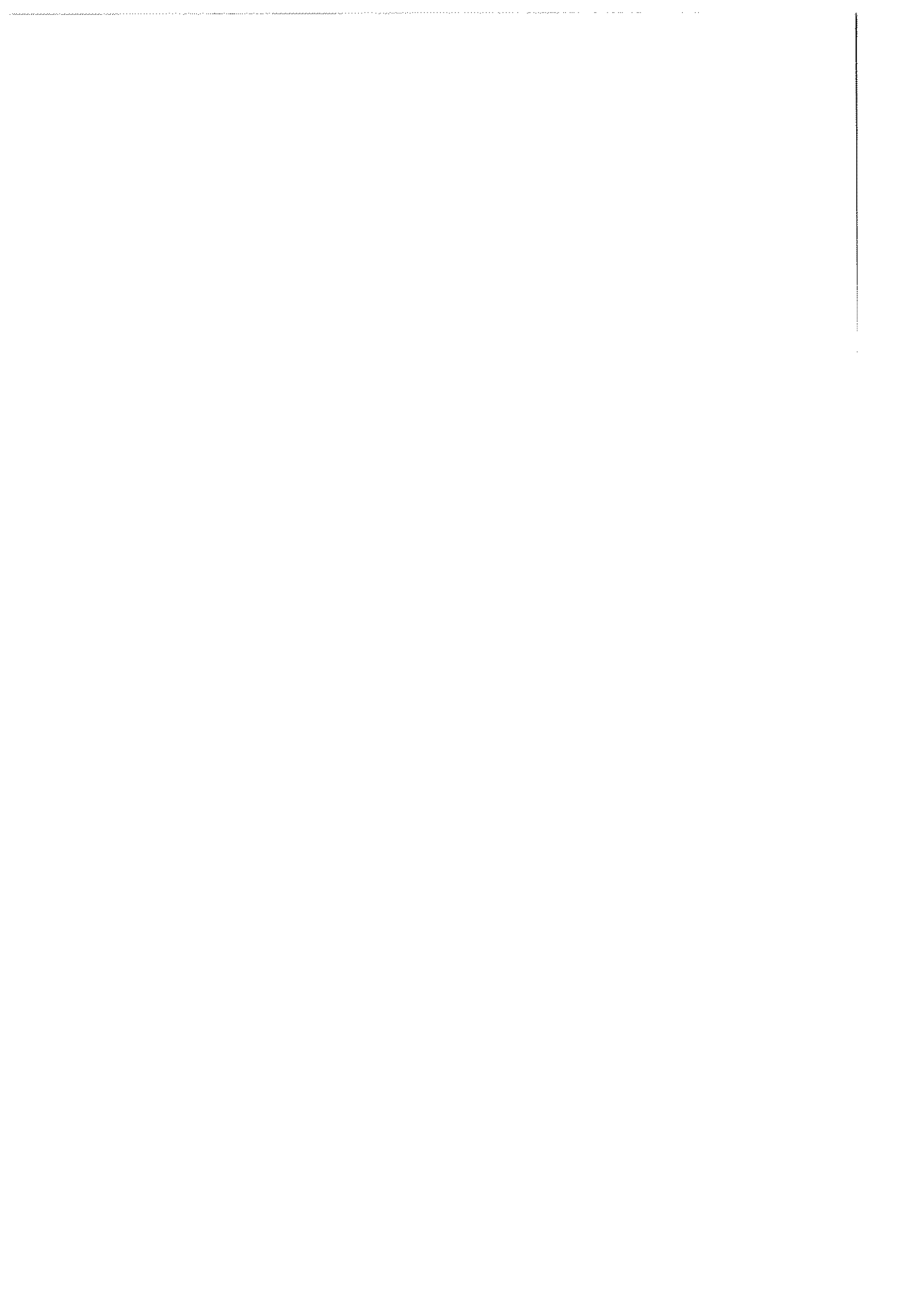
私たちは、

スパイラルのようなオープンな心を

持っているでしょうか？

Are We
Spiraling
Out?





第五週

私たちは、スパイラルのようなオープンな心を

持っているでしょうか？

一日目 私たちが子供たちと足並みをそろえていくために

二日目 私たちが家族の生活をゆたかなものにするために

三日目 オープンな心を持った家族になるために

四日目 私たちが親戚を大切にするために

五日目 家族ぐるみで友だちをつくるために

六日目 私たちが隣人に関わっていくために

七日目 貧しい人や困っている人に手をさしのべるために

『お互いに見つめ合っているだけじゃ愛は生まれません。
一緒に同じ方向を見つめることだよ。』

サン・テグジュペリ

夫婦が個人的な深い出会いの体験をすると、そのあときまっ
て次のようないざないを受けるものです。すなわち、自分たち
夫婦だけの親密さや一体感にとどまりたくなくなる誘惑です。自分
たちのまわりだけに愛の輪を描いて、他の世界をしめだしてし
まいます。いってみれば、こうして、「私たちふたりきりの」
世界を作り出してしまふのです。

こういった自分勝手でおごった態度は、神のヴィジョンとは
相いれないものです。したがって、結果的には、配偶者同士に
とつてもマイナスとなるものです。神は、男と女を創造されま
した。それは、利己的な愛によって墮落した円に閉じ籠り、死
んでいってしまうためにはありません。全人類に、そして森
羅万象に、意味と生命と愛を与えるために、人間を創造された
のです。神は、結婚というものを、「ご自身にかたどり、ご自
身に似せて（*1）」造られたのです。さらにいえば、神は、外
界をしめだす閉じた円ではありません。神は、スパイラル（う
ず）を描きながら上昇する、生命と愛そのものの源です。だか
らこそ、神は創造の御業を終えて、こう言われたのです。『聖書
はこう伝えています。「神はかれらを祝福して言われた。『生
めよ、ふえよ、地に満ちよ、そして地を従わせよ。』（*2）」
（フランシスコ会訳・創世記一章28節）

一方、愛とは、値知れない高価なエネルギーです。愛は、そ
れが分かち合われるときにのみ、成長していくものです。結婚
における愛が、生命と愛に充ち満ちたスパイラルとなるとき、
それはあたかも、炎のようです。結婚における愛は、こうして
広がっていきます。そうでないなら、いつしか消えてしまふで
しょう。ですから、私たちにとつてきわめつけに大切なことは、
どのようにすれば、夫婦としての私たちが、結婚における生命
と愛のエネルギーを他の人々に分かち合っていけるか考えるこ
とです。

結婚生活における幸せを追い求めていくと、自分たちの結婚
のきづなを乗り越えてはるか向こうにまで、ヴィジョンと視野
を広げることが求められます。このよい知らせには、ふたつの
重なり合う側面があるのです。わがままで、ふたりの世界に閉
じ籠りっきりの夫婦をやめようとするふたりに、今日の社会が
挑戦状をたたきつけてくるでしょう。さらに、ふたりは、結婚
と家族における愛から出発して、世界に広がる愛に向かって進
んでいくよう、創造主である神からもチャレンジされます…。

サン・テグジュペリは現にこう書いています。「お互いに見
つめ合っているだけじゃ愛は生まれない。一緒に同じ方向を見
つめることだ。」

みなさん！ みなさんは、夫婦として、スパイラルのようなオープンな心を持って人を愛していくために生まれてきたのです。

(*) 「神は、『われわれにかたどり、われわれに似せて人を造ろう。』」(フランシスコ会訳・創世記一章26節)

原文 = "to His image and likeness"

(*) 原文 = "God blessed them, saying to them,

Be fruitful, multiply, fill the earth and conquer it."

証し

第五週の課題のおかげで、ほんとうに掘り下げていく必要のあった重要な事柄に、焦点をしばって取り組むことができました。私たちがわかってきたことは、私たち夫婦も含めて、多くの夫婦にとっては、子供のことという、タブー視されている、ということと、自分たちの結婚生活に亀裂が生じるようなことは避けようとして、その手のことを取り上げるのを避けることがよくあります。子供のことになると、私たちは、問題の埒外のところ

逃げてしまうことが多いと、はっきりわかりました。

友人や親戚のほうを子供たちより優先していることが、私にはわかってきました。私たちが自身認めることがむずかしかったのは、過去に犯した、子供に対するあやまちを残らず認めることでした。

私が発見したことは、自分たちがもっと子供たちとしっかり関係をつくっていかないといけないということです。それに、今の自分たちのやり方をほうっておくべきではないと思いました。私が犯したあやまちについて子供に謝るなんて、今まで一度も考えたこと、ありませんでした。それなのに、私は、子供のほうがゆるしてくれることを期待していたんです。

第五週をやってみていちばん大きな効果があったのは、子供たちと分かち合いができたことです。私たちが、子供に関して「犯したあやまち」を認めるのは、とても簡単だったんです。こうして、とても素晴らしい和解の準備をすることができました。子供たちと十分な時間一緒にいてやらなかったり、子供の必要を満たすだけじっくり話を聴いてやらなかったこと、いてやらなかったり、

愛情が欠けていたこと、子供たちを励ましたり、充分に褒めてやらなかったこと、勝手にものごとを決めちゃったこと、外であった嫌なことを子供たちのせいにしてしまったこと…。

三人の子供たちと話したとき、七歳と六歳と五歳ですけど、子供たちはとっても単純に心を開いてくれました。もっともっととたくさん一緒にいてあげる必要があると思っ
ています。

第五週をやったおかげで、何ヶ月間もやりたいとは思っていたんですが、勇気がなくて出来なかったことが出来た！という素晴らしい機会をもらえました。子供たちとの和解です。子供たちは、11歳、15歳、19歳です。今週のプログラムの山になる部分で、これが、「ターニング・ポイント」になりました。ここから、新しいスタイルの人生が始まりました。

十歳になる男の子と一緒に過ごすことができるチャンス
をもらえたから、私は、この第五週が気に入っています。息子も、私たちが心を開いたことを本心から評価
してくれました。それから、息子への関わり方に関して、

彼にも両親を助けることができるってわかって、嬉しがって
いました。初めて、彼にゆるしを求めたことも、息子
は感謝してくれました。

私たちの子供との和解は、意味深いものでした。主が、
子供たちを通して、自分たちが耳を傾けていなかったこ
とを、教えてくださったんです。私たちは、子供が願う
ことを聞いてはいました。ことばの上っ面だけは…。で
すが、そこにこめられている音色にまでは聴きいてい
ませんでした。つまり、感情やフラストレーション、必
要、望み、寂しき、怒り、ジェラシー、自分をありのま
まに認められないつらさ、私たちの愛情表現や広い心で
の受けいれの足りなさに対する不満、のことです。

もし自分たちが子供に耳を傾けるならば、子供たちを通
して神が語ってくだっているのだと、私たちにはわかり
ました。

私たちが子供たちと足並みをそろえていくために

私たちの子供。結婚のきずなの次に、もっとも高い優先順位を持っているのが、この子供たちです。子供は、私たちが暮らしている社会やそこの職業における望みよりも優先されるものなのです。子供たちは、私たちの所有物ではありません。神からあずかった、授かりものなのです。私たちがここで話そうとしているのは、親の愛についてです。親としての愛情のもとになる要素は、何でしょうか？ また、どうやったら、親の愛を実践していけるのでしょうか？

ひとりひとりの子供と、個人的で直接的な関わりを持つ。子供たちひとりひとりに、こちらから積極的に関わり、その話に耳を傾けましょう。こうすることは、子供たちのそれぞれと充実した時間をすごすことであり、もっとも素晴らしいエネルギーの使い方なのです。

子供たちを尊敬する。子供たちと話し合うこともしないで、彼らの将来を決めてしまうなど、しません。むしろ、子供たち

自身が自分で選択できるように、その機会をあげましょう。

ありのままの子供の姿を受けいれます。これは、特に、ティーンエージャーになったとき心がけることです。もちろん、その前にもそうすべきですが。家庭の中が否定的な態度ばかり示すようになってしまうと、子供たちは、自分を大切にしなければならぬ、結果的に、実りのない関わりをもつようになってしまいます。問題が悪化したりします。たとえば、麻薬、酒、婚前交渉、家出、非行、犯罪や自殺、などです。

子供たちを信用し、信頼する。これは、いつも心がけるべきことです。特に、子供が成長していく過程で大切です。経験的に見て、子供たちがどの程度責任のとれる人間になるかは、彼らがどれほど信用され信頼されてきたかに比例しています。親のほうで、子供に、信頼しろ信用しろと要求することなどできません。私たち親のほうこそ、信用をかちとり、信頼に値するものとなる必要があります。

子供たち全員を認め、励まし力づける。これは、特にまだ小さな子供には必要です。私たちが愛に満ちた評価をしてあげることが土台となり、子供たちは、健全な自尊心を培い、将来の人生を歩んでいくわけです。

子供たちとオープンな心で分かち合う。私たちの長所や弱点
私たちが必要としていることや価値観、私たちが関心を持って
いる事柄、私たちの期待していること、自分たちの時間、エネ
ルギー、才能、夢や希望、などを分かち合います。

子供たちと和解します。自分たちの誤解や犯したあやまち、
失敗などについて、ゆるしを願います。私たちのほうから、謙
遜・正直・誠実な態度をもって接することで、子供たちの心の
傷に愛の油を注いであげましょう。

子供たちを可愛がってあげます。目の中にいれても痛くない
ほどの優しさをもって、可愛がりましょう。

子供たちと一緒に遊び、楽しい時間をすごします。一緒に、
すてきな時間をすごしましょう。楽しさがあると、一緒にいる
ようになるものです。

子供たちに助けと励ましを求めます。ときとして、私たち夫
婦が、息子や娘たちとの個人的なきづなを深める鍵となるのは、
自分たちにはないけれども子供たちが持っている何かを、もら
うようにすることです。子供たちが、自分の持っているものを
親にあげることのできるチャンスを作ってあげるので。

子供たちと一緒に祈ります。もちろん、よく対話してからで
す！ 神の愛に満ちた力なしには、子供たちと足並みをそろえ
ていく夢など、実現しっこありません。

息子や娘にラブレターを書くには

このラブレターを書く目的は、私たちの個人的な評価、尊敬、理解、信頼、受け入れ、支援、そして彼らへの愛情を、息子娘たちのそれぞれに、思いつくかぎりの最高のやり方で表現することにあります。子供たちの年齢、ニーズ、才能、その子なりにもっている期待に心を配りながら、書きあげましょう。

ラブレターを書く前に、個人で内省するときヒントになるよう、いくつかの質問が次に用意してあります。

- 1 自分の子供それぞれについて、私がおっとも気にいっていることは、何でしょうか？
- 2 今まで、私の息子娘に対して個人的に犯してしまったあやまちや失敗は、何だったのでしょうか？
- 3 とりわけ、どういふ事柄に関して、子供たちからの理解助け、支援、励ましを、私は必要としているのでしょうか？

1 謙虚さ	()	熱意	()	誠実さ	()
親切	()	明朗	()	寛大さ	()
尊敬を表わすところ	()	素直さ	()		
神を愛するところ	()				
自然の美しさを愛するところ	()	礼儀正しさ	()		
責任感	()	すぐにゆるすところ	()		
奉仕の精神	()	成熟	()	理解	()
その他	()				
2 褒めない	()	要求しすぎる	()		
一緒に祈らない	()	共に時間をすごすことがない	()		
悪いお手本を示してしまう	()	暴力	()		
叱りすぎる	()	ゆるさない	()		
信用しない・信頼しない	()	不耐	()		
感謝しない	()	条件つきの愛	()	侮辱する	()
えこひいき	()	怒りを表わす	()	その他	()

3 1〜2を参考にしてください

以上のポイントについてよく内省できたなら、息子や娘たちにラブレターを書く準備OKです。

書き終えたら、夫婦での分かち合いの前に、いちばんよい機会とチャンスを見て、子供たちに渡すことができます。

私たちが家族の生活を豊かなものにするために

いも虫が、その本性によって、すばらしい蝶に変態するよう定められているのと同じで、結婚生活を営む夫婦たちも、神によって、健全でしっかりした幸せな家族になっていくよう、創造されているのです。幸せな家族とは、どんなものでしょうか？何が、家族を、しっかりとした健全なものにしてくれるのでしょうか？ 私たちは、どうしたら、そういった家族になれるでしょうか？

あちらこちらにいる幸せな家族の、励ましになる証しを聴いてみますと、次のことが、基礎的でキーポイントとなる要素であることがわかります。

分かち合う共同体としてのメンタリティーを持っています。幸せな家族は、何よりも自分たちの家族を優先します。つまり、仕事や職歴、余分に入ってくる収入、仕事上の問題や社会生活よりも、家族優先です。バランスのとれた支え合いを大切にし、独立自尊や支配するようなことは避け、分かち合いと一致をめ

ざした共同体になるよう働くことを、彼らは心にとめていきます。

決断と勇気があります。幸せな家族は、たいていの場合、危機があっても建設的に取り組みます。どれほど状況がひどいかなど関係なく、あらゆる状況で肯定的なものを見いだします。つまり、家族がより一致していくのに役立てようと、肯定的な観点の的をしぼり、危機に面と向かって立ち向かうのです。それから、もし必要ならば、助けを求めます。

人間らしい心かよう通じ合いがあります。幸せな家族は、率直に飾ることなくお互いを分かち合います。自分たちの抱いている考え、感情、判断、気持ち、関心、ニーズ、あこがれ、選択や決めたこと、など。深い尊敬をもって、互いに耳を傾けます。定期的な、家族での充実した対話をするための時間を割きます。いつでも必要なときには、お互いにゆるし合います。

相互にはぐくみ合い、支え合います。幸せな家族は、家族のだれそれが持っているものや、したことのためにお互いを愛するのではなく、その人がその人であるがゆえに、家族の者を愛します。家族のメンバーが持っている肯定的な性質や才能を見つけて褒めてあげます。ありのままの自分に気づくことができよう互いに助け合います。こうして、家族同士が互いに気持

ちよくすごせるようにします。

一緒にいます。 幸せな家族は、一緒にたくさんのごことをします。お互いに心から満喫し、長い時間を一緒にすごします。一緒に過ごす時間を作れるよう、生活をアレンジします。外での生活がてんてこ舞いしてくると、腰を落ち着けて、自分の今やっていることをリストアップし、家族と一緒にすごすため時間を確保できるよう、やることを減らします…。ユーモアのセンスに富んでいます。よく歌います。一緒に遊び、共に楽しみます。

家族での祈りをします。 幸せな家族は、神を、自分たちの生活を治めてくださる最高の方として認め、家庭生活の主（あるじ）として受けいれるものです。霊的な次元の価値観や信仰体験を分かち合います。一緒に神を賛美します。神のみことばに耳を傾け、尊敬と信頼をこめて神に語りかけます。神のゆるしを願い、家族の平和を求めます。毎日神に感謝を捧げます。

実践としての提案

私たちが食卓を囲んで祝うには

どこでも家族というものは、晚餐をしてお祝いごとをします。これは、家族生活を深めそのきづなを強めていくための、幸福感と力に溢れる手段を私たちが持っている、そのはつきり目に見えるしるしと言えます。幸せな家族になるのは、一瞬でできることではありません。とりくんで、さらにまたとりくんで、継続してやっていくことです。幸せな家族とは、どのようにして、お祝いをするものなのでしょう？

彼らは、一般的な伝統や習慣、しきたりにしたがっています。祭日や、誕生日、何かの記念日や祝日を、家族ぐるみで特別なものとして祝います。

家族でお祝いをするには、しっかりと結ばれたきづなをつくりあげるために、重要です。ときとしては、素敵な一家族の体験から始まったことで、それが伝統になり、次の世代やそれ以後も引き継がれていくこともあります。

私たちがすごしたいちばん最近のお祝いは、何だったでしょうか？ 今度みんなで食卓を囲んでするお祝いは、いつやるつもりですか？

次のリストからひとつを選びさえすればいいのです…。そして、私たちの家族の愛を祝いましょう！

- ㊦ 誕生日 カレンダーを見てください。 ()
- ㊦ 記念日 結婚、洗礼… ()
- ㊦ 霊名の祝日 ()
- ㊦ 父の日 ()
- ㊦ 母の日 ()
- ㊦ 子供の日 ()
- ㊦ 結婚式の日 ()
- ㊦ 自分たちで決める「ファミリー・デー」 ()
- ㊦ 敬老の日 ()
- ㊦ 友達の日 ()
- ㊦ 卒業式の日 ()
- ㊦ 和解の日 ()
- ㊦ 建国記念日 ()
- ㊦ 宗教関係の日 ()
- ㊦ 勤労感謝の日 ()

嶺 クリスマス
嶺 イースター
嶺 新年
嶺 バレンタイン・デイ

() () () ()

オープンな心を持った家族になるために

家族とは、前へ前へと進んでいくもの、さらにいつそう動き続けていくもの、そして、変化に変化を重ねていく存在です。

オープンな心を持つことは、家族が幸せに暮らすために不可欠な、さらなる次元といえるものです。家族がいかに広い心を持って深く一致しているかは、オープンな心のあるなしで試されるものです。オープンな心なしには、家族は息づまってしまいい遂には死んでしまいます。そのような家族が幸せだなどといっても、見せかけのものにすぎません。家族の持つ本質のひじょうに深い部分に、オープンな心はその基盤を置いています。家族を造りなさいという心の中からの呼びかけは、開かれた心とダイナミックな共同体を造りなさい、という使命なのです。その共同体から、いのちが生まれ、心を通わせ合うきづなが造られていきます。

自分たちのことしか考えていない家族は、家族の本質そのものを否定しているのです。オープンな心が足りないことは、ガ

ンに触まれていくようなもので、徐々にその家族は破壊されていきます。これに反して、開かれた心を持っている家族は、主として次のような特徴をもっています。彼らは、自分より他の人の利益を求め、受けいれの心に満ち、飾り気がなく、かたい結束があり、しっかりした誓約をたてそれを守りぬぎ、創造的で、もてなしの心に富み、奉仕の精神がゆきわたっており、元氣にあふれ、親切で、積極的に関わろうとし、喜びと平和のなかに暮らしています。

どのようにしたら、私たちは、

オープンな心を持った家族になれるのでしょうか？

1 まず、自分たち自身の家族の中で、一致と分かち合いを実践します。ほんとうの意味でのオープンさを獲得するためには、これが出発点となります。つまり、夫と妻の一致と分かち合い。両親と子供たちの一致と分かち合い。兄弟姉妹間での一致と分かち合い。そして、神と家族での一致と分かち合い。

このような家族内での心からの親密な調和がないならば、オープンな心を得ようといくら努力しても、家族のメンバーや家族自体にダメージをもたらす結果となるでしょう。

う。のみならず、否定的な意味での共同体の姿を証ししてしまふことになります。

2 愛に支えられ教え合いさとし合います。 まがいものではないオープンさを得るためには、これが、キーとなりま

す。別の表現を借りれば、気づくこと、です。物よりも家族の人間のほうがずっと重要だ、何かを所有したり何かをすることより、その人のためにそばにいてあげることのほうがずっと大事だ、と気づくことです。

さらに、すべての人の中に尊厳と権利、価値を見だし、支配しようとしたり、操作しようとしたり、分け隔てをするような真似は避けるべきだ、と気づく必要があります。そんなことのかわりに、奉仕し、協力し、惜しみなく関わることです。簡単にいえば、得ることよりもむしろ、与え分かち合うよう教えさとし合う、というわけです。

3 人に対するもてなしを實踐する。 オープンな心を持った

家族にとって、これは、その最高の表現としてあげられるものです。幸せな家族というものは、自分たちから喜んでもてなしをするのに長けています。もてなしを實踐

すること、家は、家庭になっていくのです。家を、誰にとってもその人の家庭であるようにするならば、私たちは、もてなしを實踐しているというわけです。つまり、快く人々を受けいれるならば、受けいれた人たちは、慰めと快い安心、愛されていることを実感するでしょう。家庭とは、愛のすみかです。それは、私たちがみんなのために愛を分かち合う場所なのです。

家庭は、単なる場所とはちがいます。それ以上のものです。人を、その人のありのままを大切にしながら迎え入れようとする、愛に満ちた気持ちの表われなのです。実際、私たちの家庭には、私たちの心が宿っているのです。

家族で合意をするために

オープンな心を持った家族になるといっても、魔法のトリックがあるわけではありません。家族のメンバー全員が一丸となつて、オープンな家族をめざして歩んでいく必要があります。

私たちがこれから取り組もうとしている家族での対話の目的は、こうです。単純ではあっても具体性のある、家族での合意を作ることです。もちろん、家族がオープンになっていくための合意です。

集まって分かち合いをする前に、家族のメンバーはひとりひとり個人での時間をとって、次の質問についてよく内省し答えを書いておくのがよいでしょう。

1 私たちの家族は、一致しているでしょうか？

(はい/いいえ)

2 私たちの家族が一致し分かち合いをしていることを示す、

肯定的なサインは何でしょうか？ ←

2 一緒に祈る () 一緒に遊ぶ () 一緒に食べる ()

一緒に行動する () 互いに褒め合う () ゆるし合う ()

愛し合う () 責任を分担する () 協力し合う ()

通じ合う () ユーモアがある ()

お互いに対して正直である () その他 ()

3 私たちは、オープンな心をもった家族でしょうか？

(はい/いいえ)

4 私たちは、暖かいもてなしに満ちた家族でしょうか？

(はい/いいえ)

5 現実には、私たちは、どのようにして、もてなしを實踐しているのでしょうか？

6 私たちは、どのようにしたら、よりオープンな家族にな
っていくことができるのでしょうか？

家族全員の準備が整ったら、集まって、上記の質問に対するそれぞれの答えを分かち合いましょう。こうすれば、オープンな心をもち、もてなしを實踐する家族になるための、自分たちなりの合意が出来上がる、というわけです。

5 お互いのお客様をあたたく歓迎する

問題をかかえている人(浮浪者、病人、離婚者、など)に

手をさしのべる

家族ぐるみで、社会的な問題

(エイズ、離婚、中絶、登校拒否など)に関心を持つ

貧しい人を助ける

その他

6 前述の例を参考にしてください

()

()

()

()

私たちが親戚を大切にするために

家族のオープンさというものは、生命と愛に満ちたスパイラル（うず）に乗るようにして、実践される必要があります。それは、内から外へ向けて開かれながら上昇していくものです。

1 祖父母

祖父母は、私たちの親戚において、最初に大切にすべき重要な人たちです。

過去において、人々は大家族構成で暮らしていたものです。このことは、次のことを意味します。つまり、祖父母が、子供たちや孫たちと一緒に暮らすのがあたりまえだったという事です。今日では、結婚生活を営む家族といえは、核家族と呼ばれ、その構成メンバーも少なくなってきました。もはや、ほとんどの場合、祖父母と一緒に住むことなどなくなっていました。彼らは、自分たちだけで暮らしています。そうでなければ、わきに追いやられているか、誰にも相手にされず孤独に見捨てられている状況です。

神の十戒の四番目に示された掟（紅）は、どうなってしまったのでしょうか？

2 おじ・おば

おじ・おばとは、両親の兄弟姉妹にあたる人です。彼らは、自分たちの家庭を構え、そこで、自分たちの息子や娘たちと共に暮らしています。もうひとつの核家族というわけです。やはり、孤立してしまうか、家庭内がバラバラになってしまっているか、あるいは、離婚の危機にあるのでしょうか？

私たちの兄弟姉妹としての愛は、どこに行ってしまったのでしょうか？

3 甥・姪

甥・姪とは、私たちの兄弟姉妹の息子や娘にあたる人たちのことです。私たちの子供たちから見れば、いとこになります。おそらく、洗礼のときに自分たちが代父・代母になった関係ということもあるでしょう。もしそうなら、さらに深い関係があるといえるわけです。今では、彼らの多くが、自分たちのアイデンティティーを探し求めだす年頃です。ある子は、両親と問題を起こしているかもしれません。

そのほか、アルコールや麻薬にひたっているとか、自己卑下に陥っているとか、家出してしまっている、虐待されている、セックスにのめりこんでしまっている、非行に走っている、自殺願望にとり憑かれている、あるいは、みなし子だったり、神に出会うことを切望している…など。

現実には、彼らのそれぞれに、どんなことが起きているのでしょうか？

4 義理の関係

私たちにとって、義理の関係はとても重要です。なぜなら、自分の配偶者にとっての、血縁だからです。事実、彼らは、何を大切な価値観としているのでしょうか？ 彼らがかかえている問題は？ 彼らは何を必要としているのでしょうか？

(*) 十戒 Ⅱ 旧約時代エジプトから導き出されたイスラエルの民が、荒野野で神から授かった、神の民として守るべき十の戒め。その四番目は、「あなたがたは、父母を敬いなさい。」

親戚とのきづなを立て直すには

家族というものは、あたかも樹木が植えられているようなものです。芽を出し、成長し、やがて、枯れていく。しかし、家族は、木以上の存在です。家族は、再び生き返るからです。

現代では、ほとんどの家族において、親戚とのきづなは忘れられています。多くの人にとって、親戚とのきづななど、薄れていくか、もはや死んでしまったもののように扱われています。接点ともいうべき、根っこの部分が壊されなくなってしまうているからです。親戚との個人的な関係を無視して、彼らは暮らしているかのようにしています。その関係とは、血縁のことです。この親戚との関係こそ、神の与えてくださった愛のエネルギーを復興させる鍵となるもので、ありふれたどの家族の心の中にも隠されているものです。

ですから、親戚とのきづなを私たちが立て直したいと思うならば、力を合わせて、親戚と自分たちとの関係を洗い直さなければなりません。これは、祖父母から始めていきます。←

2 「祖父母」

父方祖父（ ）

母方祖父（ ）

「おじ・おば」

父方祖母（ ）

母方祖母（ ）

しかし先ず、自分たちの家族だけで時間をとって集まりましょう。そして、次にあげた質問について、ひとりひとりよく内省し、その答えを書きとめておき、それから分かち合うのが望ましいでしょう。

1 私たちは、自分たちの親戚を大切にしているでしょうか？

(はい/いいえ)

とくに、お年寄りに対しては、どうでしょうか？

(はい/いいえ)

2 親戚の中で、私たちがもっと心をかけてしっかり面倒を

見る必要のある人は、誰でしょうか？

3 親戚を現実には効果のある仕方援助するため、家族として、私たちは、何ができた何をすべきでしょうか？

父方おじ () 父方おば ()

母方おじ () 母方おば ()

〔甥・姪〕

父方おい () 父方めい ()

母方おい () 母方めい ()

〔義理の関係〕

夫の父 () 夫の母 ()

妻の父 () 妻の母 ()

夫の兄弟 () 夫の姉妹 ()

妻の兄弟 () 妻の姉妹 ()

3 親戚に和解を求める

食事やお祝いに親戚を招く

自分のかかえている問題をオープンにしてくれる

親戚の声に耳を傾ける

しばしば連絡をとる

(たとえば、訪れる、電話をする、手紙を書く、など)

お年寄りに対する、現在と将来の援助について

具体策を決める

個人的に問題のある親戚の若者を受け入れる

オープンに分かち合う

その他

()
()
()
()
()
()
()

家族ぐるみで友だちをつくるために

ほんとうの友情というものは、人間の持つ価値の中で、もっとも肯定的で実り多いもののひとつに数えられます。友だちは宝物です。オープンな心を持った家族には、愛しまた愛される多くの友だちがいるものです。夫婦や家族には、自分たちだけの殻にとじこもってしまいがちな傾向が潜在的にあるものですが、これは、友情を脅かす最たるもののひとつです。

ほとんどの場合、夫婦は、結婚した途端、友人との関係を失ってしまい、友情を育てることをやめてしまっています。夫婦がお互いだけでさらに依存するようになり、友だちとすごす時間はいっそう減っていくわけです。ある夫婦たちにとっては、友人と家族とをまったく別個の存在と見なすのが普通になっています。しかし一方、結婚して、友人との個人的なきずなを自分たちの新しい生活に組み入れようと、あれこれ努力している人たちも存在します。

実際、友だちというものは、夫婦や家族にとって邪魔だった

り障害になる場合を除き、結婚あるいは家族生活に溶けこんで仲よくやっていけるものです。反対に、結婚や家族生活に友だちが関わりを持ってくると、夫婦も家族も、結束が強められ、開かれたものになっていきます。

他方、私たちの家族が、ごく少ない友だちか、あるいは不健全な友好関係しかもっていない場合、子供たちが他人との新しい関わり方を学ぶ、という課題に取り組む必要がでてきます。この、他人との新しい関わり方を学ぶことができれば、子供たちは、自分たちの心の深い望みにふさわしい友人を選ぶことができるようになるわけです。

私たちの結婚や家族生活にとって、友だちとはなくてはならない存在だ、といえるようになれば、子供たちは自然に成長していき、まったく自分たちらしい友情を築きあげていけるでしょう。夫婦の交遊関係を観察することで、子供たちは学習していくものです。子供は、驚くほど親を真似する能力に秀でているのです。

さらにまた、自分たちの友人や仲間のことについて、私たち夫婦や子供たちでしばしば衝突することがあるものだ、と認識するのは大切です。ですから、もし、親が、権威にものを言わ

せて、子供たちの友だち関係を頭ごなしに押さえつけるとい
ことでもあれば、それはつまり、子供たちが自分なりに選択し
たり、自分なりの意見を持ったり、自分たちなりの関心にした
がって歩もうとしたり、まちがいを犯す余地を与えない、とい
うことになります。こうして、子供の友人の選択を心の底から
信頼しないなら、反抗あるいは乱暴な反応としてつげが回って
きます。さらにひどい場合は、映画やテレビなどで見られるよ
うな反応を子供たちは見せるようになるでしょう。つまり、ア
ルコール漬けや麻薬中毒になる、家出する、非行に走る、ある
いは、おそろく自殺しようとする、などです。

以上のことからわかるように、私たち家族が、内外さまさま
な場所で友人をつくるのは、重要で、理想として達成すべき目
標です。こうして、家族は、一致し開かれたものになっていく
わけです。

私たちの家庭に友だちを招くには

友情には、さまざまのタイプ、あるいは、レベルというものがあります。その友情が望んでいるそれぞれのニーズや、その友情がかもしたす暖かさの種類によるわけです。

☞ 語り合うための友だち

☞ 一緒に働くための友だち

☞ 一緒に楽しむための友だち

☞ 分かち合いをするための友だち

☞ たよりになる友だち

☞ まったく信頼しきっている親友

一口に友情といっても、家族は、さまざまな次元として友だちを持っています。

A 自分だけの個人的に親しい友だち

B 夫婦の友だち

C 家族ぐるみのつきあいがある友だち ←

さらに、その友だちの側も、個人だったり、夫婦だったり、家族だったりするでしょう。

個人での内省

- 1 私たちは、自分の個人的な友だちのことで、家族内にもめことがあるでしょうか？（はい／いいえ）
- 2 私たちは、家族ぐるみでの友だちを持っているでしょうか？（はい／いいえ）
- 3 誰が、友達でしょうか？
- 4 そのそれぞれの友だちと私たちとは、どのようなタイプあるいは次元の友情を持っているでしょうか？
- 5 自分たちの家庭に友だちを招待してお祝いをするとしたら、いつできるでしょうか？

家族での分かち合い

5 年 月 日

4 「タイプ」

- 語り合うための友だち ()
 - 一緒に働くための友だち ()
 - 一緒に楽しむための友だち ()
 - 分かち合いをするための友だち ()
 - たよりになる友だち ()
 - まったく信頼しきっている親友 ()
 - その他 ()
- 〔次元〕
- 自分だけの個人的に親しい友だち ()
 - 夫婦の友だち ()
 - 家族ぐるみにつきあいがある友だち ()
 - その他 ()

上記の質問について、各々が個人的に内省しノートに書き終



わったら、全員が集まって、お互いに分かち合うとよいでしょう。こうして、友だちを招待しての家庭パーティーを準備するわけです。

私たちが隣人に関わっていくために

いったい何のせいで、私たち夫婦にしる家族にしる、隣人である近所の人たちとの関わりを避けるようになってしまったのでしょうか？ 大切なみことばを思い出してください。「あなたが自分自身を愛するごとく、あなたがたの隣人を愛しなさい。」このみことばは、現代でいう隣人との関係では、忘れられているか、あるいは、ほとんどなきものとされてしまっています。

隣人を愛することは、人間らしくあるために必要なもつとも基盤となる前提条件です。つまり、他人に対して愛を抱くこと。しかし、もし、人間らしさというものが、社会の歯車の中で乏しい考えと見なされてしまうと、あるいは、物質至上主義や消費主義の思想の中に吸収されてしまうならば、そのとき、隣人に対する愛も、その役割の持つかんりの意義を失ってしまふことになるのです。さらに、愛の力の持つ強さも喪失するでしょう。まさにこれこそ、私たちが暮らしている現代社会で起きていることなのです。

隣人に対する愛あればこそ、友情を促進し、それを広めることができるのです。すべての男女が、隣人に対する愛をほんとうの意味で重要視するならば、自分たちだけにとどまらず、他の人々の生活をも、よりすこししやすいものにしていけるでしょう。

実際、あらゆる男女が隣人に対する愛を実践していけるのは、神の愛に根ざしてこそです。したがって、隣人を愛することを通して、私たちは、自分たち自身の中に神の働きを再現することになるのです。隣人への愛がほんものである、ということからは、それが、神の愛と別個に存在していることなどありえませんが、

私たちは、愛されること、誰かから受け入れられることが、どれほど大切なことか肌で知っています。ですから、誰でもみんな、先に掲げた重要なみことばの意味を理解できるようにすると、必然的にこうなります。つまり、隣人を大事にしない、あるいは、私たちが隣人を愛さず受けいれないということは、自分自身を大切にしないことなのだ、と。神を愛しながら同時に隣人を憎むとしたら、それは矛盾する行為です。にもかかわらず、ときとして私たちは、隣人なら疎外してもかまわないだろう、と思ってしまうのです。

ともかく、私たちがどのように人を疎外しているかについて、はつきり見きわめるのは、賢いことといえます。その人そのものが嫌だからこそ拒んでしまうのでしょうか？ それとも、その人の使うことば、文化、肌の色、信条などによって拒絶してしまうのでしょうか？ 前者ならば、目が見えなくなってしまうのでないかぎり、やはり拒んでしまうでしょう。後者ならば、疎外したくなる原因を見きわめることは可能です。ですから、場合によっては、印象として刻まれている歪んだ部分を修正する必要があるのでしょう。

隣人に対してまがいのものでない愛情をいだくなら、喜びと平和が生まれます。だからこそ、家族が隣人に対して心を開いて接するとき、その家族は、幸せになれるのです。

福音的な愛を実践・強化するためのみことば！

先にあげた愛についての重要なみことばは、頭で考えるため
のものではありません。むしろ、心を広くもって私たちが隣人
に関わっていくとき、体験されるべきものです。

家族ぐるみで、私たちが、隣人への愛を実践するには、どう
すればよいのでしょうか？

みなさんがひとりひとりよく内省し、それから家族の全員で
分かち合うため、実践としての具体的な提案を、以下にリスト
アップしておきます。

喟 楽しくすごすため、というそれだけの理由で、近所の何
人かを呼んで、ありあわせのちよっとしたもので夕食会
を開きます。

喟 自分たちでピクニックをするとき、片親しかいない家庭
を招待します。

喟 近所同士での屋外バーベキューパーティーなどを計画し

ます。

喟 シチューなど、ご近所にわけてあげます。

喟 鍋ものときなど、食事に誰かを連れてきます。

喟 新しく引っ越してきた家族をお昼などに招待します。

喟 教会に行ったあとなど、他の家族をおやつなどに招きま
す。

喟 友だちと連れ立って、近所の掃除をします。

喟 誰かに赤ちゃんができたとき、突然パーティーをやって
驚かせます。

喟 近所の子供の家族代わりになってあげます。家族ぐるみ
で面倒をみます。

喟 いつも独りぼっちの人を夕食に招待します。

喟 愛を必要としている人のために、自分たちの家庭を週末
オープンにします。

喟 家庭での手作りギフトで、近所の人を驚かせてあげます。

喟 未亡人、あるいは、妻を亡くした男の人のため、何かを
します。

喟 近所のお年寄りや病人のために、庭仕事などを手伝いま

す。

☞ お使いの必要のある隣人のために、代役をかってでます。

☞ 日を決めて、若い夫婦の子供を預かります。

☞ 若いお母さんのために、ボランティアで、ベイビーシッターを引き受けます。

☞ お年寄りの自家用車を、無料で洗車します。

☞ 不治の病に伏せている人のために、時間を使います。

☞ 家族でお祝いするとき、自分たちの近所の人も招きます。

☞ 自分たちの家庭で、祈りの会を開きます。

貧しい人や困っている人に手をさしのべるために

ほんとうの意味で幸せな家族ならば、オープンであるのはごく自然です。家族のメンバーや親戚、友人や隣人に対してだけでなく、誰に対しても開かれているものです。特に、貧しい人や困っている人に対しては、そうです。誰かが何かを必要としているのに気づいたり、不正、暴力、空腹、貧困、失業、差別、麻薬、苦しみやみじめさの中にいるのがわかると、家族のメンバーの誰かがそれに気づき次第いつでも、家族が集まって、それぞれのケースに関して自分たちのできることをすべきことを考えます。

貧しい人や何かを必要としている人にとって、オープンな家族は、ちょうど「橋」の役割を果たすものです。彼らのおかげで、不正や暴力がはびこる状況から、正義と平和の世界へと、橋渡しがなされるわけです。彼らは、東南アジア、中近東、南米からの出稼ぎの労働者や、亡命した人、移民、難民などの人たちに関わる努力を惜しみません。彼らのように幸せを深く味わっている家族ならば、平和・正義・真理・自由・愛という

価値観を、自分たちの人生において実践し、みんなの模範となるよう、つねに挑戦され、また受けて立っているものです。幸せを満喫している家族ならば、いたる所で証し人として生きるよう神に呼びかけられているものです。すなわち、正義と平和に、無私の心で寛大に自分たちを奉獻するという、その証し人として。

私たちは、どうしたら、

貧しい人や困っている人に

手をさしのべることができるでしょうか？

1 貧しい人々と共に生きるため、自分たちも貧しくなることです。生活レベルを質素にすることによって実践します。まがいものでない家族ならば、その生活において、分かち合いと一致を体験しているものです。精神的に富んでいる幸せな家族は、自分たちの家族生活を、質素で、むだづかいのないものにする必要を感じています。彼らは、自分たち自身の生活の中でも、清貧なスタイルを探して選びます。ときとしては、劇的ともいえる選択があるものです。消費するだけの品物や財産には「ノー」とはっきり見切りをつけ、貧しい人と共に貧しく暮らすというふうなことです。

家族ぐるみで、苦しみ困窮の中にいる家族をお世話することです。家族というものは、しばしば、ひどい苦しみや痛み、困惑を体験するものです。人知れず苦しんでいる家族もよくいます。このような人たちは、たとえば、片親の家族、別居したり離婚してしまった人たち、未亡人や妻を亡くした人たち、親のいない子、見放されてしまった母親や父親、などです。さらにまた、移民してきた人、ホームレス、空腹をかかえている人、失業者、ハンディキャップのある人、末期の病いに苦しむ病人、獄中にある人の家族、など。このような家族なら誰でも、世話をしてくれる家族を必要としているものです。彼らに対する協力を惜しまず、のみならず、しっかりと改善を訴える声を公共の場に反映させていけば、彼らの苦しみ の根本となる原因をできるかぎり軽減することができます。こうして、困窮している人自身が自立して行けるようになるでしょう。

麻薬渦にあえぐ家族を支援することです。麻薬やアルコールの問題が、現代社会における家族を脅かしています。彼らの息子や娘たちは、麻薬が普通になってしまった文化にさらされているのです。両親が麻薬の問題に関わったことがない場合、子供たちにこの問題がもちあがって

くると、どうしていいかわからず、希望の見えない状況にしばしば追い込まれてしまうものです。そのうえ、このような両親たちには、十分な知識と教育が欠けているわけです。他の家族からの援助の手が必要です。家族を支援していく家族が存在しているということ、これがキーポイントです。

平和を作り出す家族になることです。四つのやり方によって、家族ぐるみで、平和を作り出していけるはずですよ。

- A 利己主義を克服し、誰に対しても尊敬をもって接します。
- B 家庭の中でも外でも、正直さに欠けたり嘘をつくようなことは避けます。
- C 個人としても家族としても、神との平和を保ちます。
- D 心から人を重んじる態度を示します。みんな、尊厳ある人間なのです。

家族ぐるみで正義と平和のために働くには

現代の社会では、正義と平和のために家族が働く余地はたくさんあります。

どの家族においても、正義と平和を実現していくための独自のやり方を一丸となって開発していく必要があります。ある家族にとってはふさわしいやり方でも、他の家族には合わないかもしれないし、ある時点ではよいことであっても、時がちがえば、その同じ家族であってもうまくいかないこともある、と知らなければなりません。

定期的に時間をとって、家族みんなが、よく内省し分かち合うことを通して、その時点での自分たちがとるべき独自の歩みを、家族ごとに決めていかねばならないのです。

さらにまた、毎度一歩ずつ着実に歩んでいく必要があることを学習し、この一歩一歩は積み重なっているのだと、つねに信じる必要があるでしょう。←

1 「物質的に富んでいる」

自分の家を持っている

貯金がある

空腹を体験することがない

使わない所有物であふれている

()
()
()
()

みなさんがまず個人で内省し、その後家族で分かち合いをする助けになるよう、いくつかの質問を以下に用意しておきます。

1 私たち家族は、貧しいでしょうか？

それとも、富んでいるでしょうか？

自分たちの家族が、貧しいあるいは富んでいることを具体的に示す兆候をあげてみましょう。

2 貧困や心労あるいは麻痺で苦しんでいる家族に対し、私

たち家族が深い愛をもってお世話できるようになるためには、どうすればよいでしょうか？

私たちが最初にすべきことは、身近でそのような家族を探し出すことです。それから、彼らの抱えている問題やニーズ、さらにその原因をはっきりさせましょう。そのあとに、一緒に、ふさわしい解決策を考えていきます。

3 実際のところ、どこでどうすれば、私たち家族は、平和の使者になっていくことができるのでしょうか？

次のことを忘れないようにしましょう。つまり、真の平和や正義とは、私たちそれぞれの心の中から生まれてくるもの、そして、自分たちの家庭から始まっていくものだ、ということなのです。

所有物はみな高級品である

乗用車を持っている

旅行する余裕がある

海外旅行したことがある

その他

()
()
()
()
()

「精神的に富んでいる」

質素な生活を自発的に選択する

必要なだけで満足する

一緒に祈ったり、遊んだり、話し合ったりする

お互いを愛したり、受けいれたり、尊敬したり、

ゆるしたりする

何よりも家族を優先にする

精神的・肉体的・経済的に困っている人に

手をさしのべる

通じ合っている

その他

()
()
()
()
()
()
()
()
()
()

「貧しい」は、前述の逆。

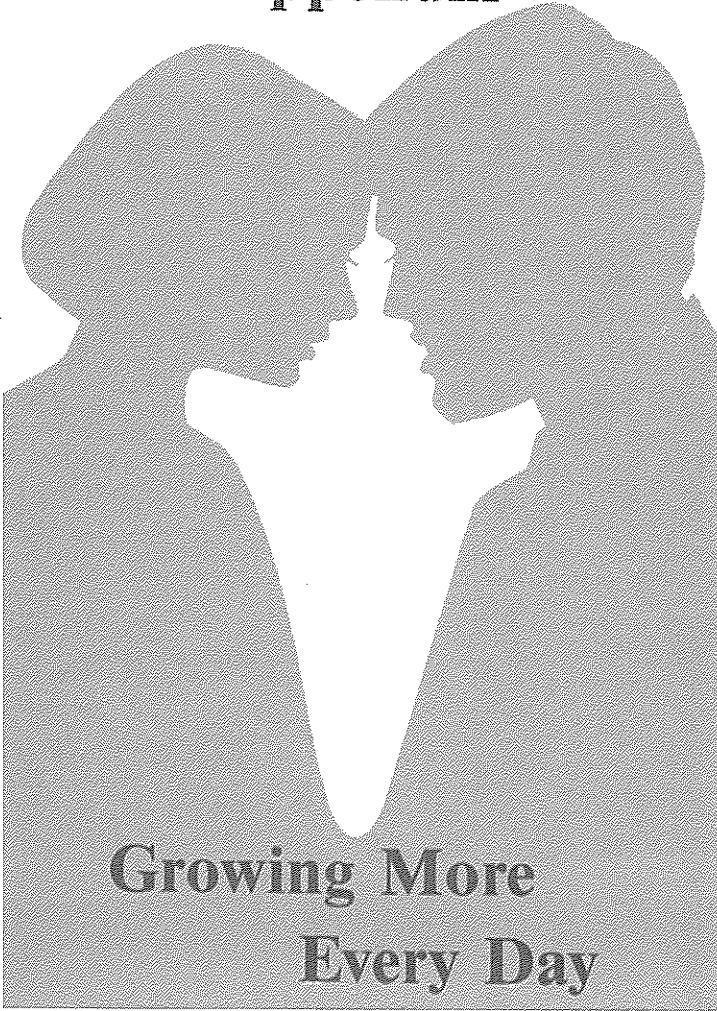
2〜3 第五週・六日目「実践としての提案」(261頁)を参考に

してください。

参考として

日々と日々からなる成長をめぐって

Appendix



Growing More
Every Day

愛のサインを誓約する

毎日の愛のサインを誓約する

愛とは、私たちが感じるものだけを意味するものではありません。愛とは、私たちの行ないによって表されるものです。自分たちの持っている愛を生き生きさせ、よい状態に保ちさらに成長させていくため、私たちができることのひとつは、ちょっとした、毎日の愛のサインを決めて実行にうつすことです。

週日だと、十分な時間をとって配偶者と対話するといっても私たちにはむずかしいことでしょう。でも、そんなに時間をかけなくとも、お互いに通じ合うことのできるやり方は、ほかにいくらでもあるものです。一日のいつでも実行できる、愛のサインを決め、それを実践していくのなら、たいした時間をとらないはずですよ。ただ、それを実行していくだけの愛があることと、そのサインが、きちんと目に見え感ずけることができれば、必要十分ですよ。

愛のサインというのは、伴侶に贈る、ちょっとした感謝、励

まし、愛情表現などの特定のしるしです。

愛のサインというのは、私たちの中に眠っている愛のエネルギーをあらわにすることです。

愛のサインというのは、言ってみれば、愛をあらわすため何度も繰り返される習慣のようなものです。

愛のサインというのは、私たちの結婚における愛が生きていることの証しとなるものです。

愛のサインというのは、あたかも秘跡（つまり、神が現存し働いていることを意味するだけでなく、そのものが生じている）のようなものです。

自分たちなりの毎日の愛のサインを決めるため、

私たちはどうすればよいでしょうか？

次の簡単な質問に答えてもらえば、自分たちなりの毎日の愛のサインを造り出すことができますでしょう。

今日私は、具体的にはどのようなやり方で、

伴侶に対して愛情と感謝を表現するつもりでしょうか？

みなさんの参考のため、愛のサインの提案を次にリストアップしておきました。自分で考え出すのがむずかしかったら、このどれかを選んで使うことができるわけです。

夫婦がお互いに対してできるちょっとしたこと

朝や、帰宅したとき、あるいは、単純にお互いが愛し合っていることを示すときに、キスしたり、だきしめたりする。

配偶者がウィークエンドの朝寝坊をするのを、ゆるしてあげる。

一緒に朝食をとる。

愛のサインとして電話をかける。職場から、あるいは、出張に出ているとき。

別に大した理由なく、突然花を贈る。

微笑み。目で交わす特別の笑み。

お互いに触れ合ったり、抱き合ったりする。

ちょっとした贈物をしたりして、配偶者をビックリさせる。

自分の配偶者の職場に、ラブ・メッセージを届ける。

曜日を決めて、昼食を一緒にする。

特別な理由で時間を決め、相手を誘って出かける。

相手が必要としていることに関して手助けする。

一緒に何かをする。遊び、旅行、祈り、など。

配偶者を喜ばせるために、個人的に好きなものを我慢する。

帰宅が遅れるときは、必ず電話をいれる。

相手のよさを認め、褒めることはをかけてあげる。

帰宅途中に買い物をしていってあげる。

家で起きている問題の面倒を見る。

家事を平等に分担して行う。皿洗い、掃除、料理、など。

特別の晩をアレンジする。相手を夕食に連れ出す。

夕食後、心暖かい会話を交わす。

何かに関してゆるしを願う、あるいは、ゆるしてあげる。

相手が何か特別な決意をしたとき、サポートを惜しまない。

毎日、お互いに相手に耳を傾ける時間を作る。

相手が帰宅したとき、ドアの所まで迎えに出る。

晩には、配偶者が新聞にゆっくり目を通す時間をあげる。

相手が落ちこんでしまったときでも、お互いに分かち合おうと努める。

相手に甘えすぎない。

♀ 朝になったら配偶者が見れるように、鏡にラブ・メッセージを書いておく。

♀ 配偶者の会社や職場にラブ・レターを郵送する。

♀ 配偶者が何かやりすぎてしまったりハッスルしすぎてしまったとき、プレッシャーをやわらげてあげるようにする。

♀ 相手がそうでないときでも、気持ちのよい親切的態度でいる。

♀ 相手の好物を料理してあげる。

♀ 夕食のあとに配偶者を誘い出して、裏庭のくつろげる場所や家の暖炉のそばに一緒にすわり、あるいは散歩にくなどして、今日あったことを分かち合う。

♀ 相手と一緒にすごしたかったり注意をひきたいときでも、仕事から帰ってすぐは、リラククスしてくつろげるよう、ゆとりをあげる。

♀ 配偶者がその日にあったことを分かち合うときには、よく聴くようにする。

♀ したくないなあと思う雑用をやってあげる。

♀ 相手のことを信頼している態度を示す。

♀ きつい一日だったりしたら、相手の肩を揉んであげる。

♀ 配偶者が会社からかえってすぐは、困っているからと言っても、あれこれいちどきに話したりしない。

♀ お互いが怒ったままで、ベッドに入るようなことはしない。

豊かな結婚をすくすくするためのプログラム

「豊かな結婚をすくすく」とは、どういう意味なのでしょう？

農業を営み野菜などを作っている人がいます。みなさんは、彼らがこんな人だったらどう思われるでしょうか？ 実り豊かな収穫を得られるように、年ごとに、今まで以上により肥料をやるのかすくぐれたやり方で手を加えてやるなど、全然実行しようと思わない、そんな農夫だったら……。ところで、結婚生活を営んでいる夫婦たちは、自分たちの結婚と家族における実り豊かな収穫のために、どうして、手を抜いてしまっているのでしょうか？ 「豊かな結婚をすくすく」とは、結婚のきつなを今まで以上にもっと深く満足の得られるものにしていくことです。さらに、ふたりが結婚生活に習熟することで、困難にあってもひるまず直面し、問題を解決していけるようになることなのです。

「豊かな結婚をすくすくするためのプログラム」とその必要性に関して、一般的に、あからさまに抵抗されることがあるわけではありません。抵抗があるとしても、それはもっと微妙なものです。どれほど価値があるかは無視されているのです。たいてい

の夫婦たちは、「豊かな結婚をすくすく」というと、次のような態度をとります。「ああ、いいですねえ。そういうのを必要としている人がいるんでしょう。でも、うちには、大した問題はありませんから。」

実際、よく見落とされがちなことですが、「豊かな結婚生活をすくすくプログラム」といっても、深刻な問題を抱えたカップルのためのものではない！ ということです。そういう場合には、専門のカウンセラーのところに行く必要があるでしょう。

「豊かな結婚をすくすくするためのプログラム」に対して、ある人が、（なんとなく、いやだなあー）と微妙な抵抗を示すとき、言い逃れの口実のほんとうの意味は、自分たち家族の誰もが、生活の中に生ずる緊張に対して不感症になってしまっている、ということなのです。危機や衝突や問題、あるいは挑戦となる出来事を、どうやって処理していくかについて、私たちはみな、もっとうまくやっていけるはずなのです。このことは、私たちが、他の人と関わりを持ちながら働いたり暮らしているどこの場所に関しても、言えることです。物にあふれた社会の緊張からまったく鈍感でいられるなど、どのカップルにしたってできるわけではないのです。ですから、すべての夫婦たちは、生活の中に生ずる緊張やチャレンジをうまく処理していけるよう、そのやり

方に習熟していくことも、その気になればできるのです。

(1) エンカウンター Ⅱ 「出会いと発見」の意。

そこで、「豊かな結婚をすすするためのプログラム」と、目下さまざまに提供されている手段を利用されてはいかがでしょうか？

マリッジ・エンカウンターとは何でしょうか？

実際のところ、私たちは、夫婦として、このようなプログラムに参加したことがある夫婦たちからの、支えや励ましを必要としているものです。どうすればもっと実りのある生活を送れるようになるのか知る必要があるのです。みなさんが豊かな結婚生活を探求できるように手をお貸しできるものとして、次にあげるような、いつでも利用できるいくつかのプログラムと方法があります。

生活していく上での節目として、暮らしの中にあるもっとも重要な事柄を誠実に考えていくため、そのユニークな機会として私たちが利用できるものです。もっとも重要な事柄とは、私たちの「結婚」についてです。

マリッジ・エンカウンター

みなさんは、ご自分の配偶者と一緒に、特別の週末をすごしてみたいと思いませんか。ふたりきりの静かな雰囲気包まれ、結婚の中にある喜びを心底から分かち合うひとときをすごすのです。もし、みなさんが「ええ、喜んで」と言われるならば、マリッジ・エンカウンター(1)が最適です。

結婚に秘められている可能性としての、愛・一致・清さ・幸せを十分に発展させるよう、私たちにとってチャレンジとなるものです。そのとき、私たちは、神のヴィジョンとご計画を、自分たちの日々の生活において生きていくようになるのです。

各段階ごとに、導入と講話があります。三組の夫婦とひとりの司祭・牧師などがチームを組んで担当します。導入は、あくまで個人的な体験に基づいた証しです。その目的は、エンカウンターに参加している夫婦たちが、チームの証しに触発されて、自分たちの結婚にある、自身の実際の体験に目を向けるようになることです。その後、夫婦は、自分たちの実際の個人的体験をお互いだけで分

かち合います。これは、対話を通して行います。チームの目的とするのは、そうできるよう動機づけすることだけ。実際、参加している夫婦こそ、お互いにエンカウンターを与え合うものなのですから。

♀ マリッジ・エンカウンターは、世界的な規模で行われているものです。もし体験したい方があれば、気軽にお申し込みいただけます。やってみてください。そうすれば、決して忘れることのできないすばらしい体験となることでしょう。

参加した夫婦たちは、どう言っているでしょうか？

♀ 結婚して八年、六人の子供までいるのに、私たちは、恋に落ちてしまいました。そう、もう一度恋に落ちたんです。こんなことは、たぶん初めてです。しかし、どうでもいいことです。ほんとうに大切なのは、マリッジ・エンカウンターに参加してから、私たちの夫婦の共同生活が、新しい意味をもち始めたことです。

♀ 私は、夫と、どうやったらほんとうの自分のことを分かち合えるのか、その方法を探していました。つまり、私

の深い望み、フラストレーション、めざしていることなどをです。でも、どうやっていいのかわからなかったんです。それなのに、今は、新たに始まったんだと感じているところです。

♀ とうとつですが、私は、自分の女房が未知数だと気づいたんです。対話することで彼女がわかってきました。それに、これは、一生かかるプロセスなんだってことも…。お互いに理解することを通して成長していくことが、です。

♀ 私たち、また恋に落ちてしまいました。前にはなかったほど親密さを感じています。

マリッジ・レトルノ

夫婦としてのおふたりが、霊的な次元における成長を願っておられる場合は、マリッジ・レトルノがその答えとなるでしょう。

マリッジ・レトルノとは何でしょうか？

結婚生活を営む夫婦が、お互いと、さらに神との一致の意味を深めることを望んでいる場合、その期待に応える週末の体験をいいます。

夫婦で神に立ち返ることです。レトルノということばは、スペイン語で、回心を意味します。夫婦たちが神に立ち返る機会を提供する、さらに成長をめざした体験です。自分たちの神との関係を高めていくことができます。

夫婦の霊性、ならびに、夫婦としての祈りを深めていくことのできる体験です。

参加した夫婦たちは、どう言っているのでしょうか？

私たちは一緒に祈っていませんでした。信仰体験も別々のものだったんです。妻は外向型ですし、私は、内向するタイプですから、それぞれのやり方で祈っていました。マリッジ・レトルノのプロセスを体験することで、私たちは、神に対してまたお互いに対してのより深い信頼を持つことができるようになりました。

私たちは健全な結婚生活を送っていました。浮き沈みがあるときも一緒に乗り越えていく恵みをいただいていた。しかし、いつも無意識のうちに恐れがあり、そのことをとりあげるのには心を開きたい部分がありました。祈りのうちに心を開き傷つくのがこわいのです。

マリッジ・レトルノを体験することで、神は、私たちが互いに信頼できるよう助けてくださり、過去の出来事のために受けてしまった、心の深いところにある恐れと傷のいくつかをさらけ出すことが、お互いできたのです。今では、主のところにもふたり手をとりあって行くことができ、私たちの信仰も広げられ豊かになりました。

私ら夫婦はふたりとも、聖書を読むなんていうと、前には鼻もひっかけませんでした。かつては、典礼の中でだけ祈りのために聖書を読んでいるだけでした。これは、個人としても夫婦としてもそうでした。それ以外の所で聖書を使ったのは、マリッジ・レトルノが初めてのことです。まったくのどころ目の覚めるような体験でした。歴史的な背景やむずかしい説明なんかなしに、みことばが自由に私たちに語ってくださったんですから。

回心とか誓約ということばが、私たちにとってどういう

意味なかわかり始めたところです。夫婦での祈りのおかげで、もう、回心とか誓約とか聞いてもおびえることがなくなりました。むしろ、もっとおだやかな平和に満ちた喜ばしい暮らしをめざすためのチャレンジなのだと、とらえるようになってきたんです。

☞ 毎日聖書を読むという誓約をし、それを実践したことで、神とお互いに対して、私たちは、より深い誓約を新たにすることができました。

マリッジ・リ・エンカウンター

すでにマリッジ・エンカウンターを体験なさって後、お互いと神と自分の子供たちとの関係を深めたいと願っておられる夫婦のためのものです。子供たちとの和解を実現できるすぐれたチャンスとなります。

FIREsとは何か

(FIRES=FAMILY INTERCOMMUNICATIONS RELATIONSHIPS
EXPERIENCES SERVICESの略)

前述の「豊かな結婚をすすするためのプログラム」はすべて、マリッジ・エンカウンターを創始したガブリエル・カルボ神父によって創立されたFIREs（ファイアーズ）が提供するプログラムです。

FIREsは、文明・人種・信仰を問わず、世界中のすべての家族に手をさしのべる『奉仕』です。

FIREsは、家族の中に眠っている核融合的な愛のエネルギーを見つけたし、それをスパイラルのような開かれた心を持って、他の人々・家族に広げていこうと願うすべての人々・家族が使えるものです。

FIREsは、いわゆる、運動ではありません。組織でもありません。家族・地域社会・自分の所属する教会・家族に対する奉仕職に関心のある人たち、を手助けするためのものです。

つまり、FIREES自体が、『奉仕』なのです。

FIREESは、次のような確信をその精神として持っています。

つまり、

神ご自身が、人類社会の歴史を変革しようと、

ご自身の神秘的で偉大な愛を、

私たち家族の中に備えてくださいました。

備えられているこの愛を見いだし、

炎（ファイアーズ）が燃えあがるように他に奉仕していく

には、

深い通じ合いと人間関係を欠くことはできません。

この精神の啓示は、

聖書の中に、あるいは、ときのしるしの中に、

見いだすことができます。

以下に、FIREESが奉仕の精神に基づいて提供している二十種類にのぼるプログラムのうちから、いくつかのプログラムを掲載しておきます。

S A D E (サデー)

(SAD=SONS AND DAUGHTERS ENCOUNTERS略)

中学生以上の若者のためのものです。中学生、高校生、それ以上の年齢の青年、と別々にそれぞれ開催しています。ひとり人間として、神の子として、家族のメンバーとして、さらに、将来自分自身が家族を造り上げていく責任ある人間として、自分自身に出会うチャンスを提供するものです。このエンカウンターで自分の体験を分かち合うことで奉仕する子供たちは、S A D Eを体験した後トレーニングを受けており、みなさんのお子さんたちと同じ希望にあふれた若者です。

S A D E の レ ト ル ノ

すでにS A D Eを体験した若者たちに、聖書を通して神により深く出会うチャンスを提供するものです。

婚約者のエンカウンター

これから結婚しようとしている婚約者、あるいはおつきあいしている相手との結婚を考えているおふたり、さらに新婚でまだ三年たっていないご夫婦が、家族の心臓部分ともいえる「夫婦」の召命について深く認識し、その使命を識別するためのチャンスを提供するものです。

ファミリー・エンカウンター

スパイラルのような開かれた心を持った、愛のエネルギーに満ちあふれた家族…。そんな家族になりたいと思っっている方には、そのチャンスを提供する「家族ぐるみのエンカウンター」です。この体験によって、家族の中に深い和解と一致が生まれてきます。



FIRE Sの前述それぞれのプログラムは、全国各地で、それぞれの地域担当者によって開催されていますが、開催日程・場所など詳細なインフォメーションをお知りになりたい方は、以下のあて先まで、郵便で、ご連絡ください。

ダナン・マリーリー神父

(FIRE S全プログラムの

日本における代表責任者)

〔連絡先〕

〒一〇六 東京都港区六本木4-2-37

フランススキャン・チャペル・センター

ダナン・マリーリー神父宛

著者 ガブリエル・カルボ神父紹介



「どの夫婦の心の中にも、神の愛のエネルギーが眠っています。それが解放されるならば、地球上をおおう、ほんとうの意味での愛の革命が始まるでしょう。しかし、このエネルギーが生み出されるためには、夫婦が、自分たちの感じていることや生活のすべてを、一緒に通じ合う体験をし、より深い分かち合いがなされる必要があるのです。ほんのちょっとやれば、それで実現するようなことではありません。むしろ、多くの時間を費やし、何日もかけて、分かち合い対話することを通して、なされていくものです。こうして、真の愛の革命が始まります！」

この力強い信念に支えられて、マリッジ・エンカウンターの創始者であるガブリエル・カルボ神父は、夫婦と家族たちを手

助けする使命に自分の生涯を捧げました。

F I R E S (Family Intercommunications Relationships Experiences Services) をつくりあげ、たくさんの種類のプログラムを発展させてきました。その中には、子供たちのためのエンカウンターである S A D E (Sons and Daughters Encounter) や、家族ぐるみでのエンカウンターであるファミリー・エンカウンターも含まれています。

このワークブック「顔と顔を合わせて」は、カルボ神父の夢をひとつにしたものです。その夢とは、エンカウンターを体験する機会を、世界中に住んでいるすべての夫婦や家族の家庭にまでもたらすことです。

彼は、無駄のないことばづかいで、こう述べています。「エンカウンターに隠されている神祕は、神のみことばの中に見いだされるものです。感覚や感情の中にはありません。エンカウンターは、あらゆる結婚生活、特に、これを必要としている人たちのためのものです。誠実な夫婦たちならば、困難にさらされるのがたくさんあるにちがいない、と認めるべきです。キリストは、『善人』や『健康な人』を助けるために来たのではなくありません。彼はこう言っています。『私は、病人を癒すために来た』と。」

カルボ神父は、現在、アメリカ合衆国・ワシントンDCに在住しています。



「カルボ神父は、まさしく、豊かな結婚をすすするための運動のパイオニア的存在です。一九六二年当時から、彼ははっきりとこう見通していました。すなわち、人間社会の質を決めるものは、家族生活の質であり、家族生活の質は、結婚生活を営む夫婦たちがお互いどれほど信用し信頼しているかによるものだ。この先見の明は、その後の彼の、世界中に向けたメッセージとなっっています。これは、かつて一度も言われたことのないことで、現代にのみもたらされたメッセージといえます。」

デイヴィド・メイス博士

ACME (*1) 創立者

(*1) ACME // The Association for Couples in
Marriage Enrichmentの略。

日本語版あとがき

日本語版監修　ダナン・マーリー神父

「本」が書かれる目的は、たいていの場合、読者を楽しませること、あるいは、本の作者自身が重要と考えている特定の思想や知識を読者に提供すること、といえるでしょう。

言うまでもありませんが、本をこのような動機から書くことは悪いことではありません。しかしながら、「意義深くまた永続的な変革が人生にもたらされるのは、知識を多く提供することによるのではない！」と言っても過言ではありません。求められているのは、知識としての情報を得ることではなく、まず、心で実際に体験をすることなのです。

さて、カルボ神父様が「はじめに」で指摘されておられるとおり、この「本」の目的は、知識を提供することではなく、結婚生活において、読者ならではの自分の体験をみなさんが得ることにあるのです。そのような体験があれば、何が成長で何が退歩か、何が成功で何が失敗か、何が幸せで何が不幸せなのか、

その違いをはっきり見わけられるようになるでしょう。

結婚に関する神学的な知識を夫婦がより増やしていくことを期待しているわけではありません。夫婦たちがこの本を実際に利用して、実りある体験をしてほしいのです。こうした体験あつてこそ、「結婚生活について、できるだけ学びたい！」と自然に思うようになるでしょう。ですから、単にこの本を、一般的な知識をつめこむために使うのではなく、むしろ個人の発見のために使うべきです。

マリッジ・エンカウンターおよびFIREESに携わって二十年以上がたちました。私は、心底から、次のように申し上げることができません。つまり、心で実際に体験することもなく知識だけ増やしたおかげで変化成長できた夫婦など、私は見たことがない、ということなのです。逆に、自分自身を発見するという体験をしたからこそ生まれ変わった夫婦たちを、教えきれないほど目にしてきました。

この「本」を、善意と謙遜の心から利用するすべての夫婦のみなさんが、それぞれ、このようなすばらしい変化を味わえることを、私は心から希望しています。

顔と顔を合わせて

—より幸せな夫婦になるには—

1993年 4月11日復活の主日 発行

著 者 ガブリエル・カルボ
日本語版監修 ダナン・マーリー(O. F. M.)
翻訳協力 樋口貞三
小松益弘
印刷所 群馬書籍印刷株式会社
〒370 高崎市島野町890-5
☎0273-52-2822
